ActiveVisor™

セットアップガイド

第 3 版 2025 年 5 月

Actiphy

目次

1. はじめに 3
2. ActiveVisor のインストールと初期設定 4
2-1. ActiveVisor のインストール 4
2-2. ActiveVisor の初期設定 6
2-3. 管理対象コンピューターの検出 8
2-4. 検出されなかったコンピューターの追加 11
3. クライアントへの ActiveImage Protector のプッシュインストール 14
3-1. 事前の準備 14
3-2. プッシュインストールの実行 15
3-3. パッチのプッシュインストールの実行 21
4. バックアップタスクのテンプレート作成とデプロイ(展開) 25
4-1. スケジュール テンプレートの作成 25
4-2. バックアップ テンプレートの作成 27
4-3. 管理対象コンピューターにテンプレートのデプロイ 32
5. ActiveVisor による監視 36
5-1. ［ダッシュボード］タブ 36
5-2. ［クライアント］タブ 36
5-3. モニタリング 40
6. ActiveVisor による管理 43
6-1. エージェントレス バックアップ 43
6-2. ファイル復元 51
6-3. バックアップの起動確認：BootCheck 54
6-4. バックアップ ファイルの複製：イメージのコピー 56
6-5. Web コンソール 60
6-6. リモート管理コンソール接続 62
6-7. RescueBoot のリモート操作 63
6-8. QuickRecovery のリモート操作 65
6-9. リモート復元機能：RescueBoot 起動したコンピューターへの復元 69
6-10. リモート復元機能：PXE 起動したコンピューターへの復元 72
7. APPENDIX 76
サポート情報の取得方法 76
ActiveVisor 参考情報 78

1. はじめに

ActiveVisor は、ActiveImage Protector が導入されているコンピューターのバックアップ状況の監視やプッシュインストール、バックアップタスクの配信等を統一した方法で集中管理できる統合管理コンソールです。
このセットアップガイドでは、ActiveVisor の導入から基本的な設定方法などを説明しています。

1. 詳細な設定方法や制限事項などについては、以下のオンライン ヘルプの web ページを参照してください。
   https://webhelp.actiphy.com/ActiveVisor/v8/ja_JP/

2. 導入先のコンピューターが、ActiveVisor のシステム要件を満たしていることを確認してください。なお、ActiveVisor のシステム要件は、以下のシステム要件の web ページを参照してください。
   https://www.actiphy.com/ja-jp/product/activevisor/#system-requirements

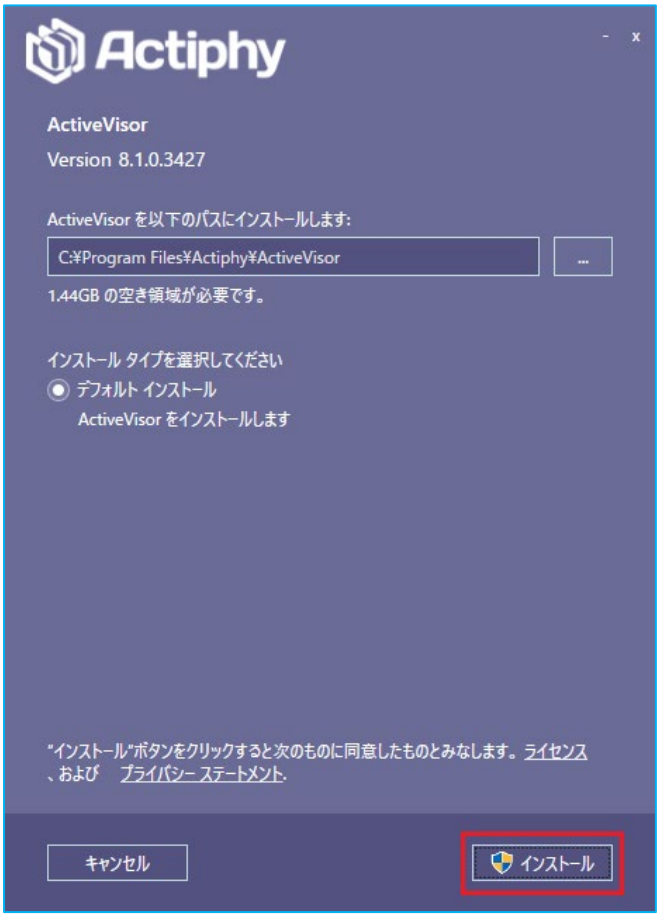
※　ActiveVisor から管理をおこなうために必要な管理対象コンピューター側の設定は以下の通りです。

- ファイアウォール設定で［Windows Management Interface（WMI）］が許可されている。
- ファイアウォール設定で［ファイルとプリンターの共有］が許可されている。
- グループ ポリシーでファイアウォール設定が定義されている場合は、［グループ ポリシーオブジェクト エディター]から、［ネットワーク］-［ネットワーク接続］-［Windows ファイアウォール］ で、[Windows ファイアウォール：着信ファイルとプリンターの共有の例外を許可する]と［Windows ファイアウォール：着信リモート管理の例外を許可する］が有効になっている。

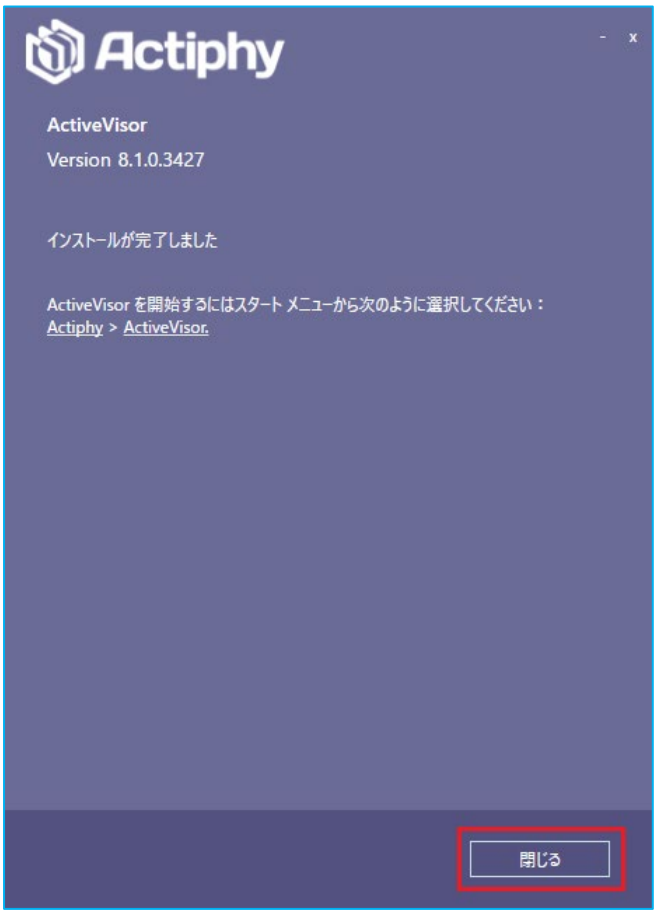
2. ActiveVisor のインストールと初期設定

2-1. ActiveVisor のインストール

1. ActiveVisor のインストーラー（Setup.exe）を実行します。インストーラーが起動したら［インストール］をクリックするとインストールが開始されます。

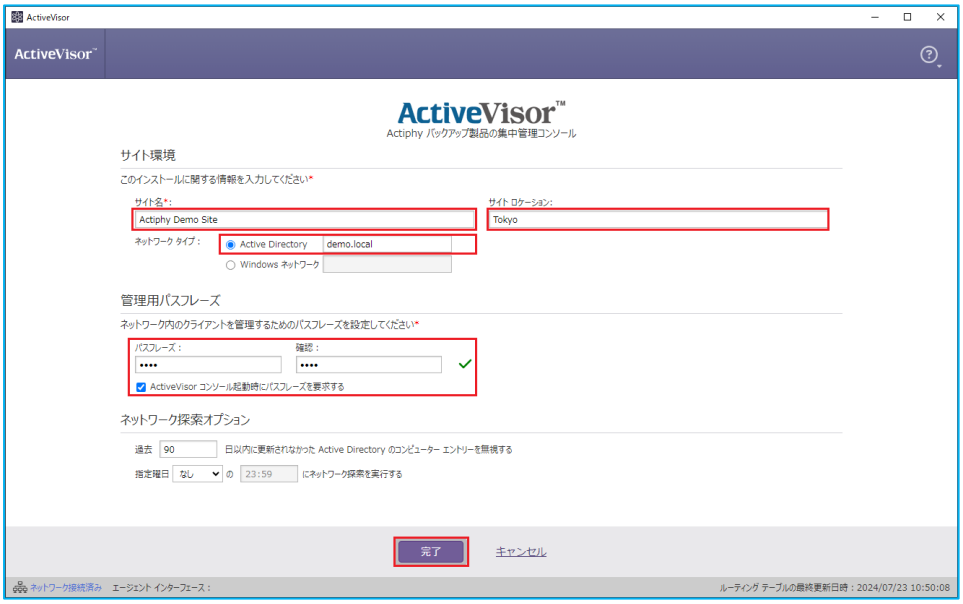


2. インストールが完了したら［終了］をクリックします。
   システムの再起動は不要です。



2-2. ActiveVisor の初期設定

1. Windows スタートメニューから［Actiphy］ → ［ActiveVisor］をクリックして ActiveVisor を起動します。インストール後、初回起動時は以下の基本情報の設定を行います。ここでの設定例として、[ネットワーク タイプ]は、［Active Directory］を選択します。



2. サイト環境の設定

・サイト名：
この ActiveVisor が管理するサイトの名前を設定します。

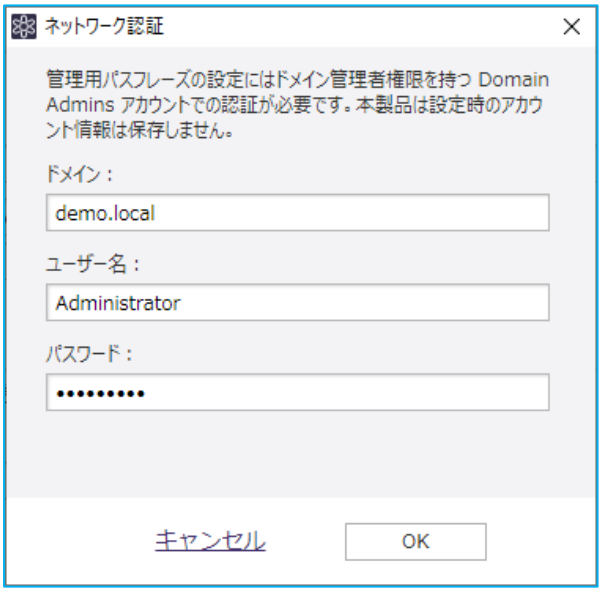
・サイト ロケーション：
この ActiveVisor が存在する場所に関する説明を設定します。

・ネットワーク タイプ：
管理するコンピューターの情報取得方法を設定します。

- Active Directory：
  Active Directory からドメインメンバーのコンピューター情報を取得し、ActiveVisor のクライアントリストに追加登録します。ドメイン名はフルパスで指定します。
- Windows ネットワーク：
  Administrator を管理用認証情報として設定し、同一ネットワーク上の管理対象コンピューターを個別に追加登録します。

3. 管理用パスフレーズの設定

ネットワーク タイプで 、[Active Direcotory]を選択した場合は設定する必要があります。 ここで設定したパスフレーズは、Active Direcotory から追加されたドメインメンバーのコンピューターを管理する際に使用します。 パスフレーズを設定するためには、ドメインの Administrator、または Domain Admins グループのアカウントで認証を行います。



4. ネットワーク探索オプションの設定

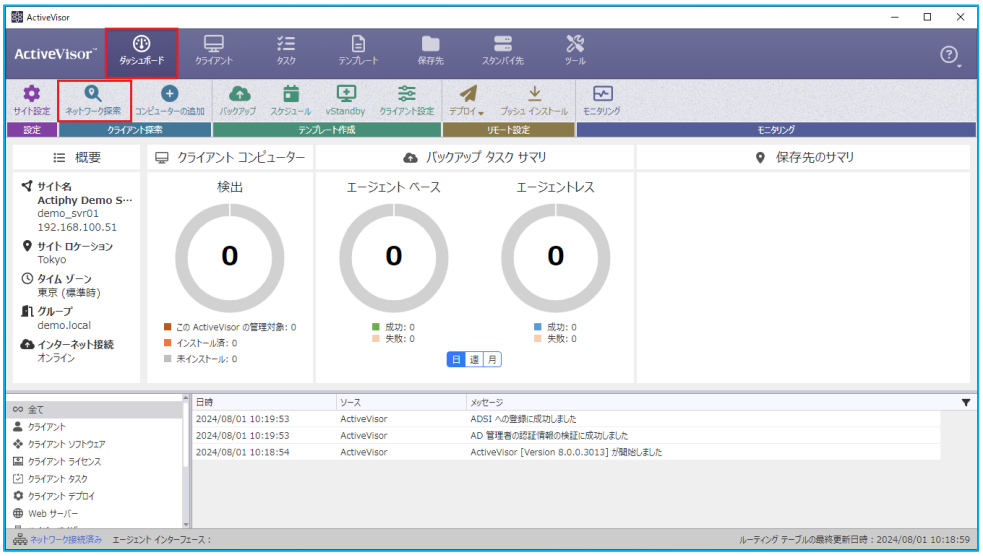
ネットワーク探索オプションは、必要に応じて設定します。

・過去 xx 日以内に更新されなかった Active Direcotory のコンピューター エントリーを無視する。
Active Direcotory から取得したコンピューターのうち、指定した日数以内にログオンした履歴のないコンピューターは、ActiveVisor のクライアントリストへの追加対象から除外されます。

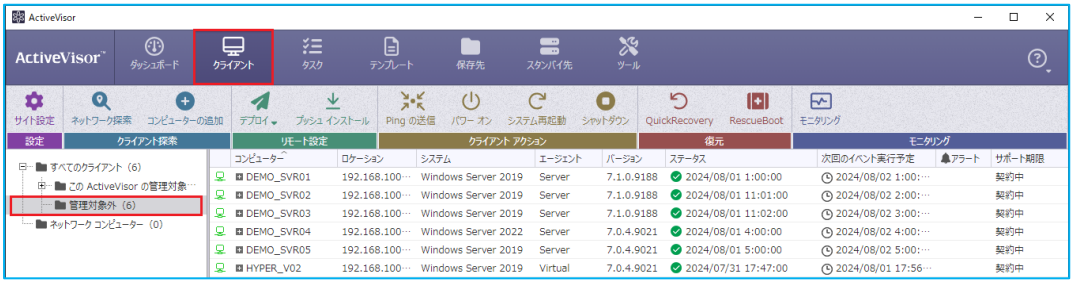
・指定曜日/時刻にネットワーク探索を実行する 指定曜日/時刻にネットワーク探索が実行されます。
ネットワーク探索は、Active Directory からドメインメンバーのコンピューター情報を取得し、ActiveVisor のクライアントリストに自動で追加登録することができます。ネットワーク探索を自動実行する曜日/時刻を設定できます。［なし］を選択すると自動探索は実行されません。

2-3. 管理対象コンピューターの検出

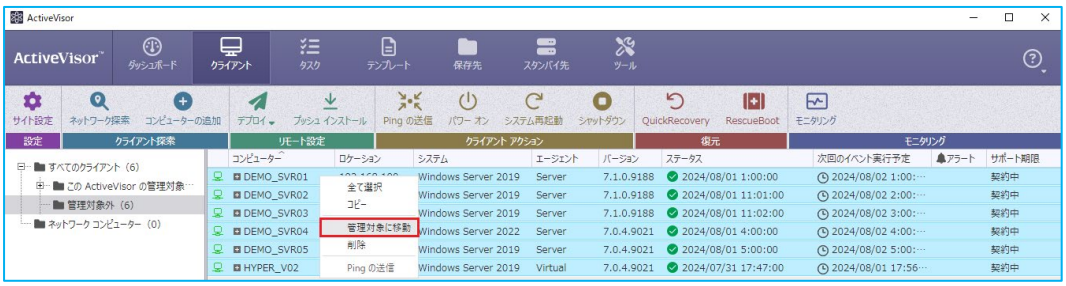
1. トップメニューの[ダッシュボード]タブを選択し、操作リボンメニューの[ネットワーク探索]タブをクリックします。初期設定でネットワーク タイプに［Active Direcotory］を選択した場合は、ドメイン内で探索を行い ActiveVisor のクライアントリストに追加します。［Windows ネットワーク］を選択した場合は、同一ネットワーク内で探索を行ってクライアントリストに追加します。



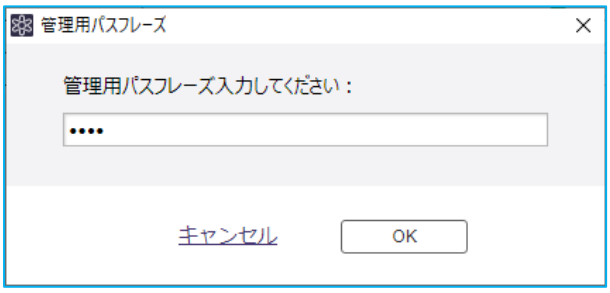
2. ネットワーク探索で検出されたコンピューターは、トップメニューの［クライアント］タブから確認することができます。ActiveImage Protector のエージェントがインストールされているコンピューターは、クライアントリストの［管理対象外］に追加されます。ActiveImage Protector のエージェントがインストールされていないコンピューターは、［ネットワークコンピューター］に追加されます。



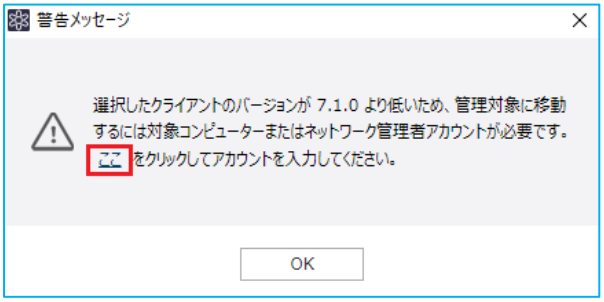
3. コンピューターを管理対象にするには、[管理対象外]に追加されたコンピューター名を右クリックして、コンテキストメニューから［管理対象に移動］をクリックします。複数のコンピューターを選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。



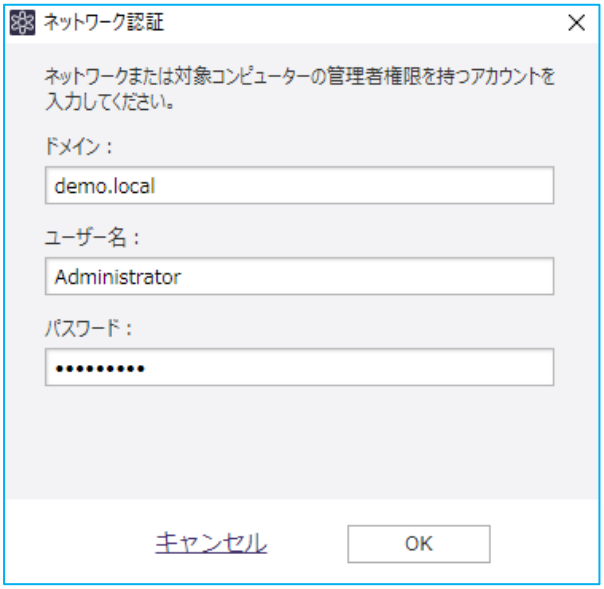
4. 管理対象への移動時には、ActiveImage Protector のエージェントのバージョンが 7.1 以降の場合は、以下のダイアログが表示されます。初期設定で設定した、管理用パスフレーズで認証を行うと選択したコンピューターが管理対象に移動します。



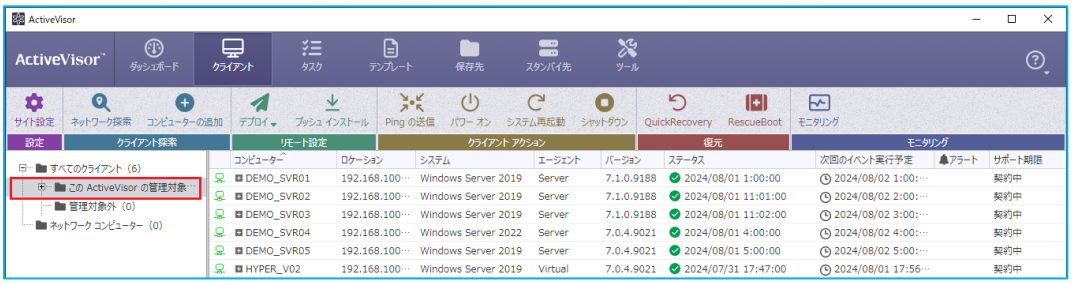
5. ActiveImage Protector のエージェントのバージョンが 7.1.0 より低い場合は、以下のダイアログが表示されます。メッセージ内の[ここ]の部分をクリックします。



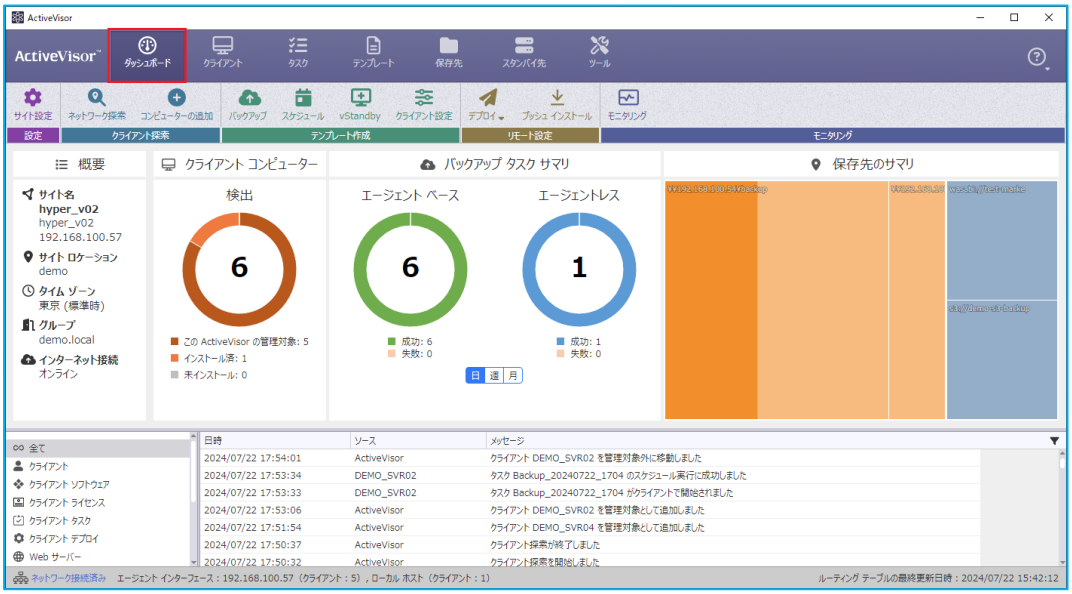
6. 次に、管理対象コンピューターの管理者、またはネットワーク管理者のアカウントで認証を行うと選択したコンピューターが管理対象に移動します。



7. 選択したコンピューターがクライアントリストの[この ActiveVisor の管理対象]に追加されます。



8. トップメニューの［ダッシュボード］タブには、検出されたコンピューターの数、タスクの状況、保存先ストレージの状態などが表示されます。



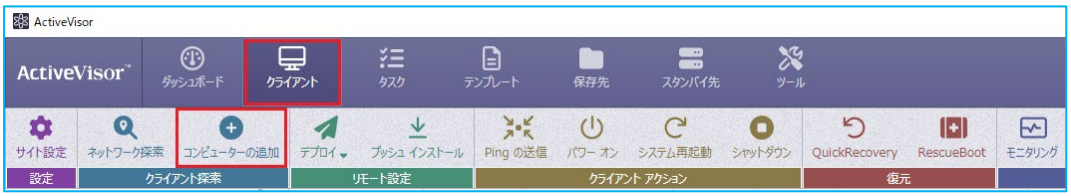
・ クライアント コンピューター
ドメインに登録されている検出されたコンピューターの数が表示されます。

・ バックアップ タスク サマリ
ActiveImage Protector がインストールされているエージェントベース、および「HyperAgent」による仮想マシンのエージェントレス バックアップのタスクの成功/失敗の件数が表示されます。また、日/週/月単位で表示することができます。

・ ストレージ統計
管理対象のコンピューターが使用しているバックアップ保存先のストレージが表示されます。マウスオーバーすると容量や使用領域が表示されます。

2-4. 検出されなかったコンピューターの追加

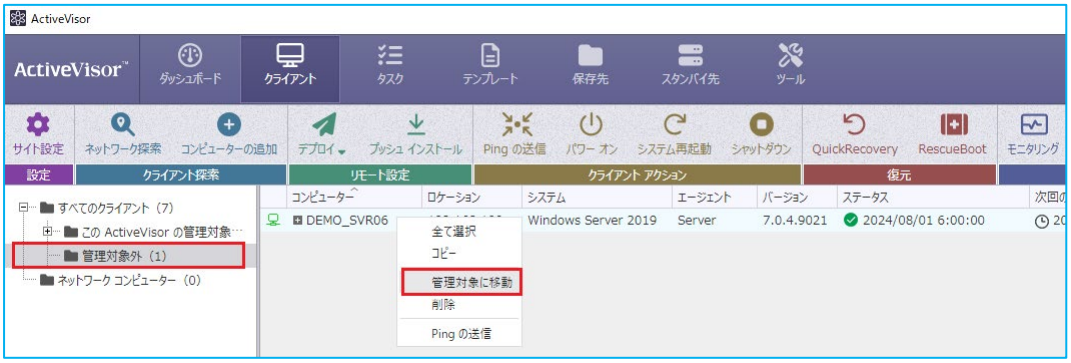
1. 検出されなかったコンピューターや「WORKGROUP」のコンピューターは個別に追加を行います。トプメニューの[クライアント]タブを選択し、操作リボンメニューの［コンピューターの追加］タブをクリックすると、コンピューターの追加ウィザードが起動します。



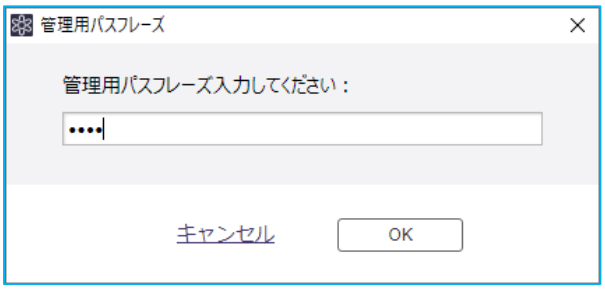
2. ここでの設定例として、ActiveImage Protector のエージェントがインストールされている、「WORKGROUP」のコンピューター「demo_svr06」を管理対象に追加します。［ホスト名、または IP アドレス］に、コンピューター名「demo_svr06」、［管理者ユーザー名］に「demo_svr06¥Administrator」、［パスワード：］に設定されているパスワードを入力してから、［接続］をクリックすると接続が確立されます。次に、［コンソールに追加］をクリックすると、クライアントリストに追加されます。



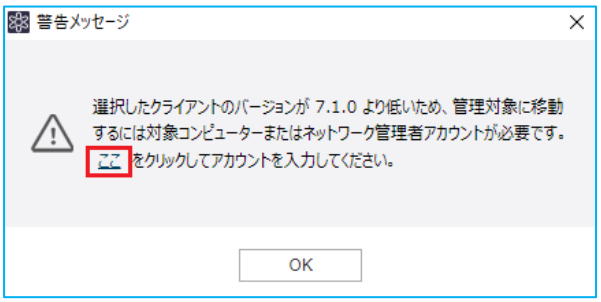
3. ここで追加したコンピューターは「管理対象外」に追加されますので、コンピューター名を右クリックして、コンテキストメニューから［管理対象に移動］をクリックします。



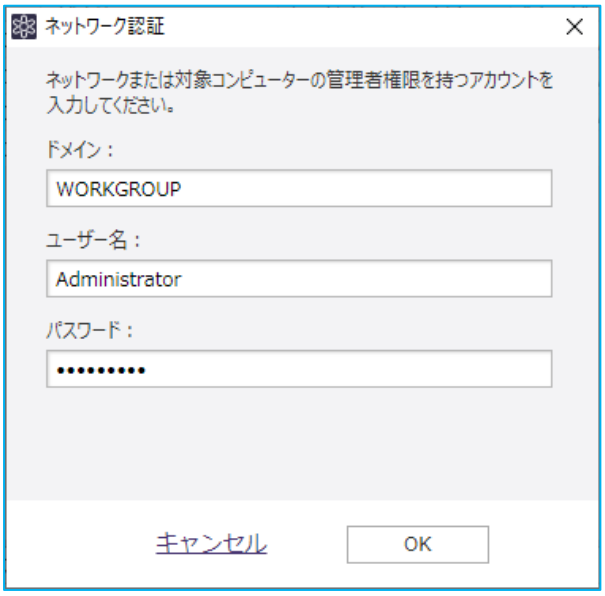
4. 管理対象への移動時には、ActiveImage Protector のエージェントのバージョンが 7.1 以降の場合は、以下のダイアログが表示されます。初期設定で設定した、管理用パスフレーズで認証を行います。



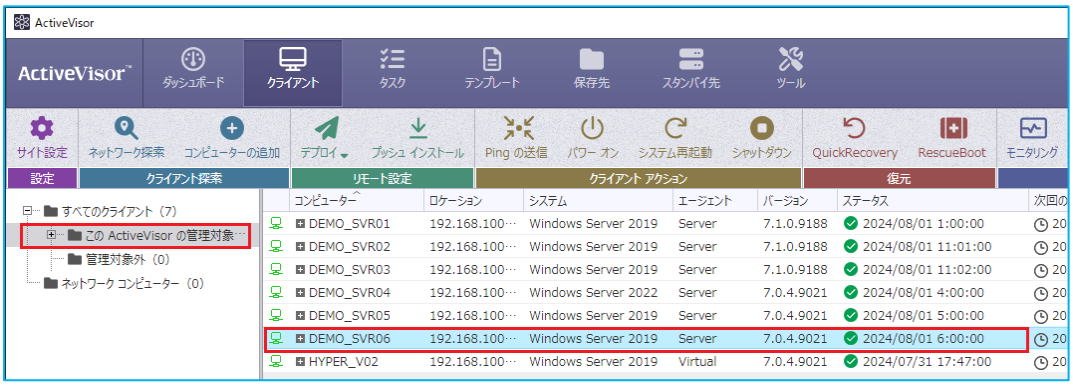
5. ActiveImage Protector のエージェントのバージョンが 7.1.0 より低い場合は、以下のダイアログが表示されます。メッセージ内の[ここ]の部分をクリックします。



6. 次に、管理対象コンピューターの管理者、またはネットワーク管理者のアカウントで認証を行います。



7. 「WORKGROUP」のコンピューター「demo_svr06」が「管理対象」に追加されます。



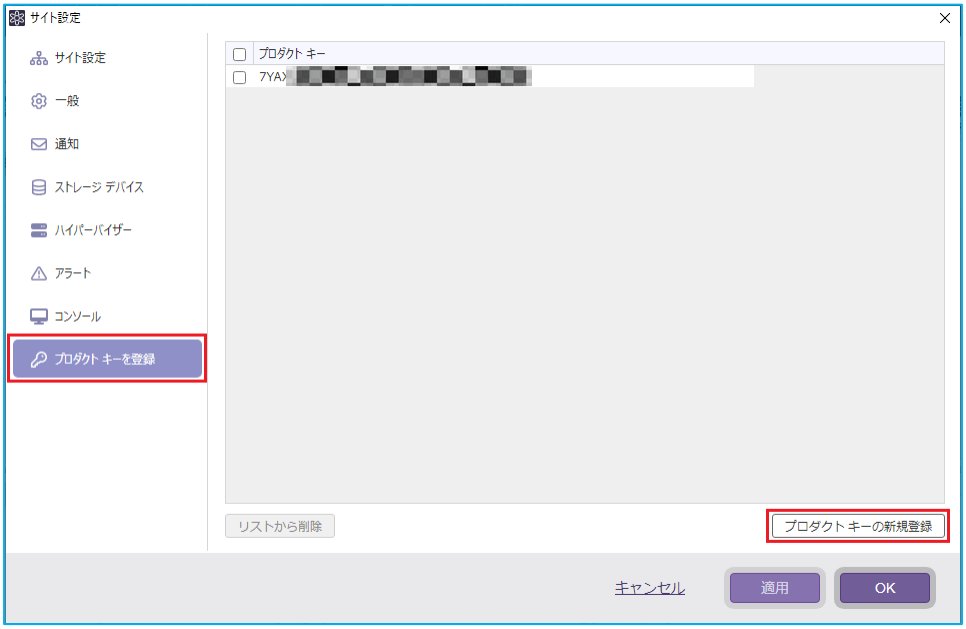
3. クライアントへの ActiveImage Protector のプッシュインストール

ActiveVisor は、一括で対象のコンピューターに ActiveImage Protector のプッシュインストール/アップグレード、およびアンインストールを行うことができます。ここでは、ActiveVisor から対象のコンピューターに、ActiveImage Protector のプッシュインストール手順について説明します。

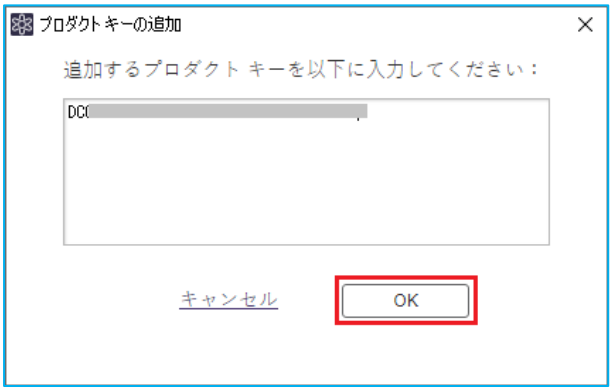
※ActiveVisor からプッシュインストールした ActiveImage Protector をローカルコンピューターでアンインストールする場合は、アンインストーラーをサイレントモードで実行します。例：コマンドプロンプト上で “C:¥Program Files¥Actiphy¥ActiveImage Protector¥uninstaller.exe” /qn を実行します。

3-1. 事前の準備

1. 最初に、ActiveVisor がインストールされているコンピューターからアクセスできる場所に、ActiveImage Protector のインストーラー（Setup.exe）とパッチを適当なフォルダー（ここでは E:¥work）にコピーします。
2. 次に、ActiveImage Protector のプロダクトキーを ActiveVisor に登録します（プッシュインストールの実行時に、自動的に入力されアクティベーションが行われます）。登録は、トップメニューの［サイト設定］タブ－［プロダクトキーを登録］タブを選択します。この時点で、ActiveImage Protector がインストール済みのコンピューターが追加されていれば、そのライセンス情報が表示されます。新たなプロダクトキーを登録するには、右下にある［プロダクトキーの新規登録］をクリックします。

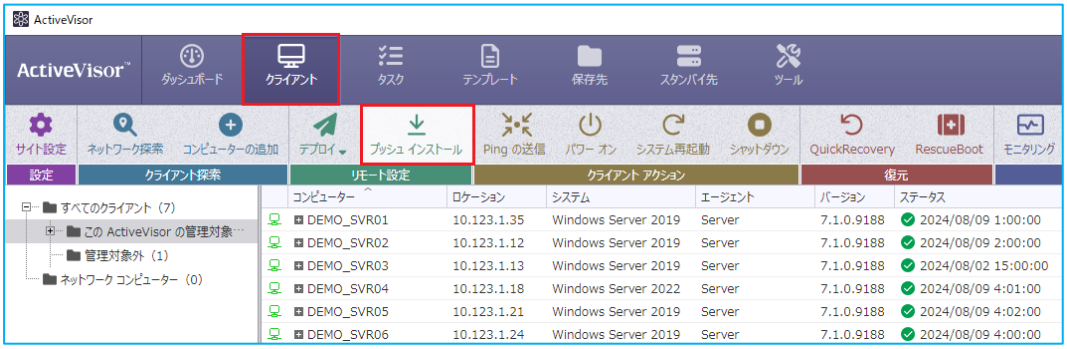


3. プロダクトキーを追加するダイアログボックスが表示されますので、プロダクトキーを入力して［OK］をクリックします。ここでの設定例として、「Server」のプロダクトキーを登録します。

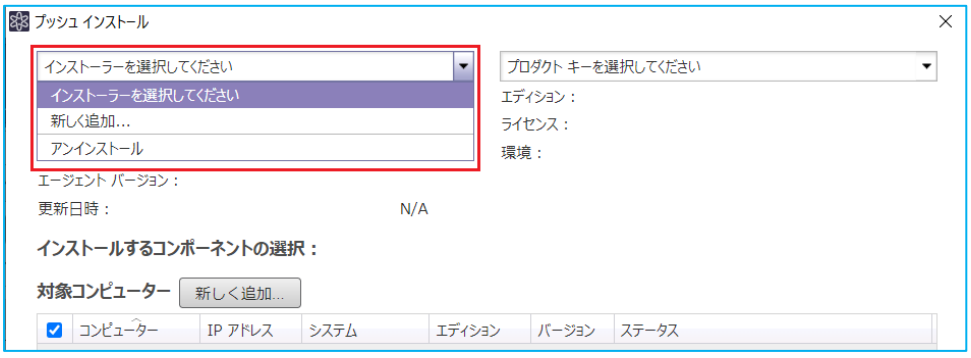


3-2. プッシュインストールの実行

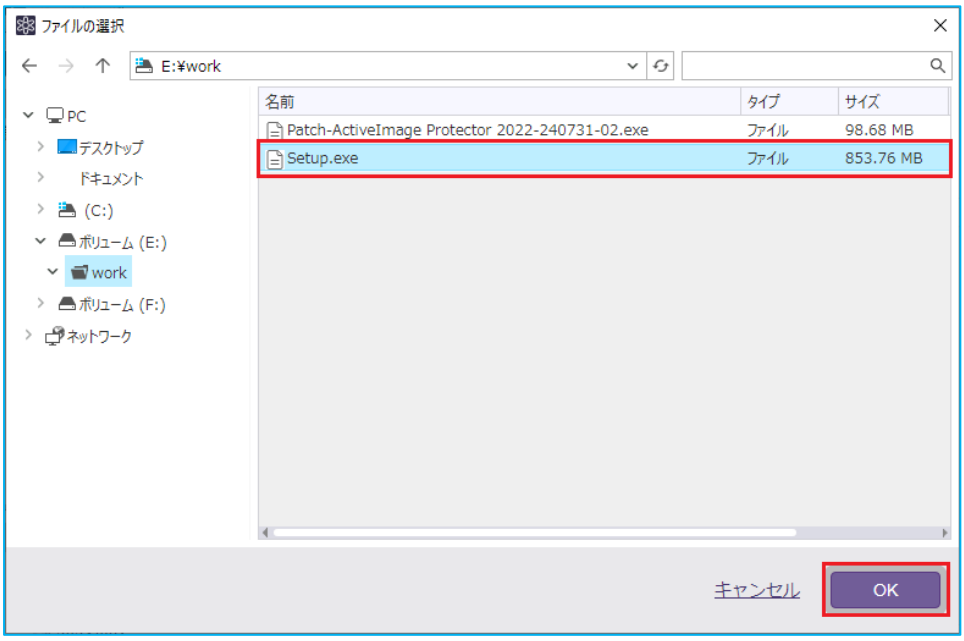
1. トップメニューの［クライアント］タブを選択し、操作リボンメニューの[プッシュ インストール]タブをクリックすると、プッシュ インストールのウィザードが起動します。



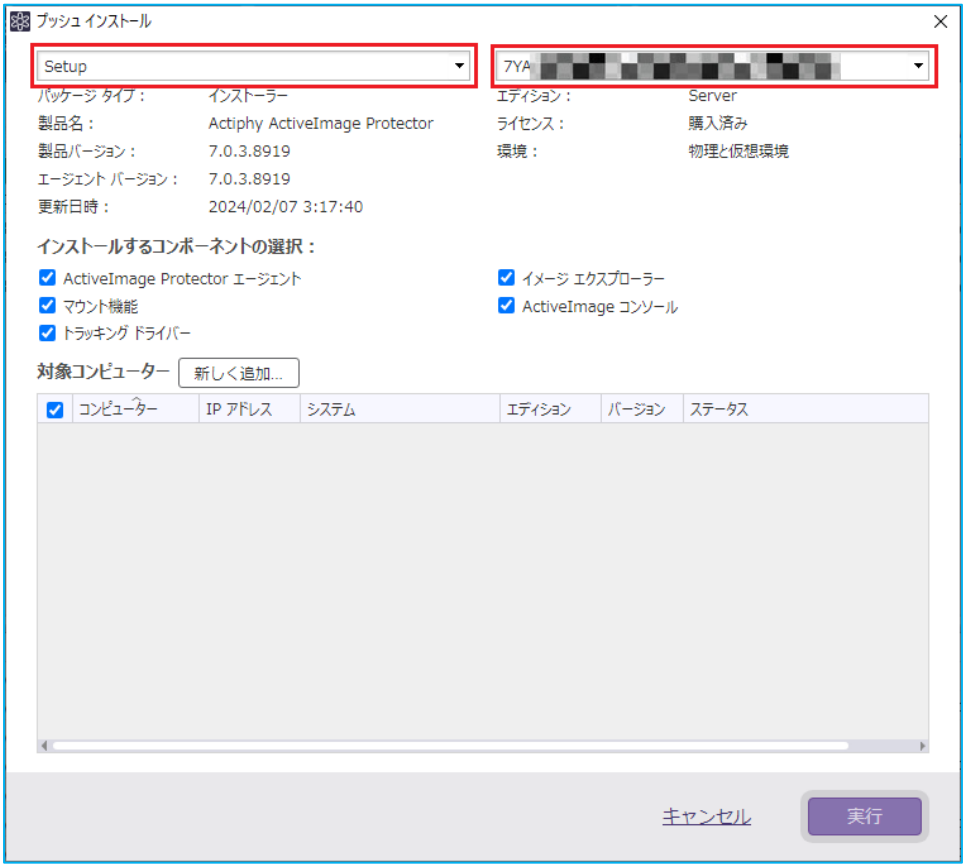
2. インストールするパッケージの選択になりますので、［インストーラーを選択してください］のテキストボックスの右端の［▼］をクリックし、［新しく追加］を選択します。



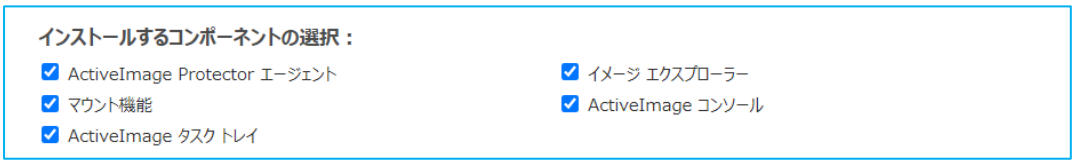
3. 前項の 3-1.で準備した ActiveImage Protector のインストーラー（Setup.exe）を選択して、［OK］をクリックします。



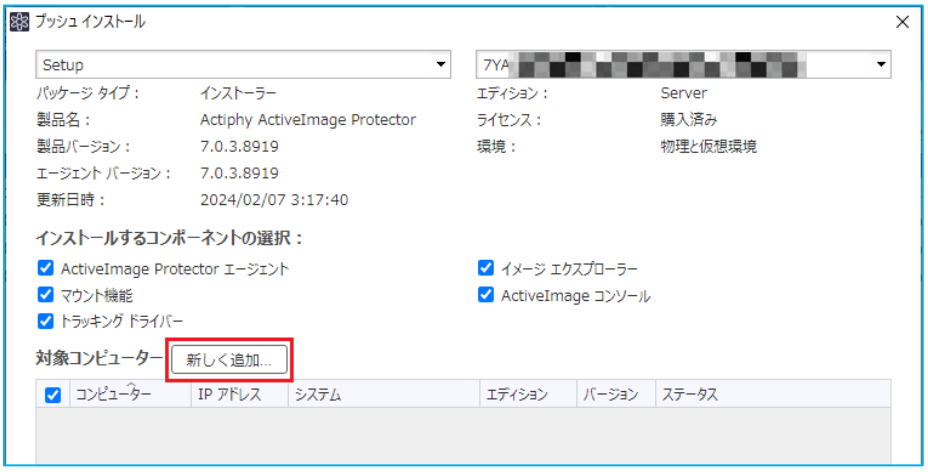
4. プッシュインストールの設定を行います。［インストーラーを選択してください］に、プルダウンメニューから登録したインストーラー「Setup.exe」と［プロダクトキーを選択してください］には、前項の 3-1.で登録した「Server」のプロダクトキーを選択します。



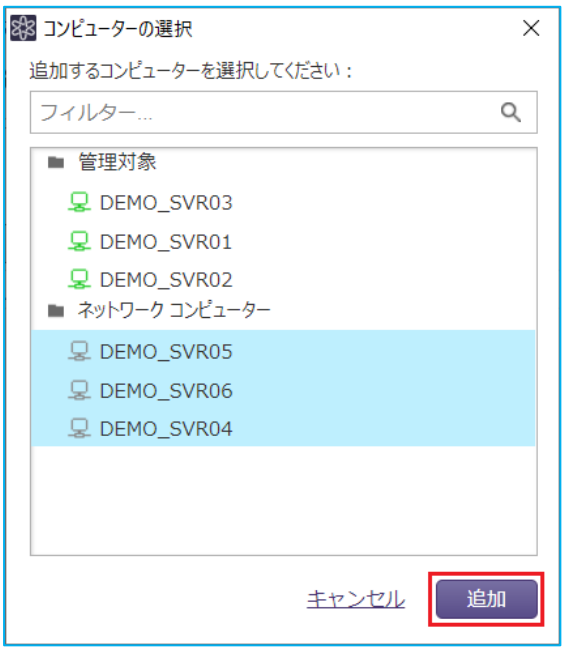
5. ［インストールするコンポーネントの選択：］では、プッシュインストールするコンポーネントを選択します。ここでの設定例として、「マウント機能」、「ActiveImage タスクトレイ」、「イメージエクスプローラー」、「ActiveImage コンソール」の全てのコンポーネントを選択します。



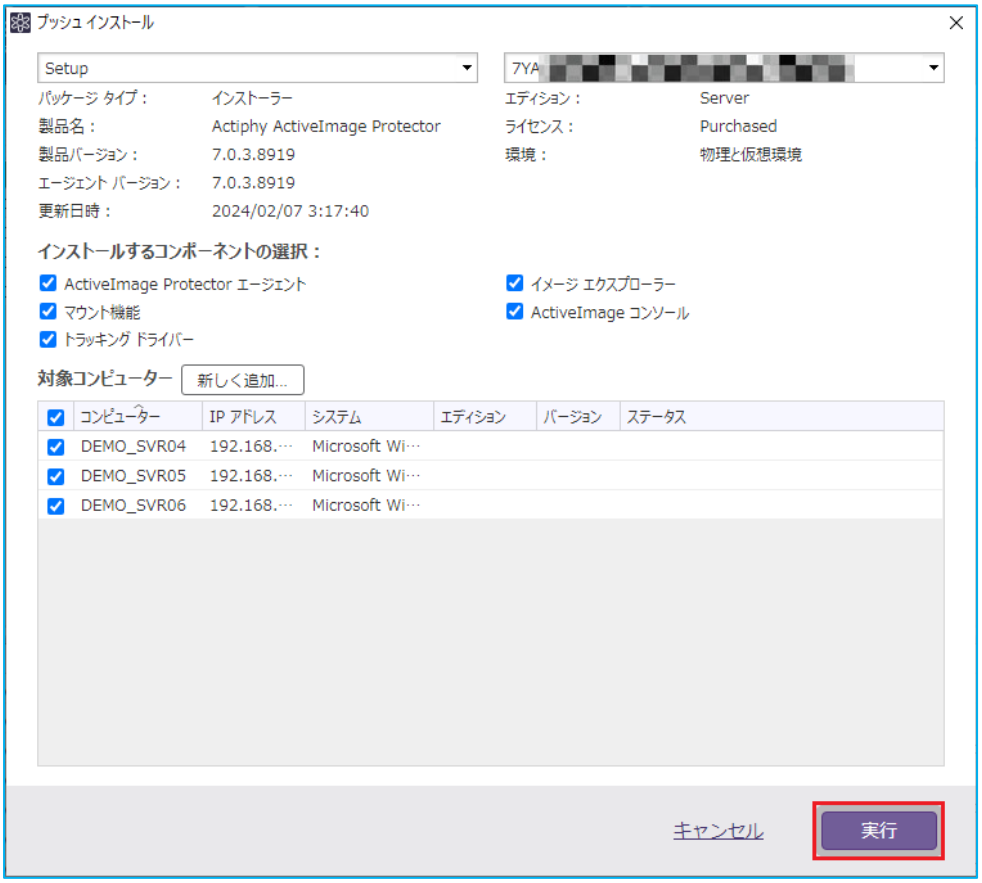
6. 次に、プッシュインストール先のコンピューターを設定します。「対象コンピューター」の［新しく追加］をクリックします。



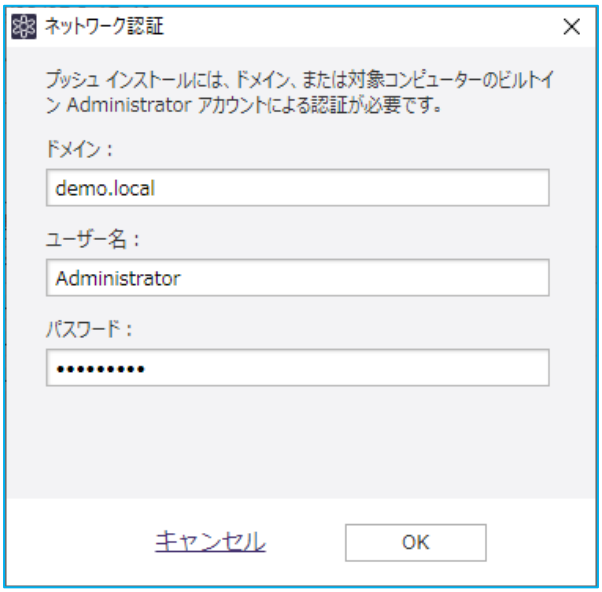
7. 管理登録されているコンピューターが表示されます。ActiveImage Protector のエージェントがすでにインストールされているコンピューターはアイコンがグリーン、インストールされていないコンピューターは「ネットワーク コンピューター」に登録されていてアイコンがグレーになっています。ここでは、ActiveImage Protector のエージェントがインストールされていないコンピューターを選択し、［追加］をクリックします。複数のコンピューターを選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。



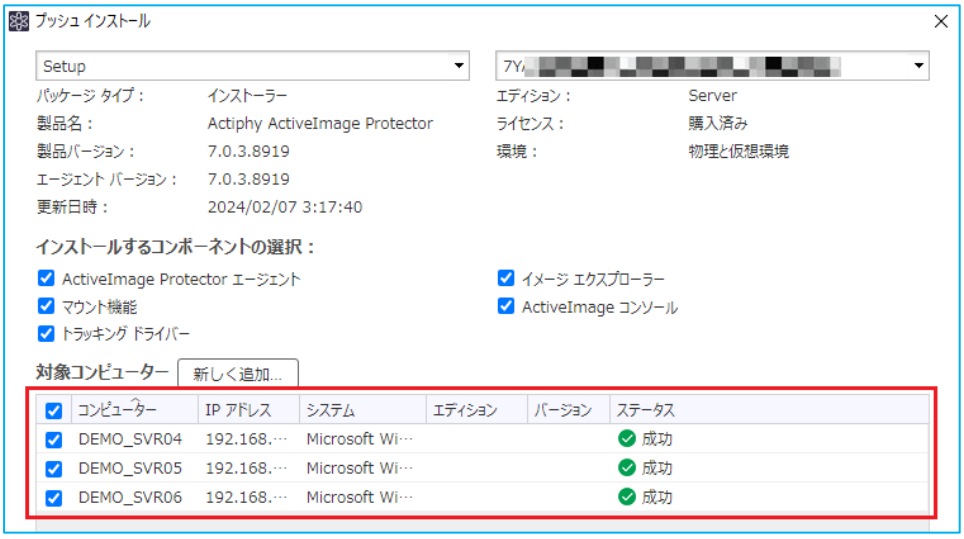
8. 「対象コンピューター」に、プッシュインストール先のコンピューターが登録されます。［実行］をクリックします。



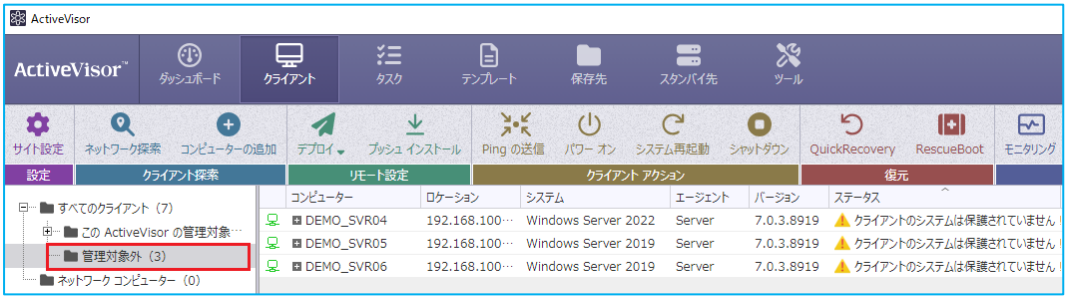
9. プッシュインストールを実行するには、ドメイン、または管理対象コンピューターの Administrator アカウントによる認証を行います。



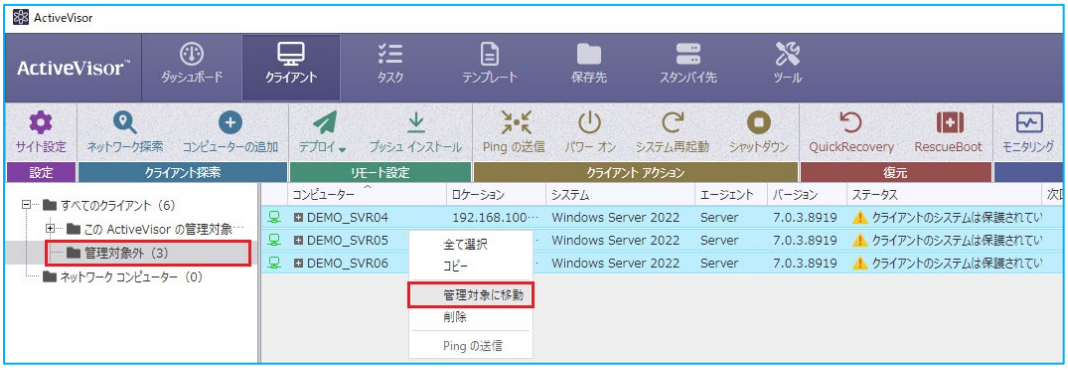
10. プッシュインストールが完了すると、以下のようになります。［閉じる］をクリックして終了させます。



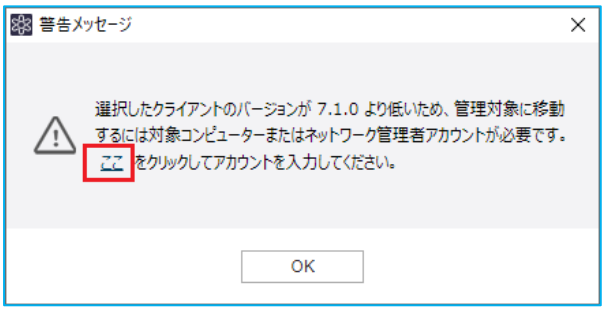
11. ActiveImage Protector のエージェントのプッシュインストールが完了したコンピューターは、クライアントリストの［管理対象外］に追加され、アイコンがグリーンになります。また、エージェントの種類やバージョンが表示されます。



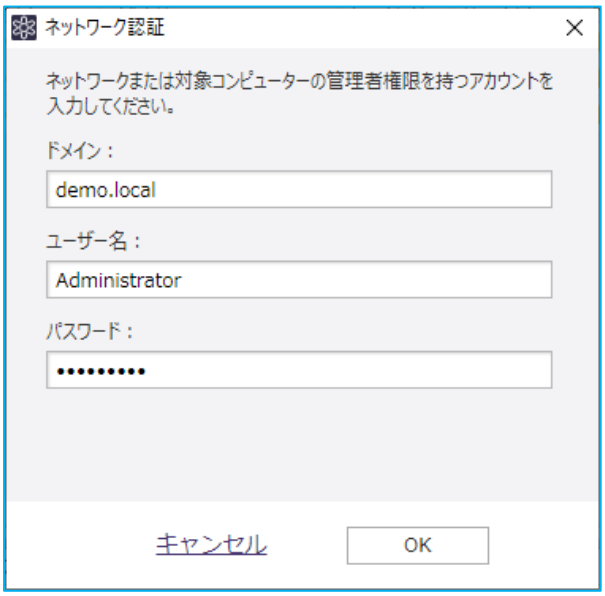
12. コンピューターを管理対象にするには、「管理対象外」に追加されたコンピューター名を右クリックして、コンテキストメニューから［管理対象に移動］をクリックします。複数のコンピューターを選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。



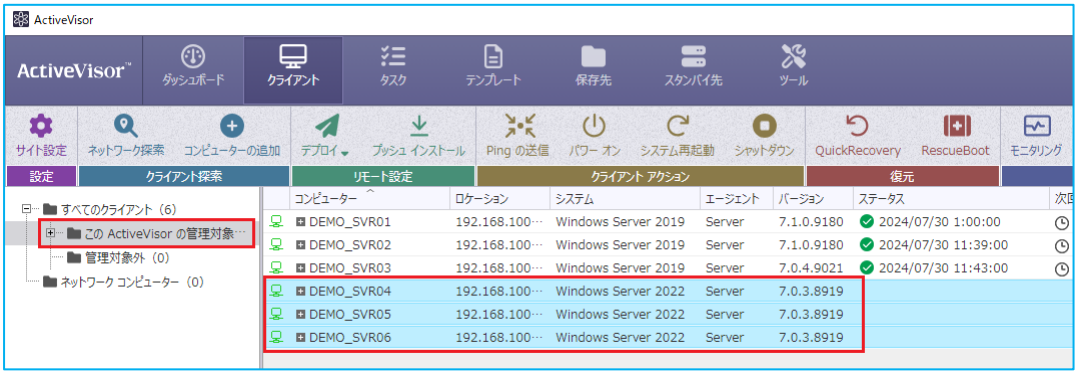
13. ActiveImage Protector のエージェントのバージョンが 7.1.0 より低い場合は、以下のダイアログが表示されます。メッセージ内の[ここ]の部分をクリックします。



14. 管理対象コンピューターの管理者、またはネットワーク管理者のアカウントで認証を行います。

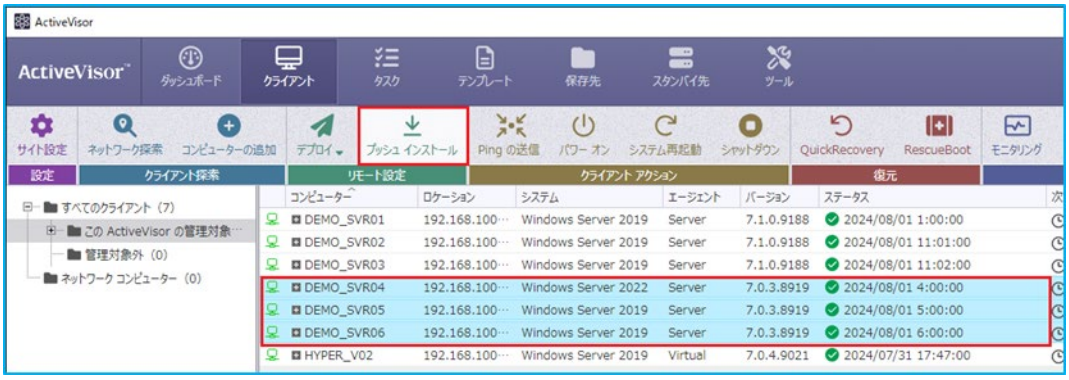


15. クライアントリストの[この ActiveVisor の管理対象]に追加されます。

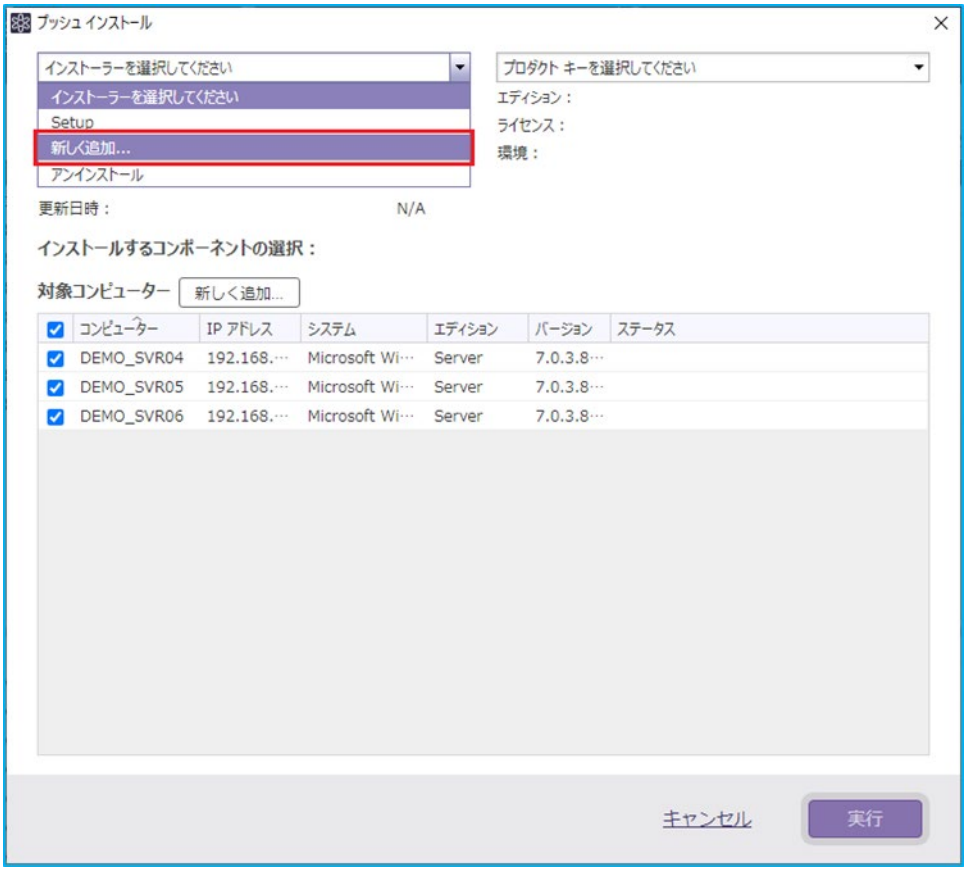


3-3. パッチのプッシュインストールの実行

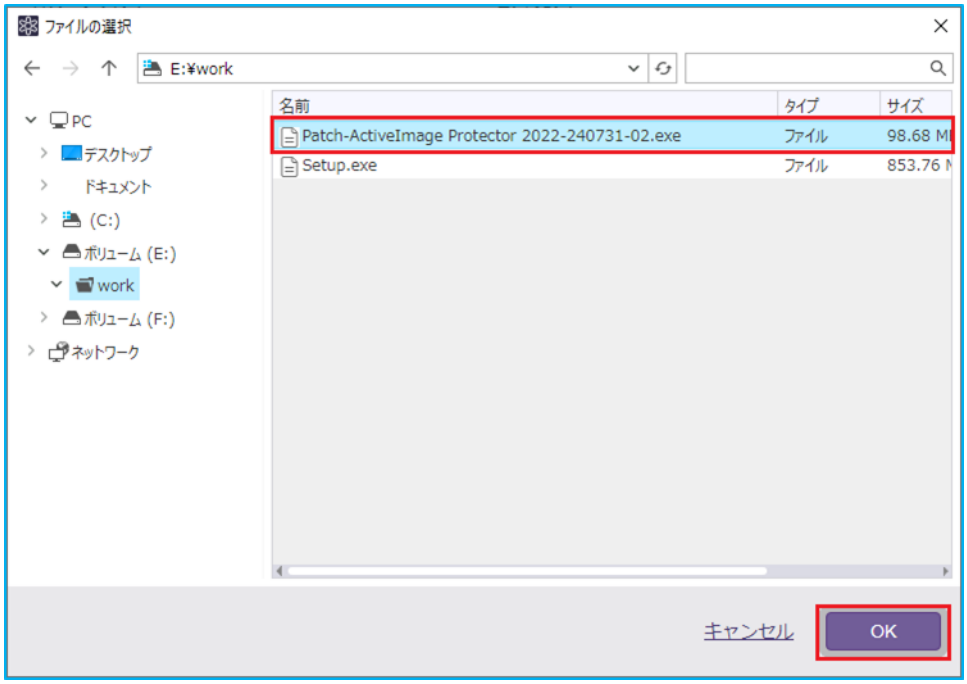
1. クライアントリストからパッチを適用する対象コンピューターを選択後に、操作リボンメニューの[プッシュインストール]タブをクリックすると、プッシュインストールのウィザードが起動します。複数のコンピューターを選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。



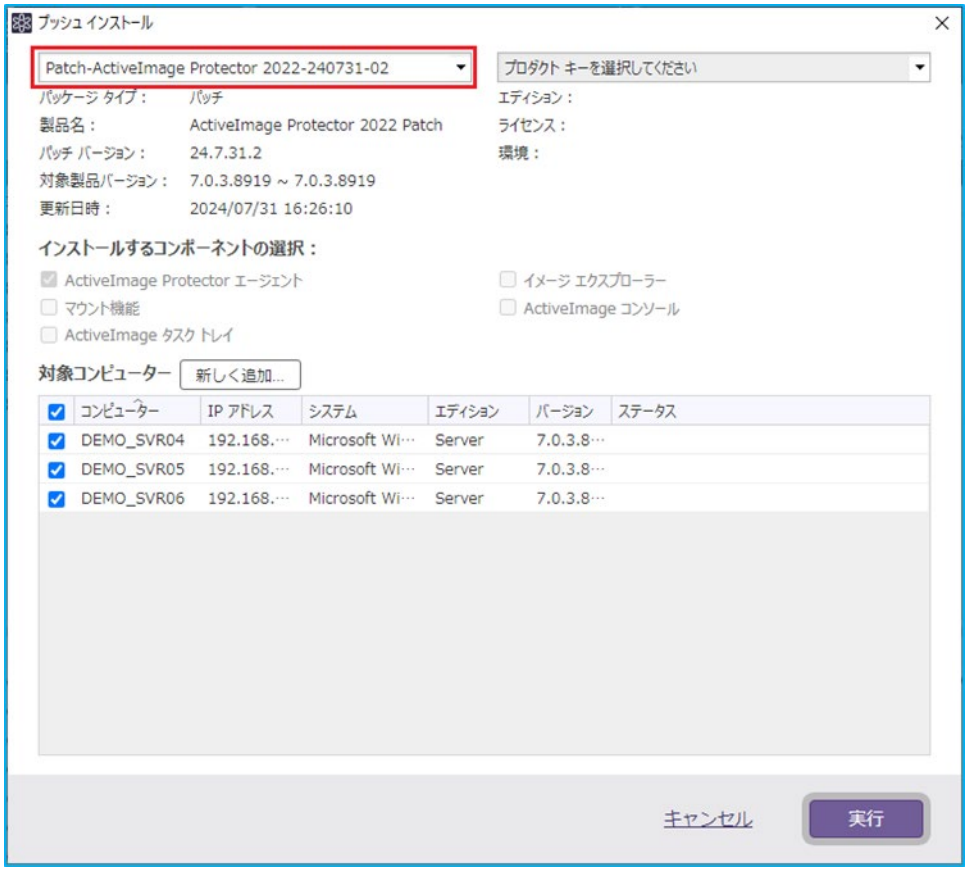
2. インストールするパッケージの選択になりますので、［インストーラーを選択してください］のテキストボックスの右端の［▼］をクリックし、［新しく追加］を選択します。



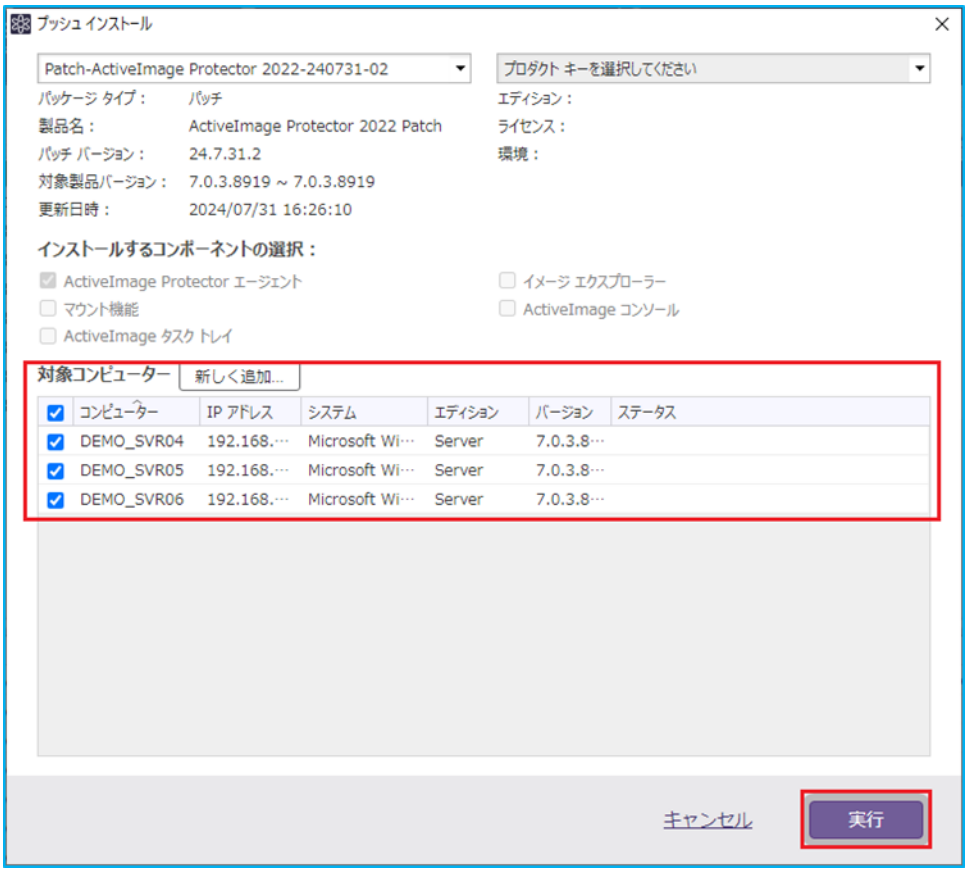
3. 前項の 3-1.で準備した ActiveImage Protector のパッチを選択して、［OK］をクリックします。



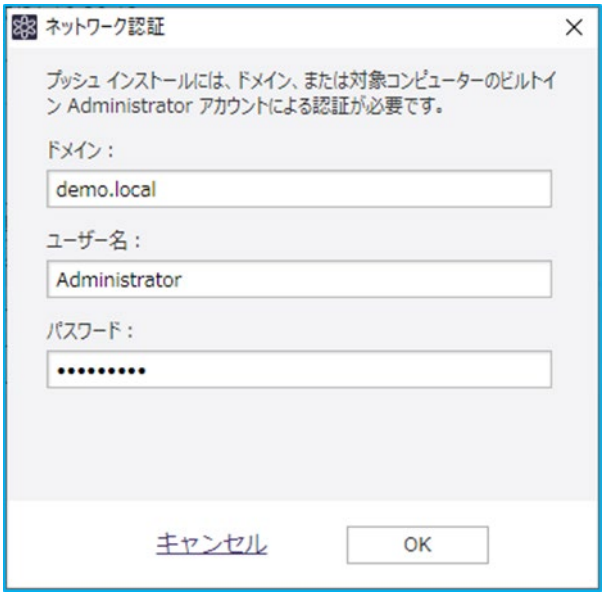
4. パッチのプッシュインストールの設定を行います。［インストーラーを選択してください］に、プルダウンメニューから登録したパッチを選択します。



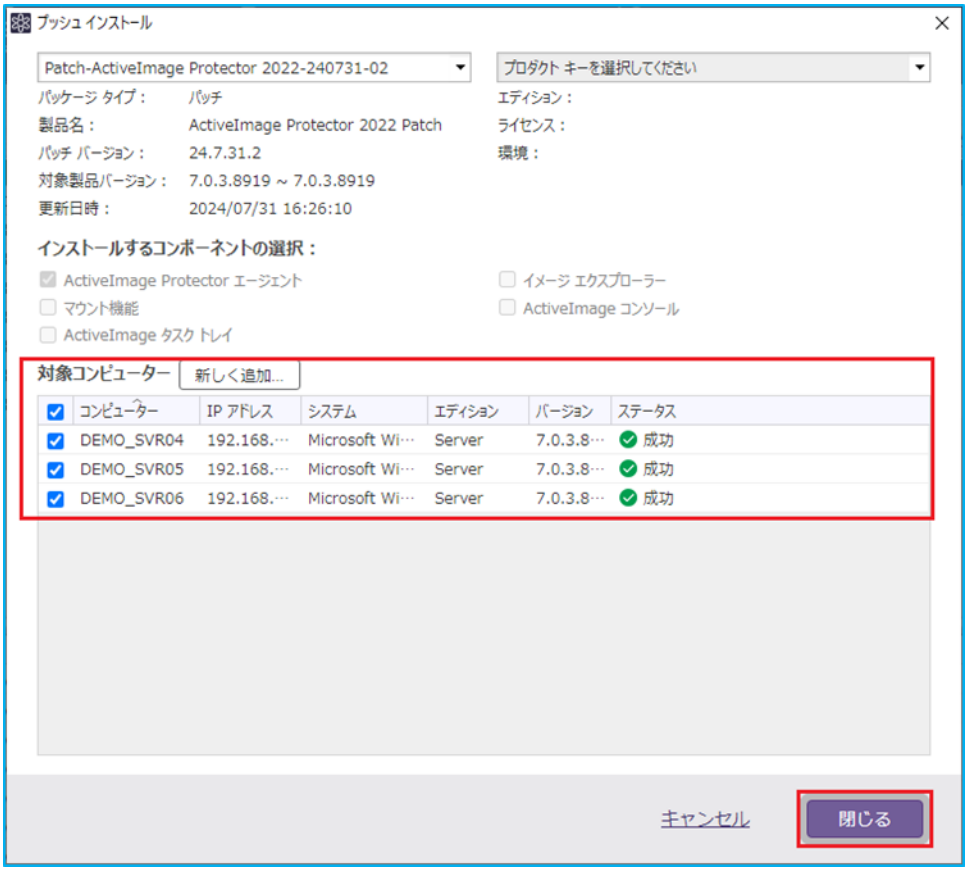
5. 「対象コンピューター」に、クライアントリストから選択したプッシュインストール先のコンピューターが追加されています。［実行］をクリックします。



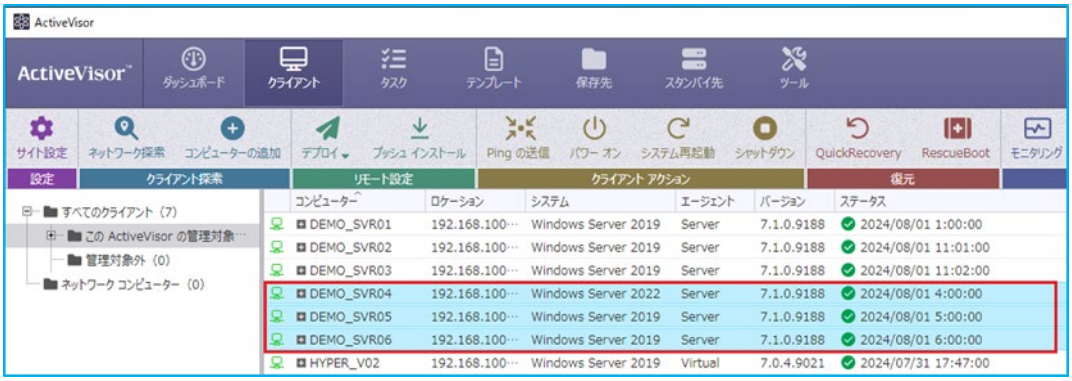
6. プッシュインストールを実行するには、ドメイン、または対象コンピューターの Administrator アカウントによる認証を行います。



7. プッシュインストールが完了すると、以下のようになります。［閉じる］をクリックして終了させます。



8. クライアントリストのエージェント バージョン情報からパッチが適用されたことが確認できます。



4. バックアップタスクのテンプレート作成とデプロイ(展開)

ここでは、バックアップタスクのテンプレート（バックアップやスケジュール設定のひな形）の作成とデプロイ(展開)手順を説明します。

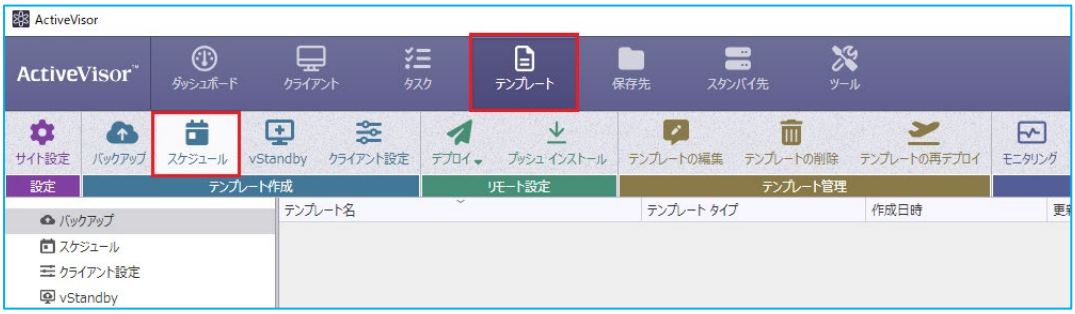
・スケジュール テンプレートの作成

・バックアップ テンプレートの作成

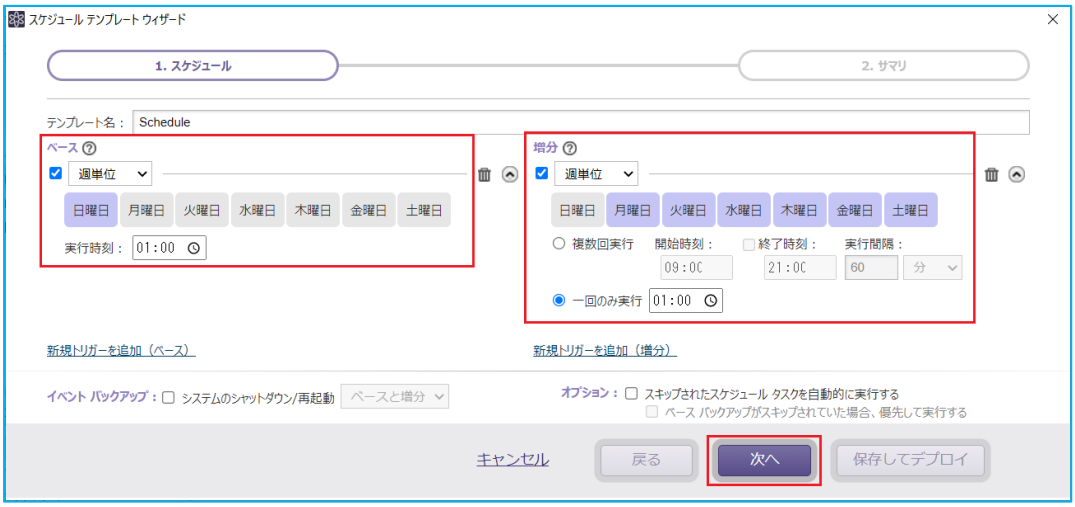
・スケジュールとバックアップ テンプレートのデプロイ

4-1. スケジュール テンプレートの作成

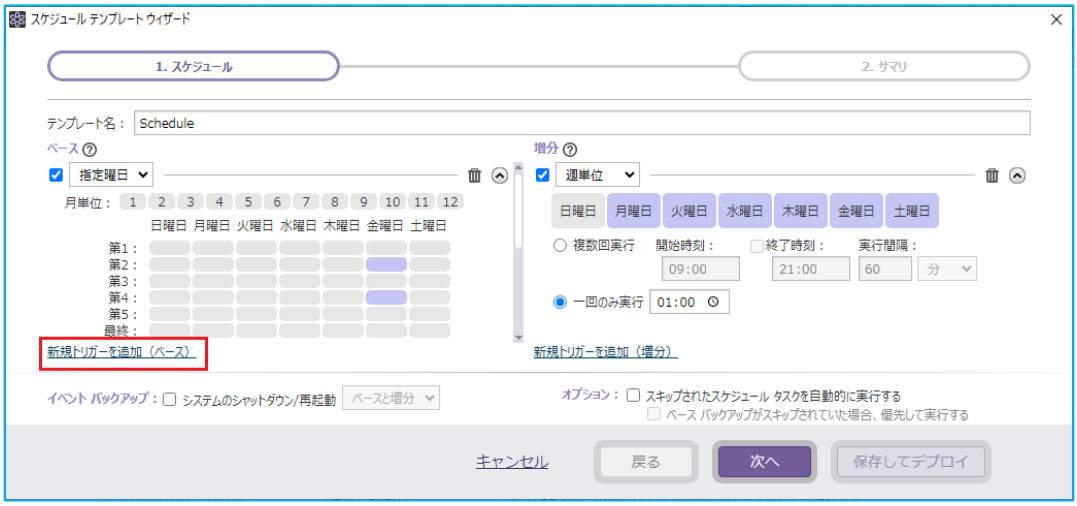
1. バックアップのスケジュール テンプレートを作成します。トップメニューの［テンプレート］を選択して、操作リボンメニューの[スケジュール]タブをクリックすると、スケジュールのテンプレート作成ウィザードが起動します。



2. ActiveImage Protector では、「月単位」、「週単位」、「指定曜日」、「指定日時」など柔軟にバックアップのスケジュールを作成することができます。ここでの設定例として、「週単位」を選択して日曜日の午前 1 時にベースバックアップ（フルバックアップ）、月曜日から土曜日の午前 1 時に増分バックアップを実行するスケジュール設定を行います。スケジュールの設定が完了したら、適切なテンプレート名を入力し、［次へ］をクリックします。



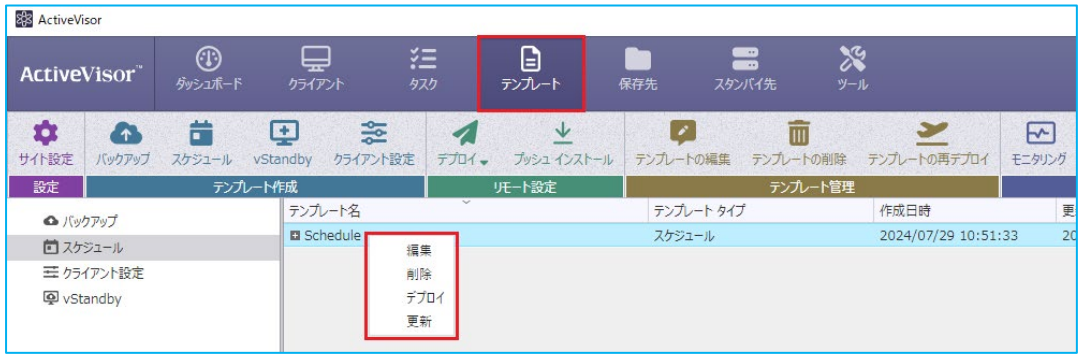
3. ［新規トリガーを追加］をクリックすると、スケジュール設定を追加することができます。例えば、週単位のスケジュール設定に加え、「指定曜日」を選択して 1 月から 12 月まで、「第 2 金曜日」あるいは「第 4 金曜日」といった指定が可能です。



4. 設定したスケジュールを確認し、［保存］をクリックします。

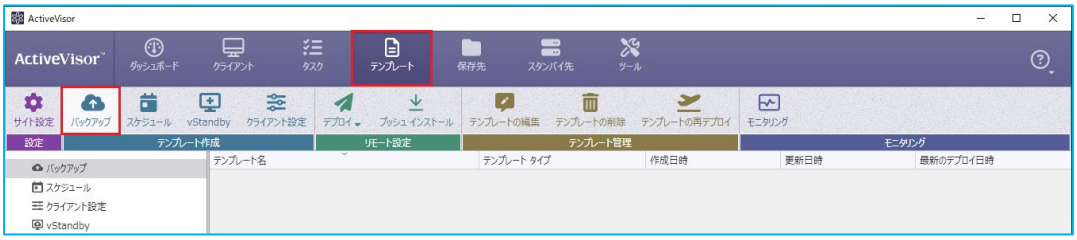


5. 作成したスケジュールのテンプレート名を右クリックすると、テンプレートの再編集や削除、デプロイが行えます。

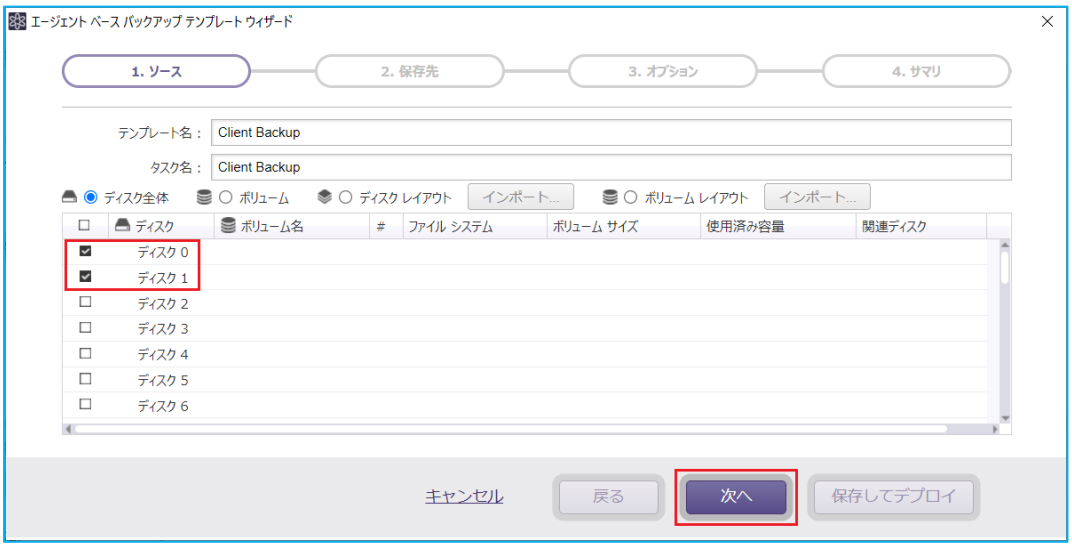


4-2. バックアップ テンプレートの作成

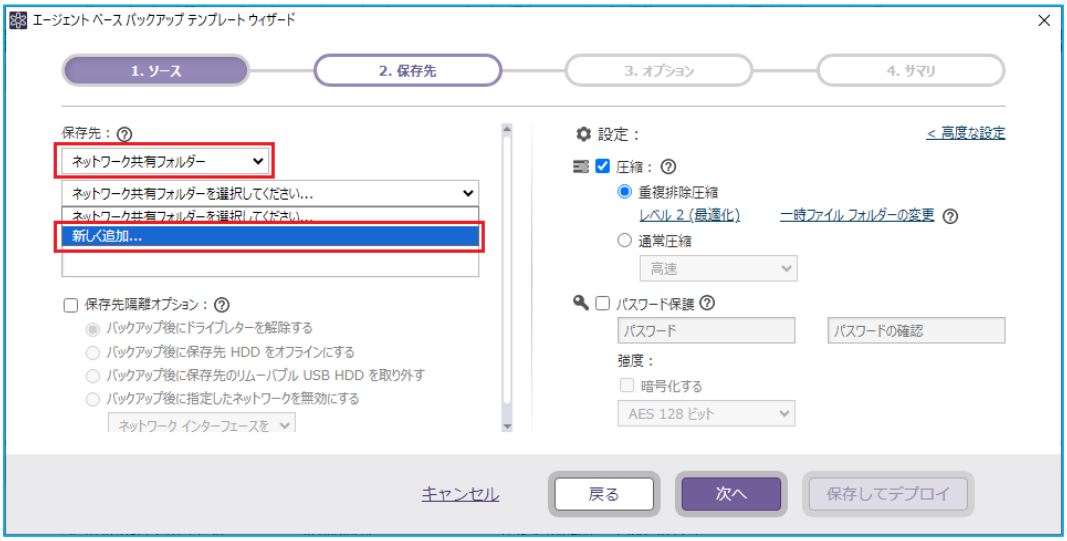
1. バックアップ対象のディスクとバックアップ保存先のテンプレートを作成します。トップメニューの［テンプレレート］タブを選択し、操作リボンメニューの[バックアップ]タブをクリックすると、バックアップのテンプレート作成ウィザードが起動します。



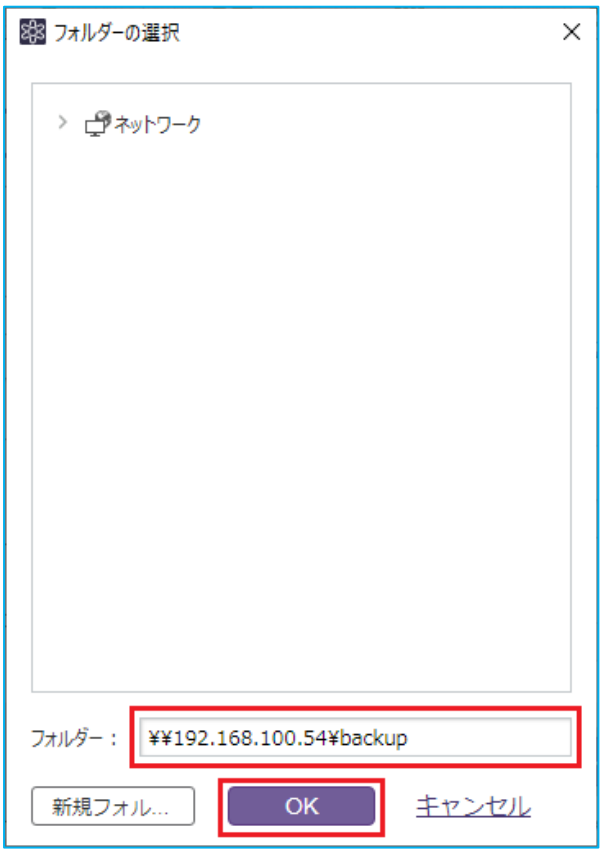
2. ActiveVisor では、デフォルトで 31 台のディスクをバックアップ対象として設定可能です。ここでの設定例として、「ディスク 0」と「ディスク 1」を選択して、［次へ］をクリックします。指定した対象ディスクのうち、デプロイ時に対象のコンピューターに存在しているディスクがバックアップ対象として設定されます。例えば、バックアップ対象のコンピューターに「ディスク 1」が存在しない場合は、「ディスク 0」のみがバックアップ対象として設定されます。



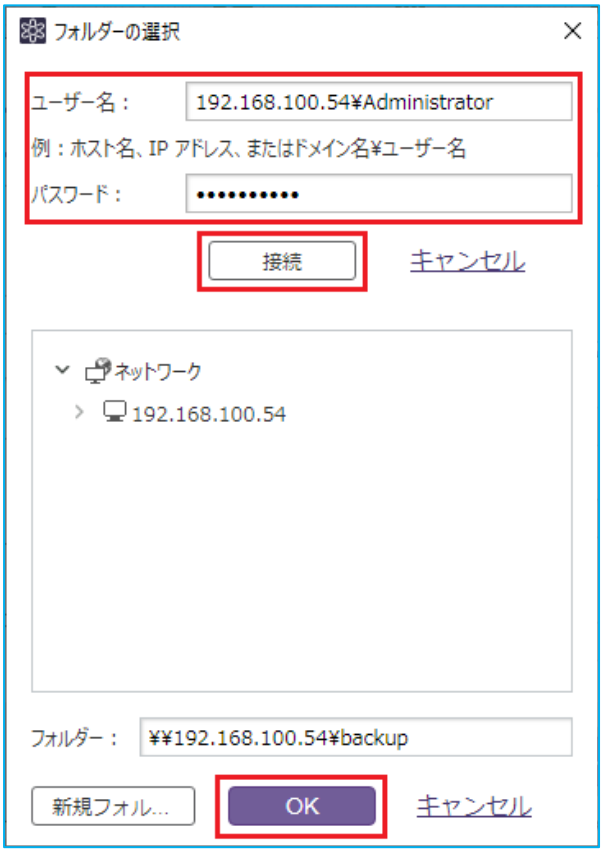
3. 保存先などの設定を行います。ここでの設定例として、［保存先：］は、［ローカルフォルダー］の右の［▼］を押して、［ネットワーク共有フォルダー］を選択します。この時点で、ActiveImage Protector がインストールされたコンピューターが「管理対象」として追加されていれば、そのバックアップ保存先の情報が表示されます。バックアップ保存先を追加する場合は、その下の［ネットワーク共有フォルダーを選択してください］の［▼］から、［新しく追加］を選択します。



4. フォルダーの選択となります。ここでの設定例として、［フォルダー：］にネットワーク共有フォルダー「¥¥192.168.100.54¥backup」を入力して、［OK］をクリックします。



5. 共有フォルダーへの認証情報を入力して、［接続］をクリックします。認証が完了したら［OK］をクリックします。



6. 次に、［保存先隔離オプション：］、［設定：］、［高度な設定：］は、必要に応じて設定します。ここでの設定例では、デフォルト設定のまま、［次へ］をクリックします。［圧縮：］、［パスワード保護：］の設定は、以下を参考に使用環境に応じて設定します。



・圧縮レベルの設定

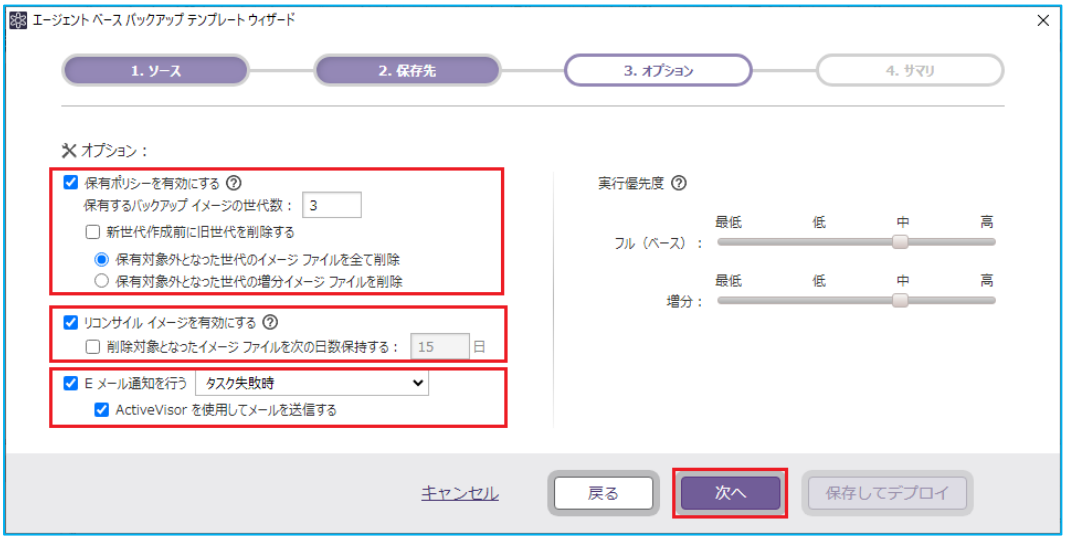
標準設定の重複排除圧縮と通常圧縮の 2 種類の圧縮方式をサポートします。圧縮率は、データの種類により異なりますが、通常圧縮で 70%、重複排除圧縮では 50%程度を目安としてください。画面の右の［オプ

ション：］から指定します。重複排除圧縮を選択すると、その下の［レベル 2（推奨）］と重複排除処理の一時作業領域の［一時ファイルフォルダーを変更］の設定が可能になります。重複排除圧縮は、CPU やメモリの使用率が高くなりますので、負荷が高いコンピューター環境では、処理時間、圧縮率ともにバランスのとれた［通常圧縮］をお勧めします。

・パスワード保護の設定

バックアップファイルのパスワード保護と暗号化をサポートしています。まず、［パスワード保護］のチェックボックスにチェックを入れ、パスワードを入力します。次に、暗号化レベルの「RCS」、「AES128 ビット」、「AES256 ビット」から選択して設定します。バックアップ ファイルを外部保管する場合やサイバー攻撃などから安全に保護します。

7. ［オプション］の設定になります。ここでの設定例として、以下の［保有ポリシー］、［リコンサイル イメージ］、［E メール通知］の設定を行い、［次へ］をクリックします。



・保有ポリシーの設定

バックアップ保存先に残すバックアップの世代数を設定します。［保有ポリシーを有効にする］のチェックボックスにチェックを入れます。［保有するバックアップの世代数：］を「3」に設定します。この設定で、バックアップの保存先に 3 世代分のバックアップが残ります。※ActiveImage Protector は、ベースバックアップとそれに紐づく増分バックアップを 1 世代として管理しています。

・リコンサイル イメージを有効にする

増分バックアップ ファイルが破損や削除している場合、前回までの増分バックアップを使用して続けて増分バックアップアップを作成します。これを設定しない場合は、次回の増分バックアップは、フルバックアップが作成されます。

・E メール通知の設定

［E メール通知を行う］のチェックボックスにチェックを入れます。［タスク失敗時］を選択して、バックアップタスクがエラーなどで失敗した場合のみ E メール通知を行います。次に、［ActiveVisor を使用してメールを送信する］にチェックを入れます。ActiveVisor からバックアップタスクの成功/失敗/終了時に、E メール通知を行います。ActiveVisor から E メール通知をおこなうには、あらかじめ ActiveVisor の［サイト設定］→［通知］から送信設定を行います。

8. E メール通知の設定をした場合は、操作リボンメニューの［サイト設定］タブ→［通知］を選択して、E メール通知の送信設定を行います。すべての設定が完了したら、［メールのテスト送信］を実行して正常動作を確認します。テストメールの正常送信が確認されたら、［適用］→［OK］をクリックします。



9. サマリの表示となります。設定事項を確認して、［保存］をクリックして作成したバックアップ テンプレートを保存します。

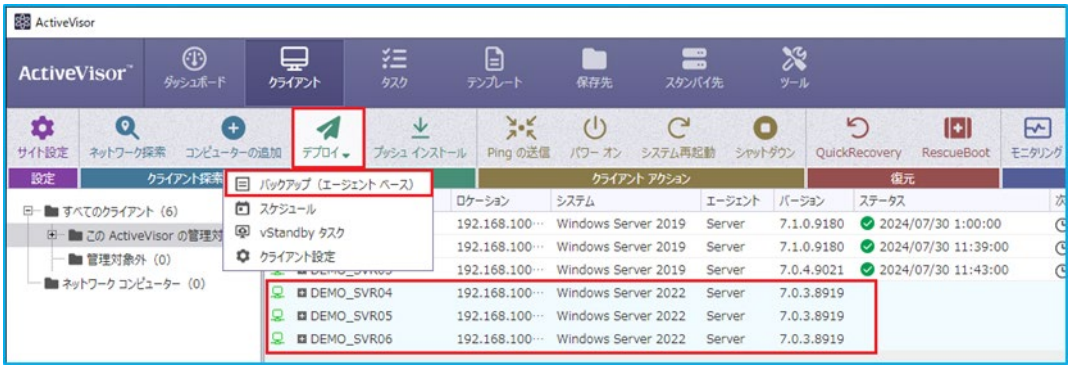


10. スケジュール テンプレート同様に、作成したバックアップのテンプレート名を右クリックすると、テンプレートの再編集、削除、デプロイなどが行えます。

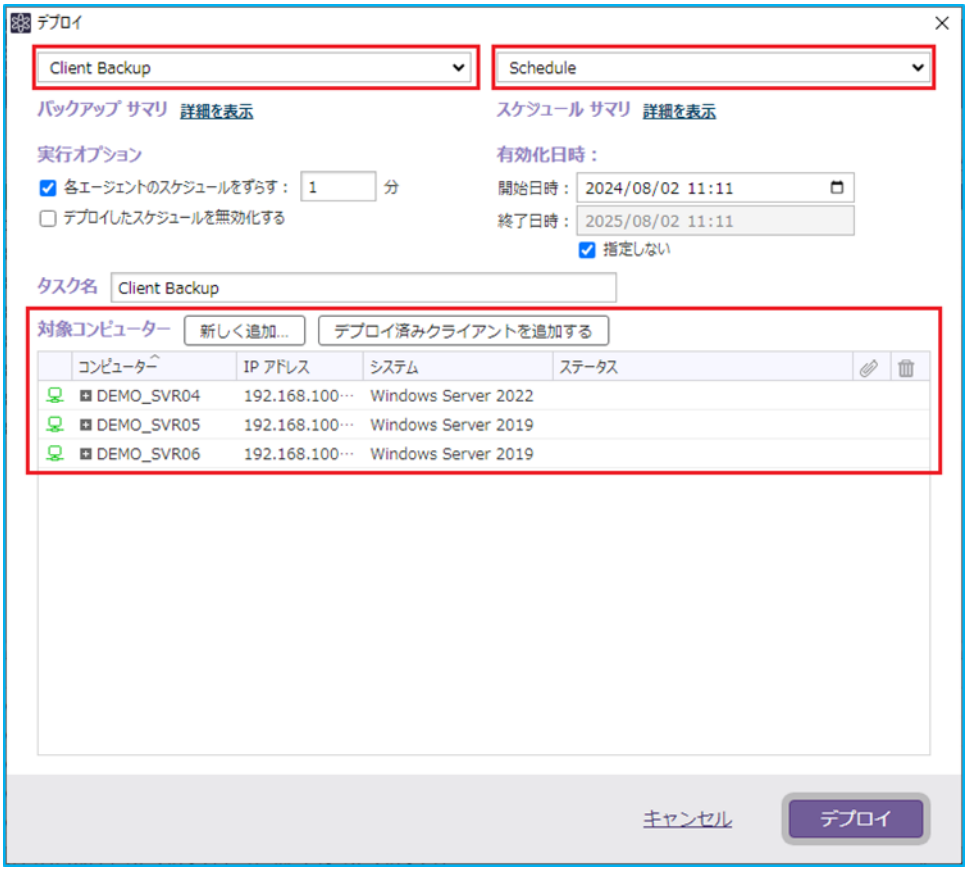


4-3. 管理対象コンピューターにテンプレートのデプロイ

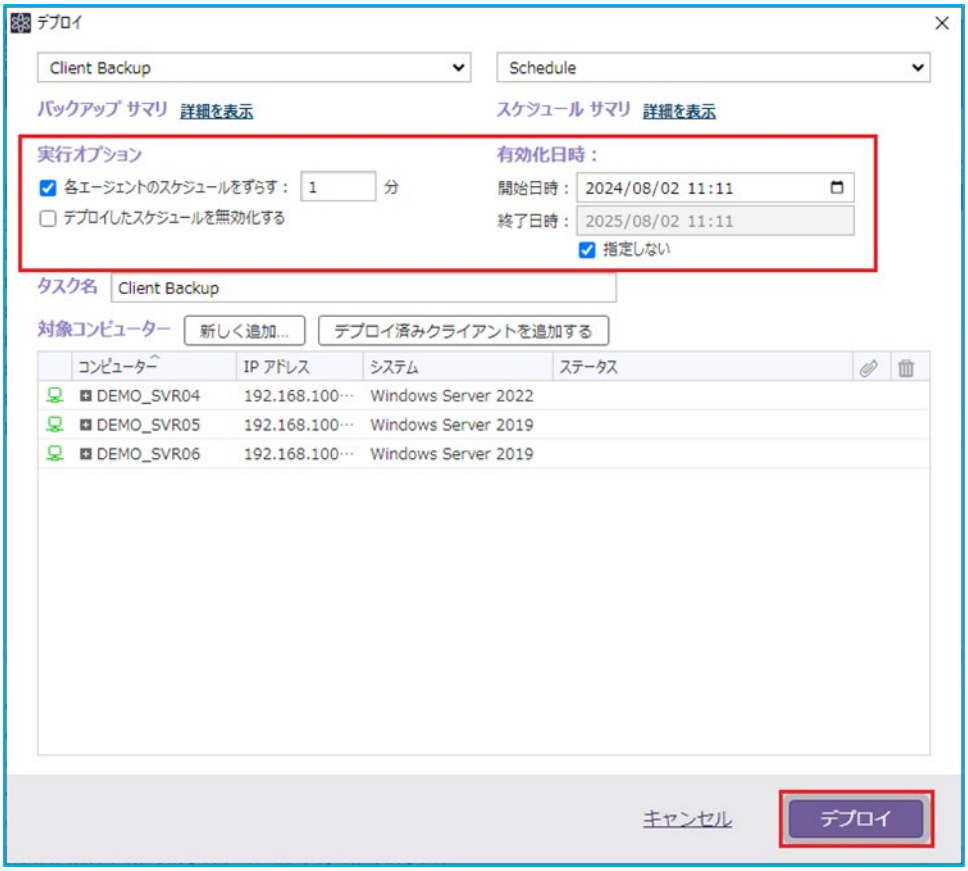
1. クライアントリストからテンプレートのデプロイ対象のコンピューターを選択します。複数のコンピューターを選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。次に、操作リボンメニューの［デプロイ］タブを選択すると、コンテキストメニューが表示されます。対象コンピューターにテンプレートをデプロイするには、［バックアップ（エージェントベース）］を選択します。



2. ［バックアップ テンプレートを選択してください］と［スケジュール テンプレートを選択してください］のそれぞれに、前項の 4.1、4.2 で作成したテンプレート［Client Backup］、［Schedule］を選択します。対象コンピューターには、クライアントリストから選択したデプロイ対象のコンピューターが追加されています。



3. ［実行オプション］の設定は、必要に応じて行います。問題なければ、［デプロイ］をクリックします。対象コンピューターにバックアップとスケジュールのテンプレートがデプロイされます。



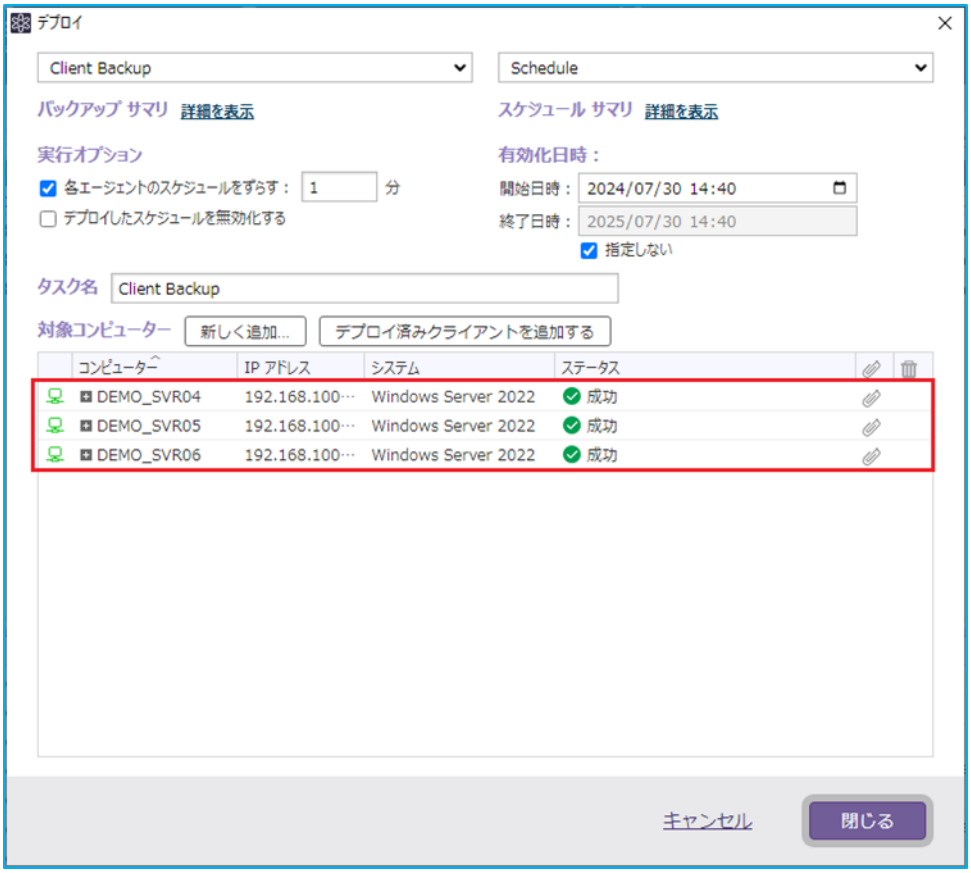
実行オプションの設定

・各エージェントのスケジュールをずらす：
このオプションにチェックを入れると、複数のコンピューターに配布する場合、タスクの実行時間を指定した時間分ずらします。

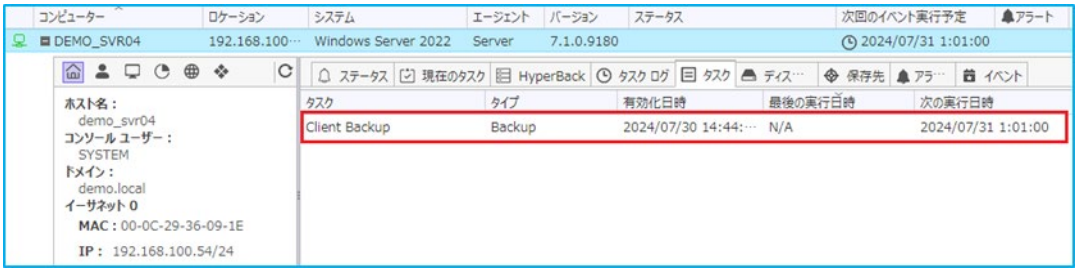
・デプロイしたスケジュールを無効化する：
このオプションにチェックを入れると、デプロイされたスケジュールが無効化されます。

・有効化日時：
デプロイするバックアップスケジュールの有効化期間を指定します。［指定しない］にチェックを入れると、バックアップスケジュールは無期限に有効となります。

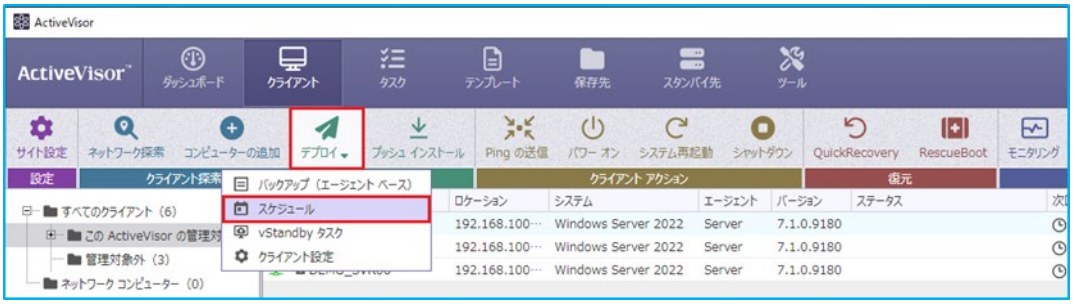
4. テンプレートのデプロイが成功すると、以下のように「成功」と表示されます。



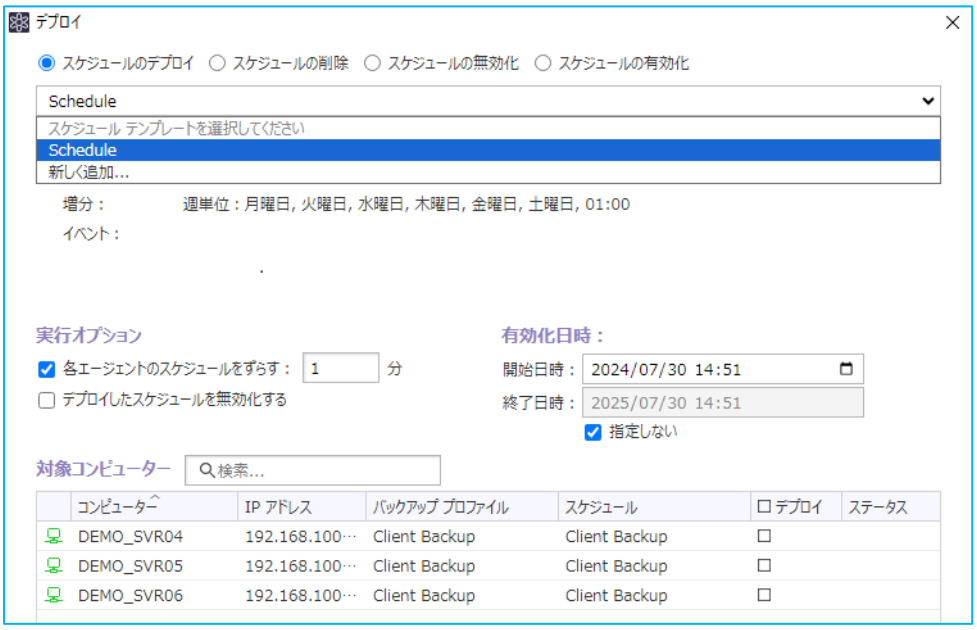
5. コンピューターの［タスク］タブでは、デプロイされたタスクを確認できます。



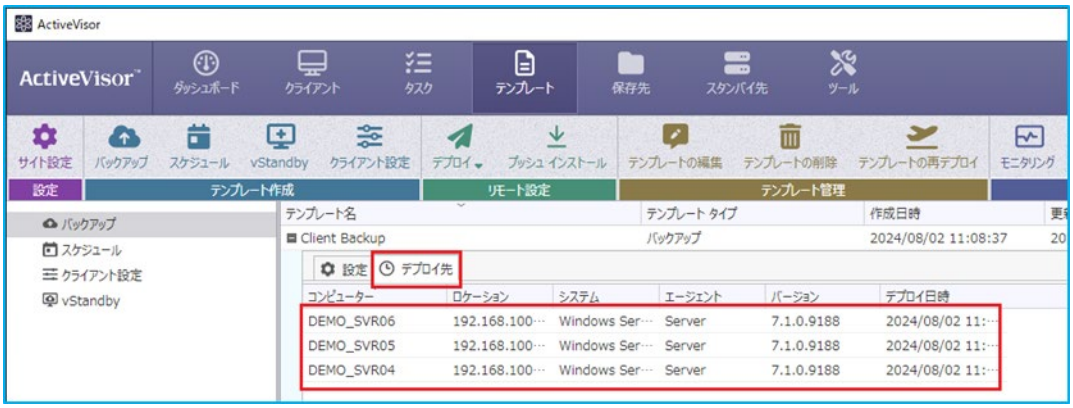
6. ［デプロイ］メニューには、［スケジュール］メニューもあります。



7. ［スケジュール］を選択すると、以下のデプロイダイアログが表示されます。こちらでは、バックアップスケジュールのみが選択可能です。バックアップスケジュールのみを更新したい場合などに使用可能です。また、スケジュールのデプロイに加えて、デプロイ済のスケジュールの削除、無効化、有効化を指定できます。



8. 作成したテンプレート名の先頭にある［+］をクリックすると、デプロイ先のコンピューターやデプロイ日時を確認できます。

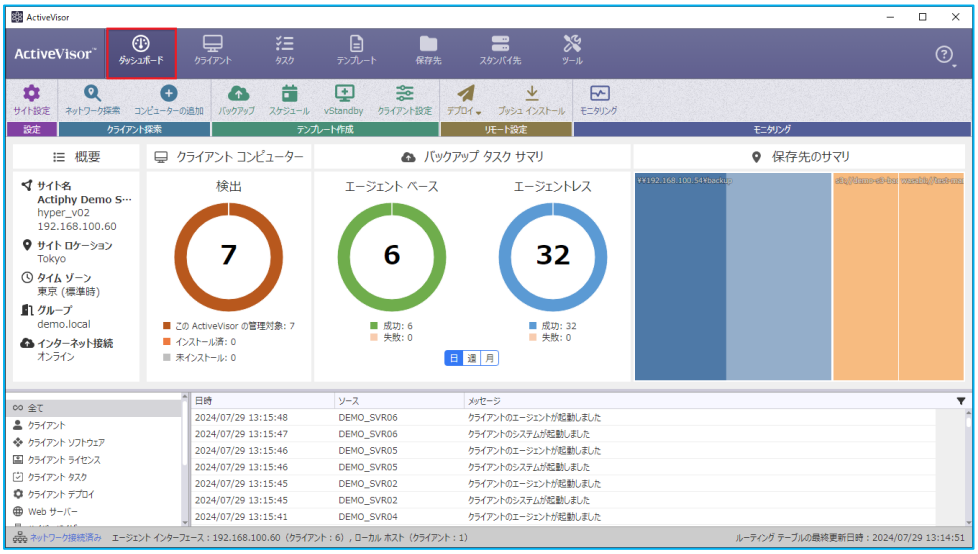


5. ActiveVisor による監視

実際に、管理対象コンピューターのバックアップが実行されるようになると、さまざまな情報がログなどに保存されていきます。日々のバックアップ運用管理などに利用します。

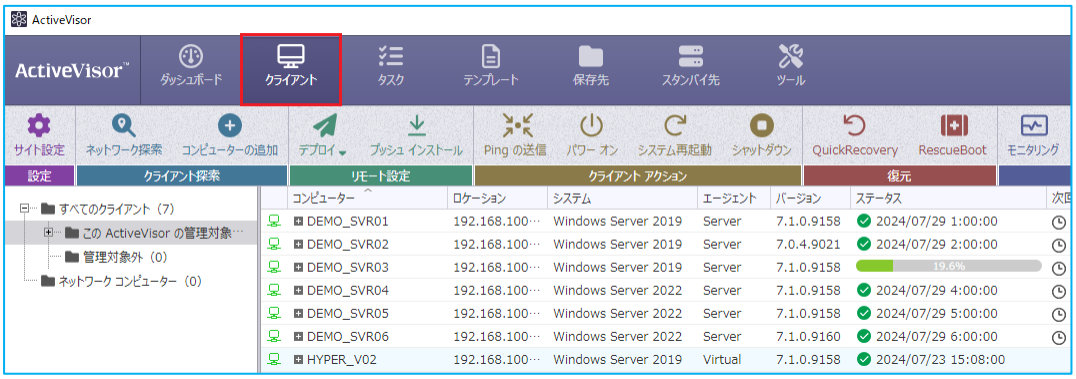
5-1. ［ダッシュボード］タブ

1. トップメニューの［ダッシュボード］タブでは、検出したコンピューターの数、エージェントベースとエージェントレス のバックアップタスクの成功と失敗の件数、バックアップ保存先のストレージの空き容量などがグラフィカルに表示されます。バックアップタスクの成功と失敗の件数は、日/週/月単位で切り換えて表示することができます。

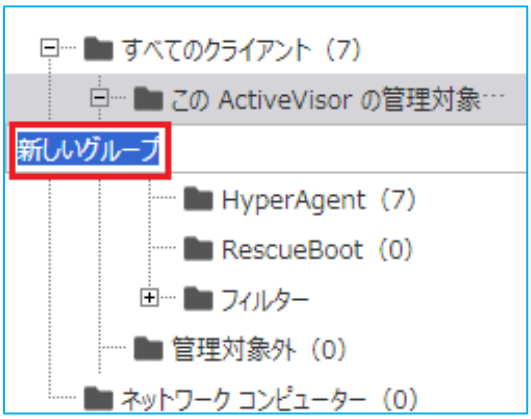


5-2. ［クライアント］タブ

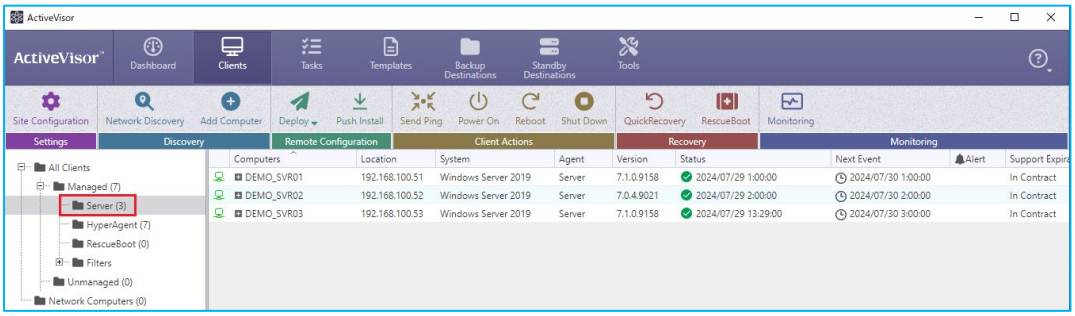
1. ［クライアント］タブでは、管理対象コンピューターのバックアップタスクなどの状況が一覧で表示されます。多数のコンピューターを管理している場合には、同時に表示されますので状況をすばやく把握することができます。



2. コンピューターのリストでは、サブグループを作成し、管理対象コンピューターのグループ分けが可能です。［この ActiveVisor の管理対象］を右クリックすると、コンテキストメニューに、［新規グループの作成］が表示されます。［新規グループの作成］メニューを選択すると、［この ActiveVisor の管理対象］の下に「新しいグループ」というサブグループが作成されます。



3. 作成されたサブグループへは、対象のコンピューターをドラッグ&ドロップして移動します。ここでの設定例として、「Server」というサブグループを作成し、DEMO_SVR01～DEMO_SVR003 の 3 台のコンピューターを移動しています。



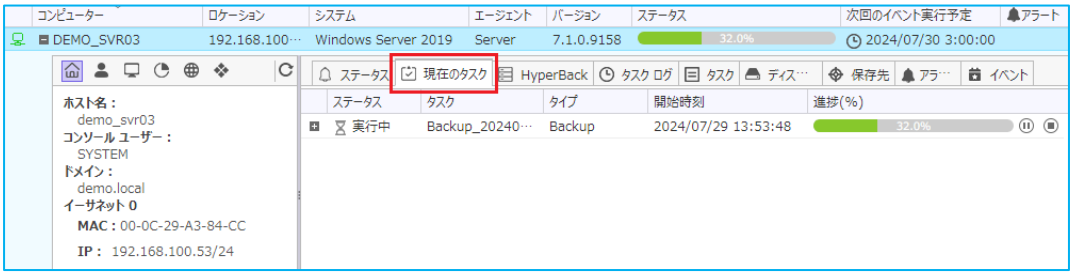
4. 管理対象コンピューターの先頭にある［+］をクリックすると、さらに詳細な情報が表示されます。



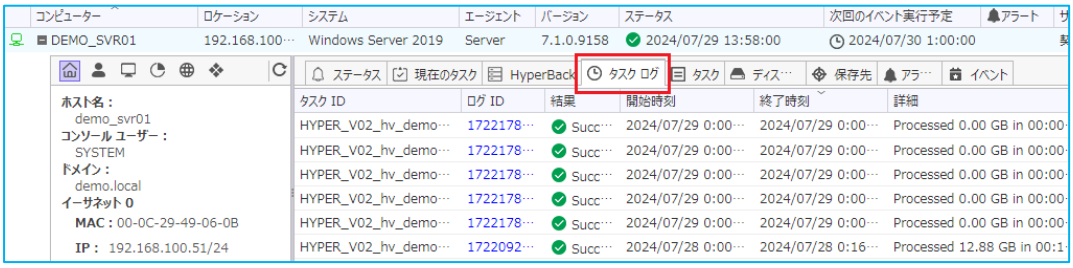
5. 左側の上にいくつかボタンが並びます。ここでは、管理対象コンピューターの OS やネットワークなどのインベントリー情報を確認できます。



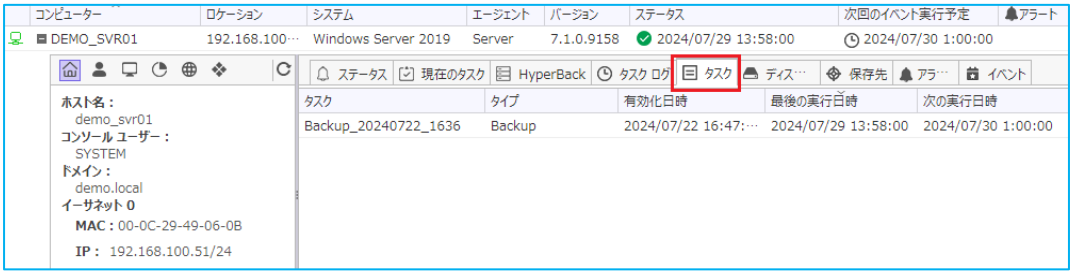
6. 右側には、複数のタブが並びます。［現在のタスク］タブでは、実行中のタスクの状況などを確認できます。実行中のタスクはステータスバーに、その進捗度合いと割合が%で表示されます。



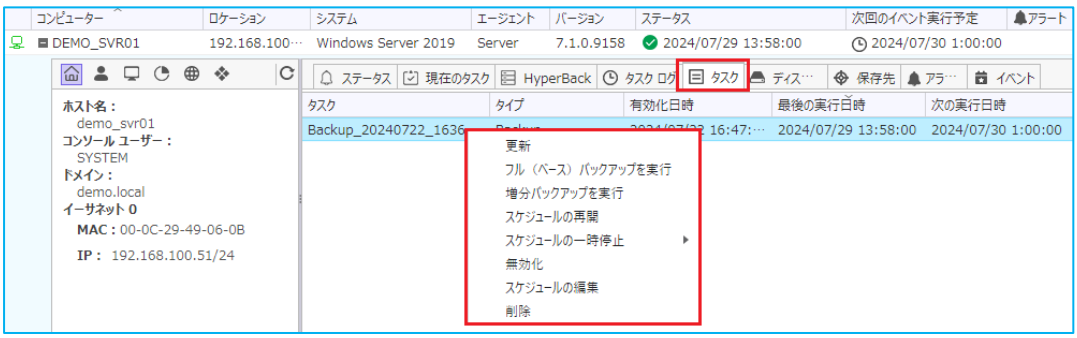
7. ［タスクログ］タブでは、コンピューターのタスクログを確認できます。各「ログ ID」をクリックすると、タスクログの詳細な内容が表示されます。



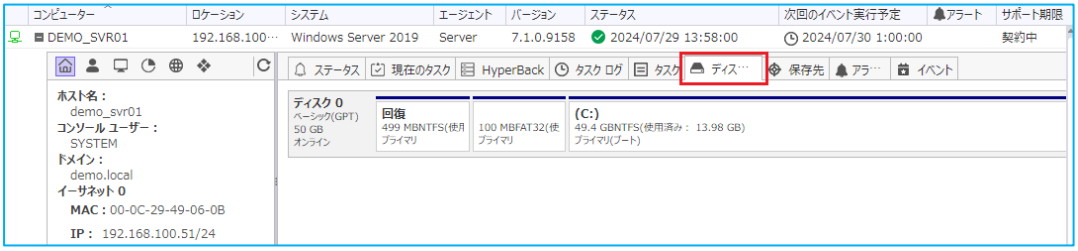
8. ［タスク］タブでは、管理対象コンピューターに設定されたタスクを確認できます。



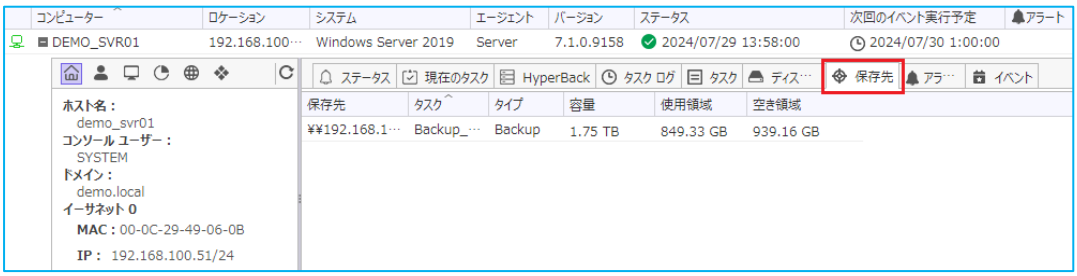
9. 「タスク名」を右クリックすると、コンテキストメニューが表示され、タスクの「フル（ベース）バックアップを実行」、「増分バックアップを実行」、「スケジュールの一時停止/再開」、「タスクの無効化」、「スケジュールの編集」、「タスクの削除」など各種操作が行えます。



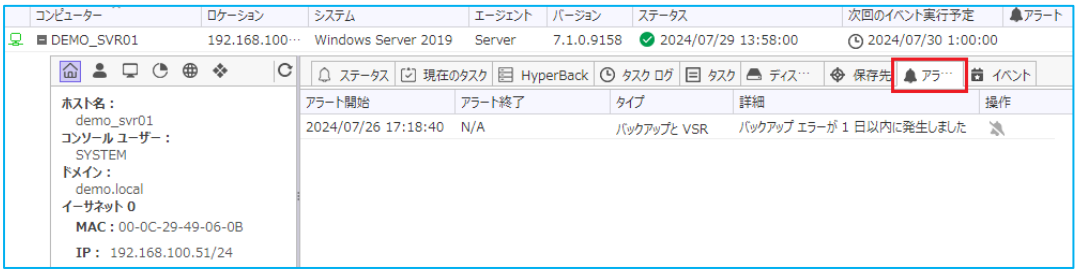
10. ［ディスク情報］タブでは、管理対象コンピューターのディスク情報を確認できます。



11. ［保存先］タブでは、バックアップ保存先の空き容量などのディスク情報を確認できます。

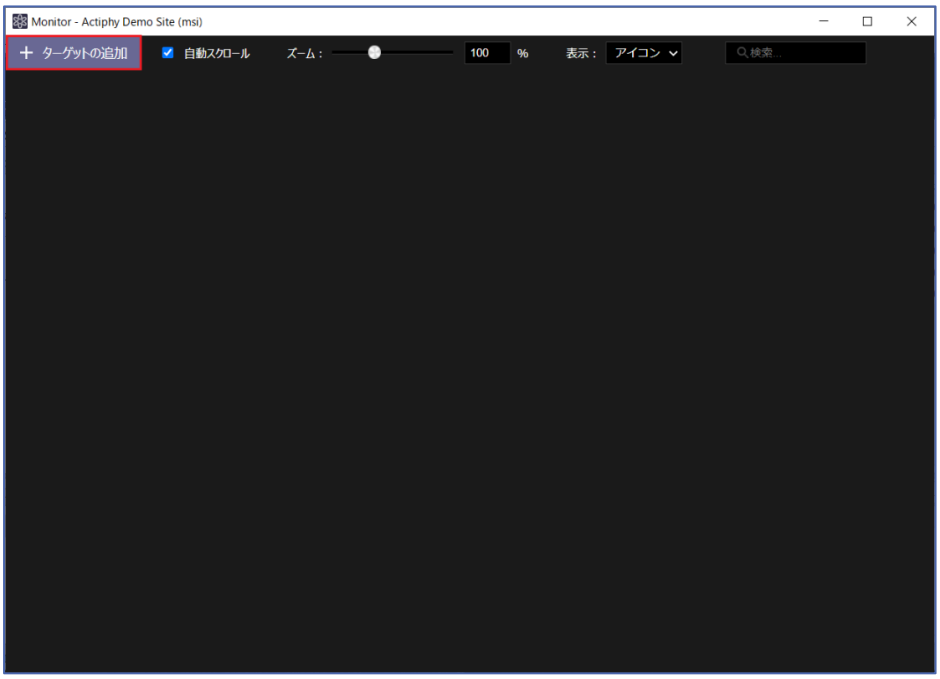


12. ［アラート］タブでは、管理対象コンピューターで発生した警告の状況を確認できます。



5-3. モニタリング

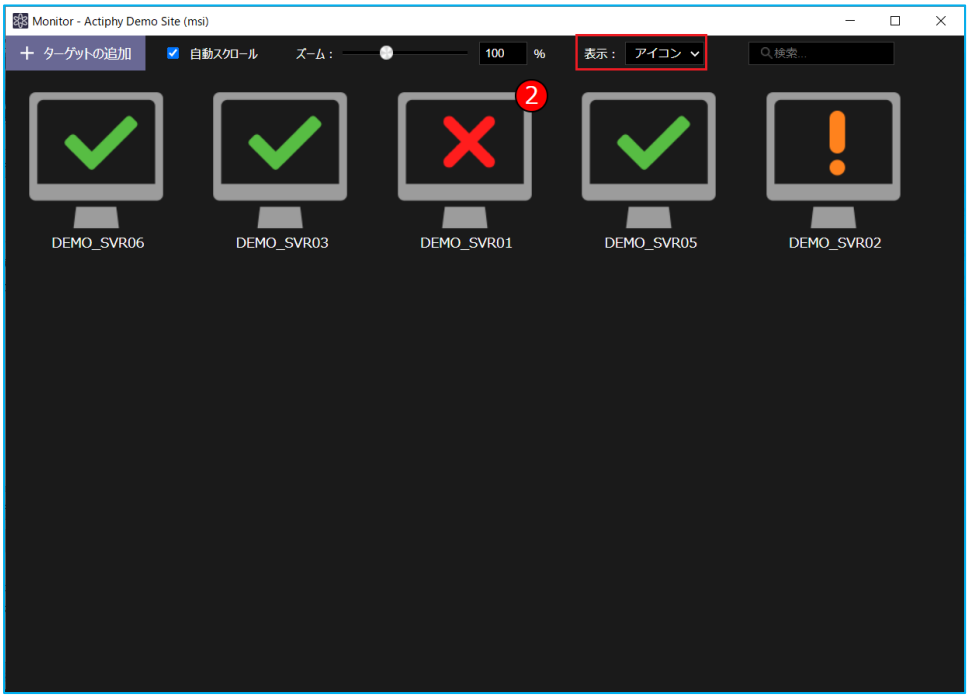
1. トップメニューの［モニタリング］では、管理対象コンピューターの状態を一覧で表示できます。［モニタリング］をクリックすると、以下のように、ActiveVisor モニターが起動します。この時点では、管理対象コンピューターの情報は表示されていません。左上にある［ターゲットの追加］をクリックします。



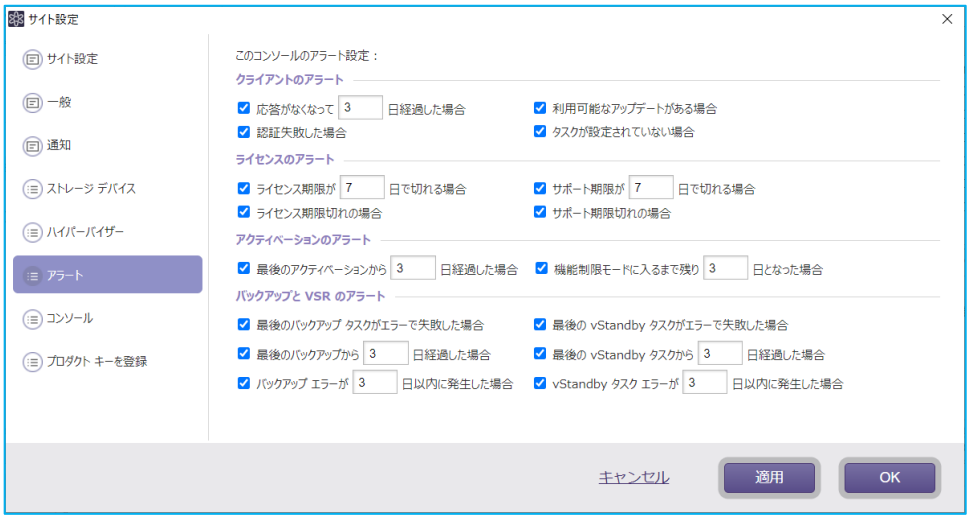
2. 以下のように管理対象コンピューターの選択画面となります。ここで、管理対象コンピューターを選択し、［追加］をクリックします。複数のコンピューターを選択する場合は、Ctrl、または Shift キーを押しながら指定します。



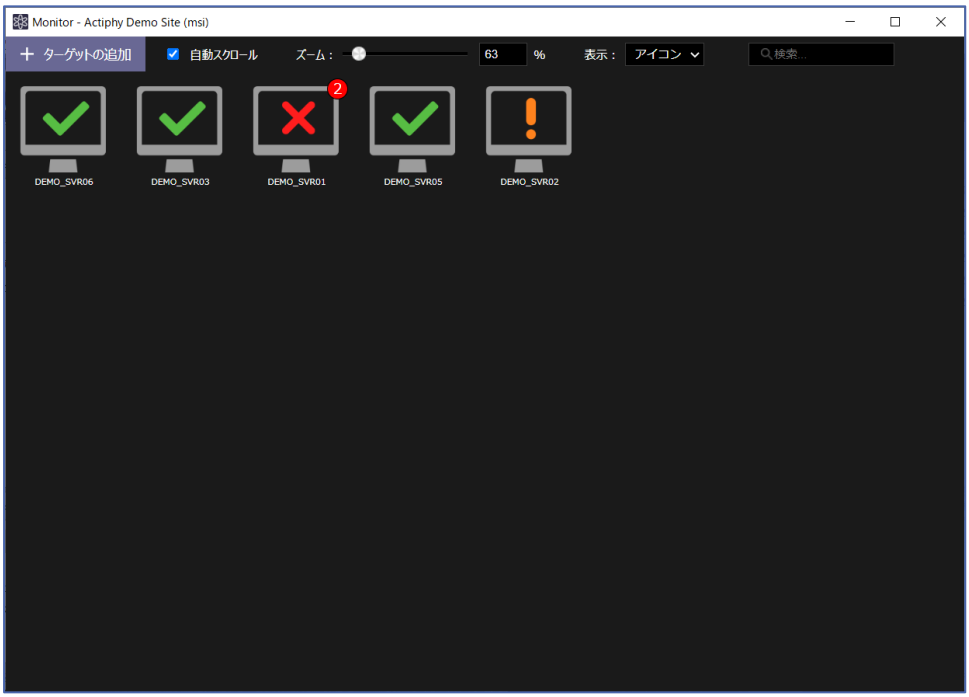
3. ［表示］を［アイコン］を選択している場合、個々の管理対象コンピューターの状態がアイコンで表示されます。障害が発生しているコンピューターは、×印が赤く表示されます。障害の発生していないコンピューターは、緑のチェック印になります。オレンジの！印は、以下の ActiveVisor のアラート設定に指定した期間バックアップが実行されていない場合や ActiveVisor との通信が途絶えている場合など警告として表示します。多数のコンピューターを管理している場合には、同時に表示させることで状況をすばやく把握することができます。



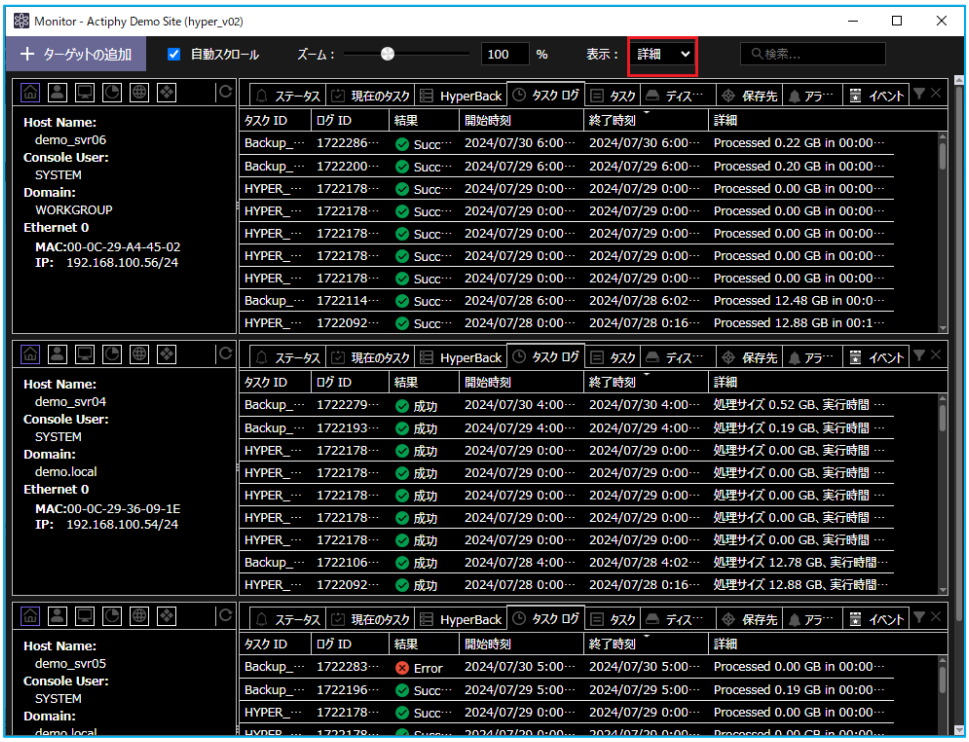
ActiveVisor のアラート設定



4. さらにズーム機能で、拡大・縮小表示も可能です。



5. ［表示：］メニューには、もう 1 つ［詳細］があります。［詳細］を選択すると ActiveVisor のメイン画面の［エージェントベース］タブの詳細表示とほぼ同じものです。ActiveVisor のモニターでは、複数の管理対象コンピューターを複数同時に表示させることができます。



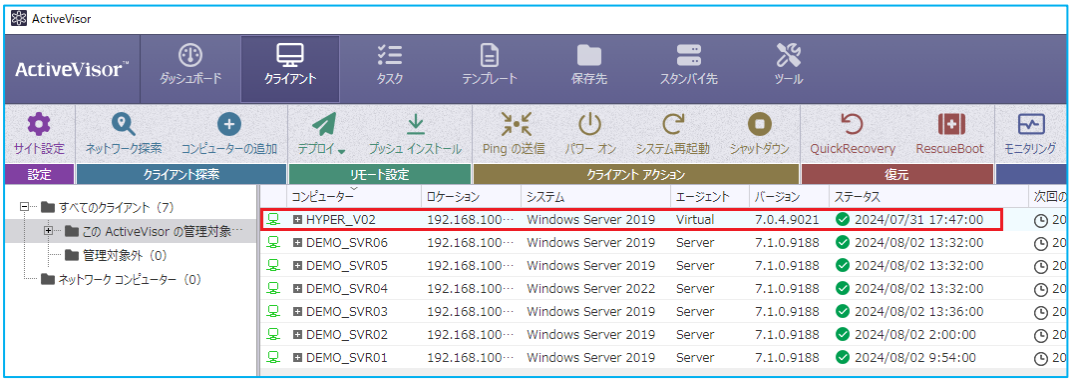
6. ActiveVisor による管理

6-1. エージェントレス バックアップ

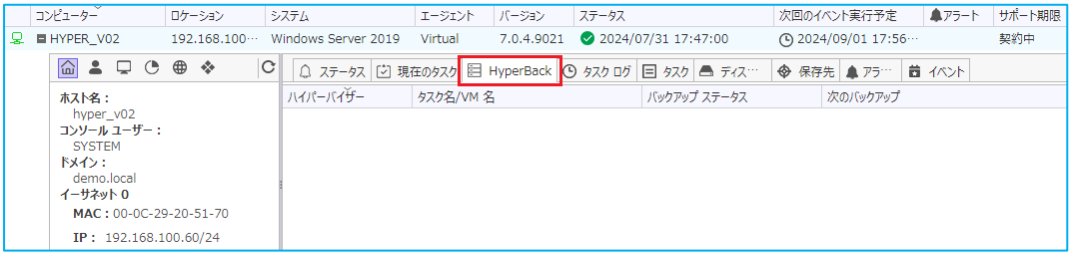
ActiveImage Protector の「HyperAgent」は、ハイパーバイザー（Hyper-V、または VMware vSphere）上で動作する仮想マシンにエージェントをインストールすることなく、バックアップを行う機能（エージェントレス バックアップ）です。ここでは、ActiveVisor による仮想マシンのエージェントレス バックアップの設定手順について説明します。

※エージェントレス バックアップを行うには、バックアップ対象の仮想マシンが構成されているハイパーバイザーと同一ネットワーク上に「HyperAgent」 が導入され、対象のハイパーバイザーが登録されている必要があります。

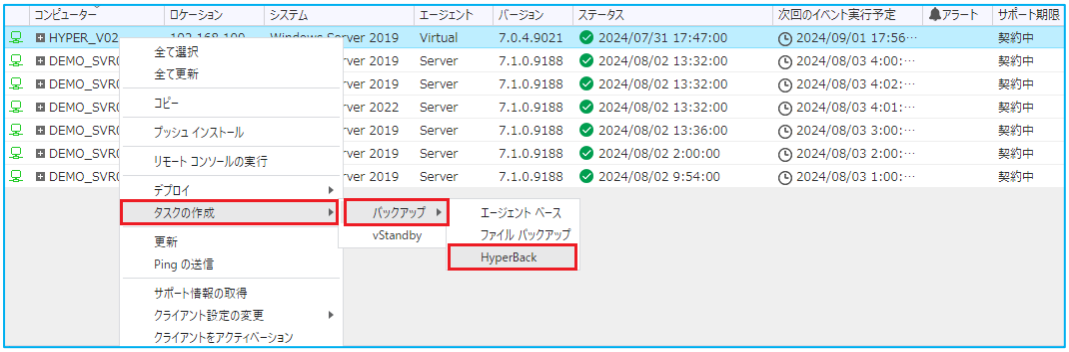
1. ここでの設定例として、「HyperAgent」が導入されているコンピューター「HYPER__V02」からの設定手順を説明します。



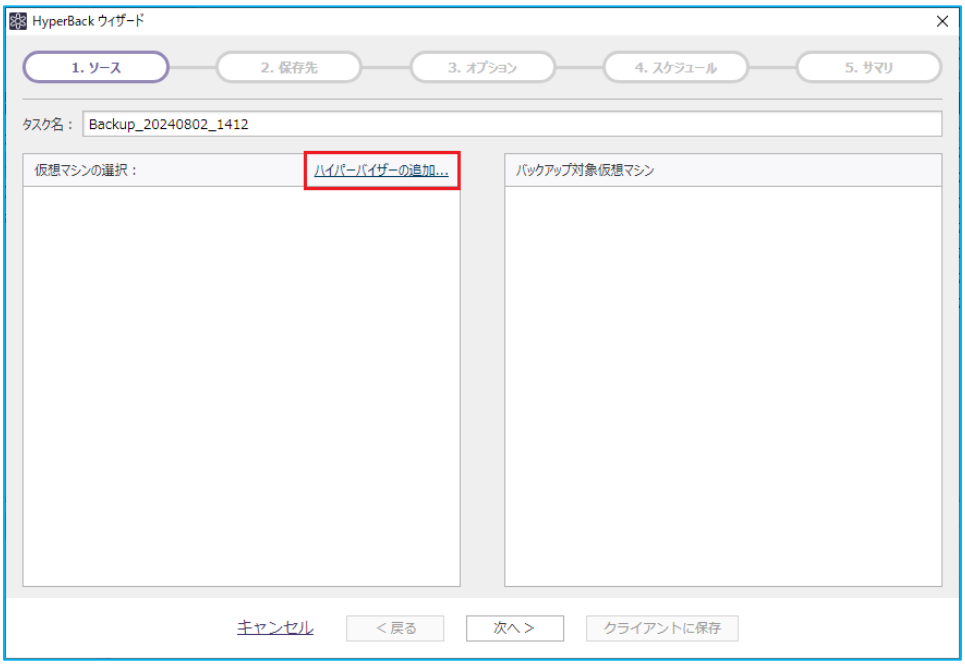
2. エージェントレス バックアップは「HyperBack」という機能です。HyperAgent のインストールされている管理対象コンピューターの詳細表示には「HyperBack」のタブが表示されます。



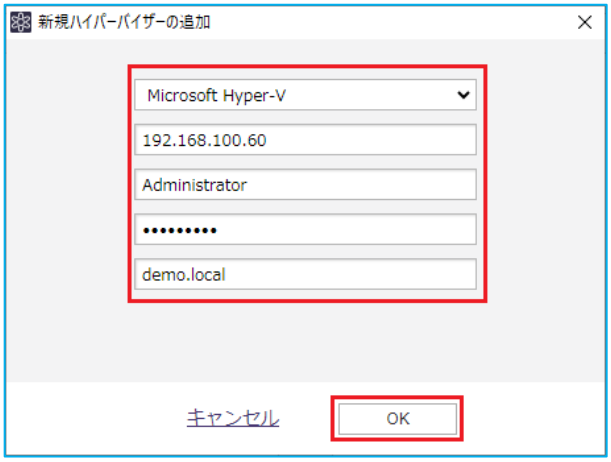
3. クライアントリストから、コンピューターを右クリックしてコンテキストメニューから、［タスクの作成］→［バックアップ］→［HyperBack］をクリックしてバックアップの設定を行います。



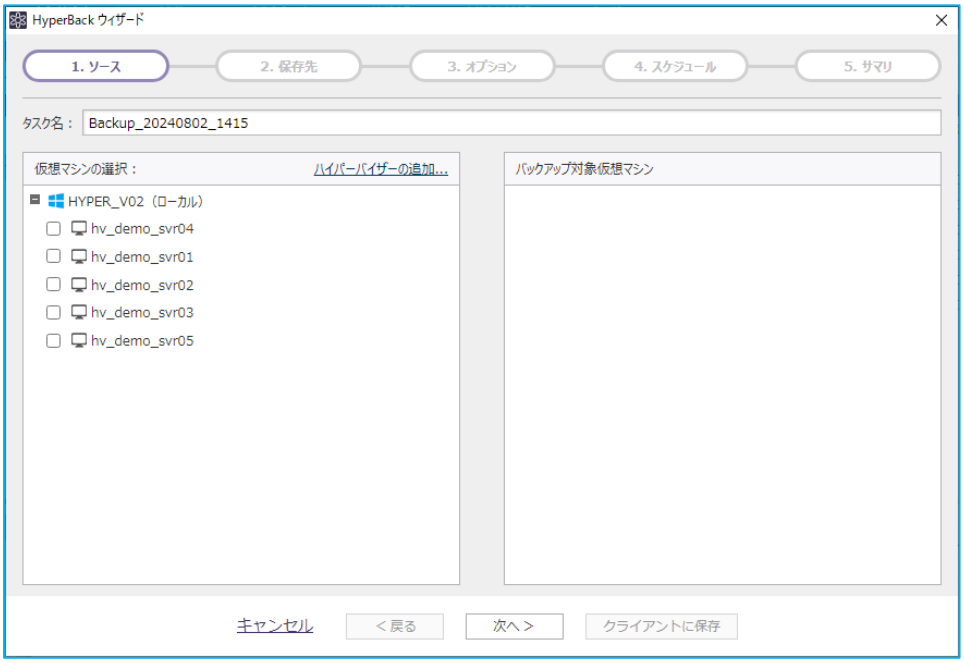
4. 最初に、バックアップ対象の仮想マシンが構成されているハイパーバイザーを登録します。
［ハイパーバイザーを追加］をクリックします。



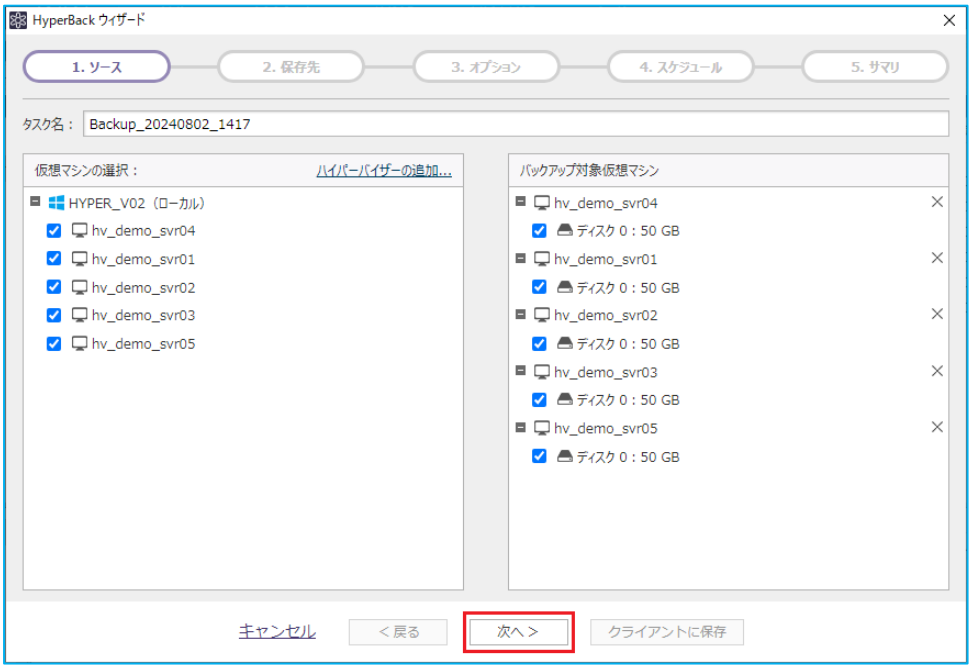
5. ハイパーバイザーを選択して、認証情報を入力します。ここでの例として、［ハイパーバイザータイプ：］に「Microsoft Hyper-V」を選択して、［ホスト名、または IP アドレス：］に Hyper-V ホストの IP アドレス「192.168.100.60」、［ユーザー名：］に「Administrator」、［パスワード：］に設定されているパスワードを入力してから、［OK］をクリックします。



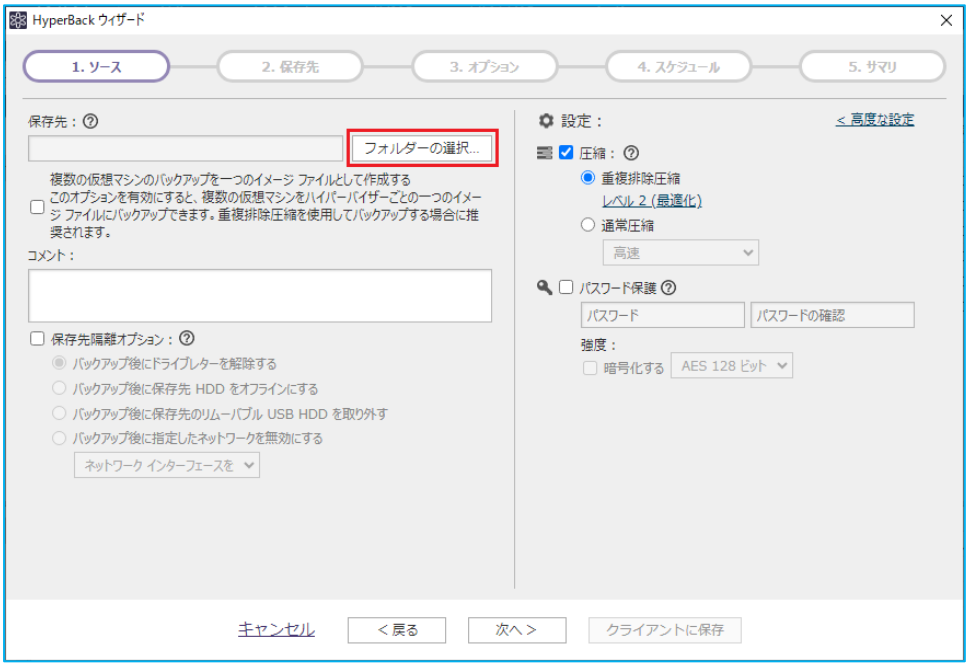
6. HyperBack ウィザードが表示されますので、バックアップ対象の仮想マシンの選択を行います。ハイパーバイザーを展開すると、そのハイパーバイザー上の仮想マシンがリストされます。



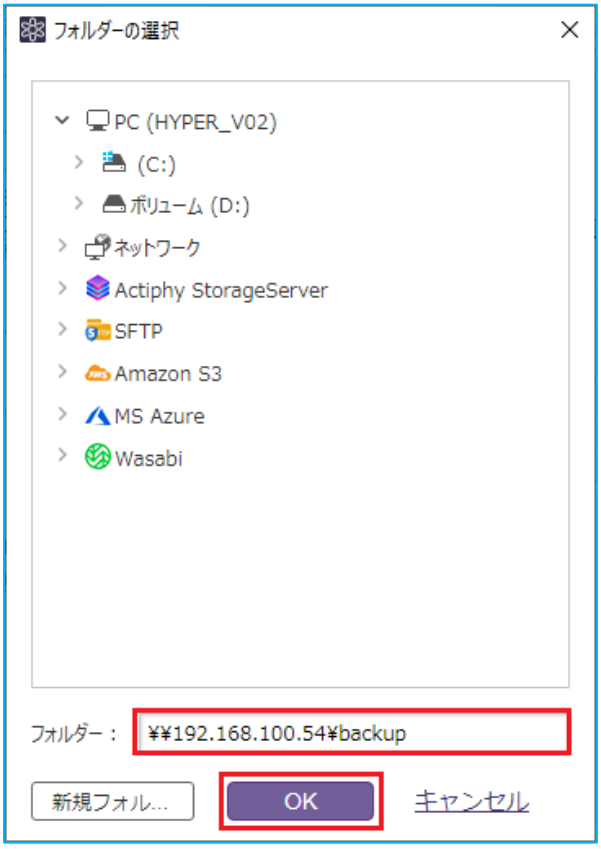
7. バックアップ対象の仮想マシンにチェックをいれると、左ペインにバックアップ対象候補のディスクが表示されます。次に、バックアップ対象のディスクにチェックをいれ、［次へ］をクリックします。



8. バックアップ保存先を指定します。［フォルダーの選択... ］をクリックします。



9. バックアップ保存先の選択ダイアログが表示されます。ここでの設定例として、ネットワーク共有フォルダー「¥¥192.168.100.54¥backup」を設定します。［フォルダー：］に、「¥¥192.168.100.54¥backup」を入力して、［OK］をクリックします。



10. 共有フォルダーの認証情報（ユーザー名、パスワード）を入力して、［接続］をクリックします。
次に、接続に成功したら、[OK]をクリックします。



11. バックアップ保存先の設定が完了したら、［次へ］をクリックします。［保存先隔離オプション：］、［設定：］、［高度な設定：］は、必要に応じて設定します。



12. 「保有ポリシー」、「E メール通知」、「実行優先度」などを必要に応じて設定します。ここでの設定例として、［保有ポリシーを有効にする］にチェックを入れ、保有ポリシーの世代数を「3」、対象外は全て削除を設定します。設定が完了したら、［次へ］をクリックします。



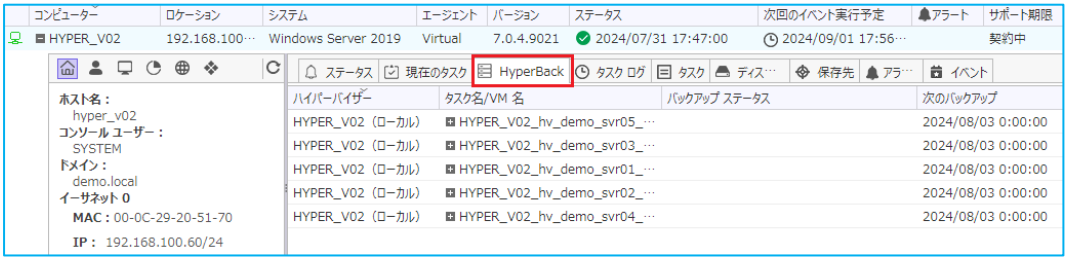
13. スケジュールの設定を行います。ベース、増分各々エージェントベースバックアップと同様の設定が可能です。ここでの設定例として、一般的な毎週日曜日の午前 0 時にベースバックアップ（フルバックアップ）、月曜日から土曜日の午前 0 時に増分バックアップのスケジュール設定を行います。設定が完了したら、［次へ］をクリックします。



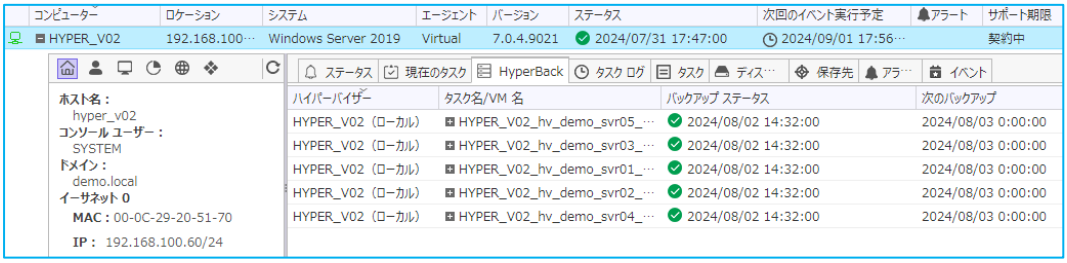
14. 最後にサマリ画面で設定が正しいかどうか確認し、問題がなければ「クライアントに保存」をクリックしてエージェントレス バックアップの設定を管理対象コンピューターに保存します。保存したら「閉じる」をクリックして設定を完了します。



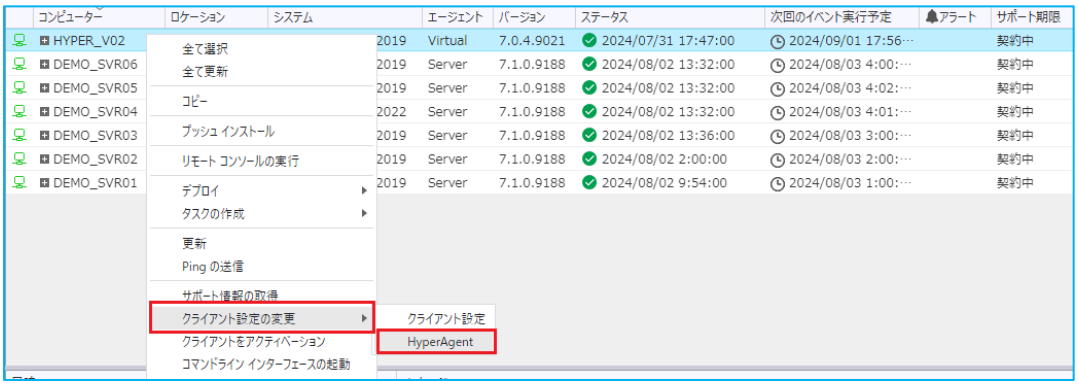
15. クライアントリストの「HyperBack」タブにタスクが表示されます。



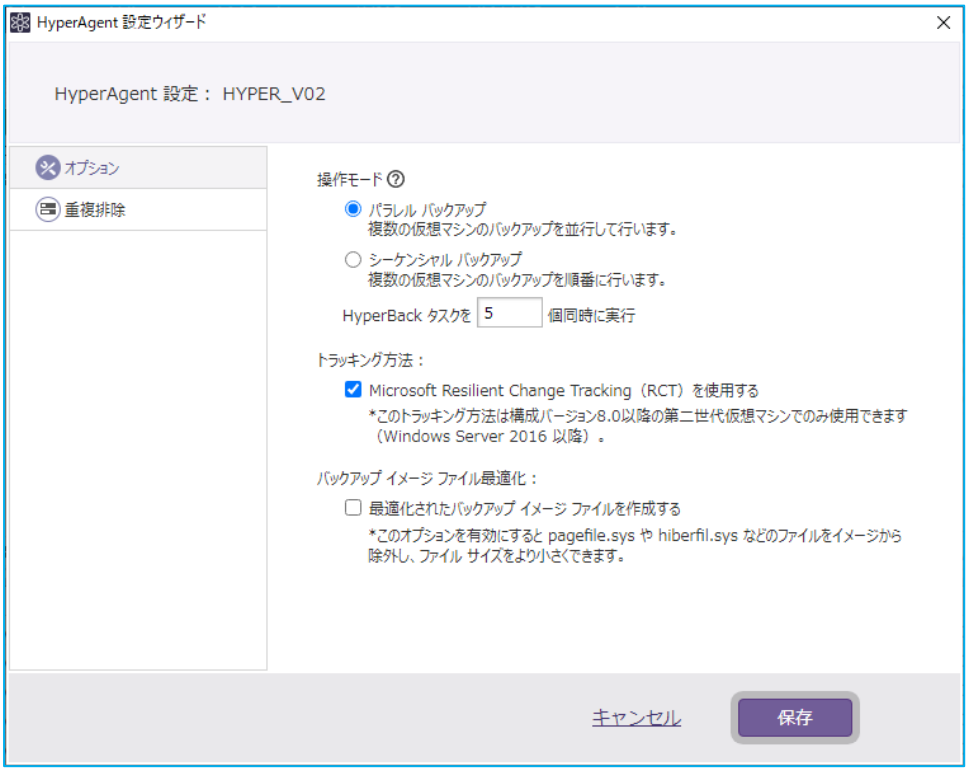
16. エージェントレス バックアップのステータスもここで確認できます。



17. HyperAgent の設定は、対象のハイパーバイザーのコンピューターを右クリックしてコンテキストメニューから、［クライアント設定の変更］→［HyperAgent］を選択します。



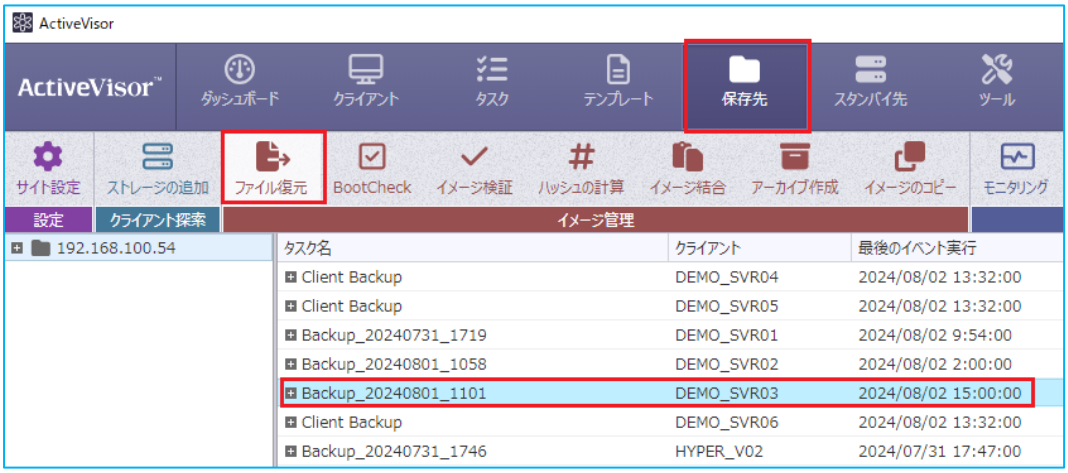
18. 「操作モード」は複数の仮想マシンのバックアップを並行して行うか、順番にひとつずつ行うかの設定です。「HyperAgent」が導入されたコンピューターのマシンリソース、ネットワークリソースに余裕がない時には「シーケンシャル バックアップ」を推奨します。「トラッキング方法」は仮想マシンの増分作成の方法を指定します。Windows Server 2016 以降、第二世代仮想マシンでは Window に標準で搭載された RCT を使用します。それ以外は Actiphy 独自の方法で増分を作成します。



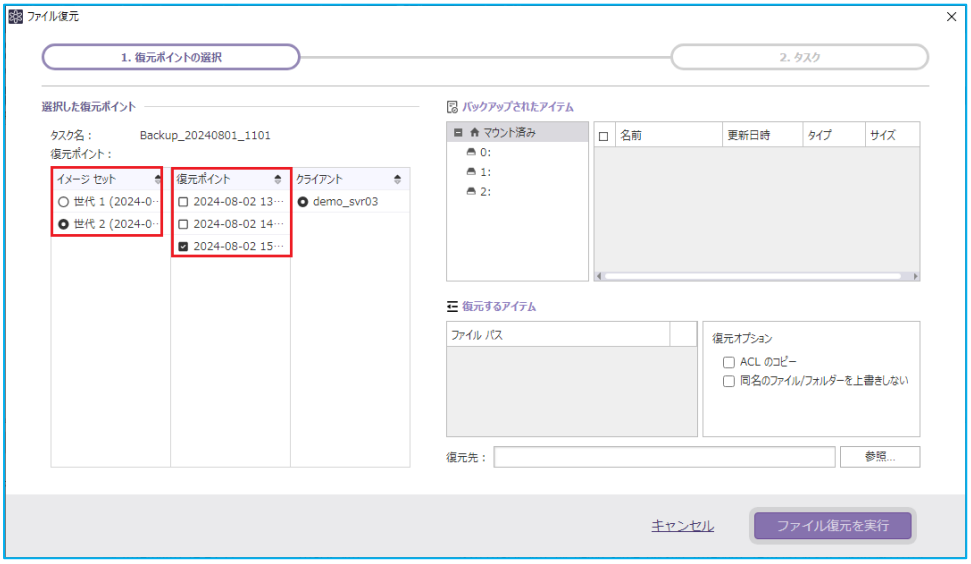
6-2. ファイル復元

ActiveVisor からバックアップの復元ポイントを指定して、ファイル/フォルダー単位で復元を行うことができます。ただし、復元先は、ネットワーク共有フォルダーか ActiveVisor のローカルファイルシステムに限られます。

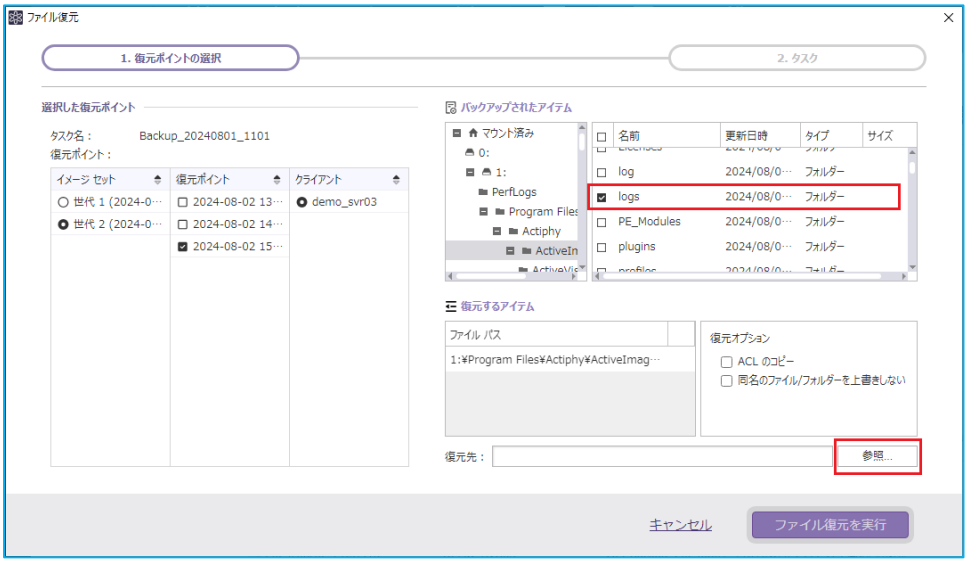
1. トップメニューの[保存先]タブを選択し、復元対象のコンピューターのタスク名を指定後に、操作リボンメニューの[ファイル復元]タブをクリックすると、ファイル復元ウィザードが起動します。



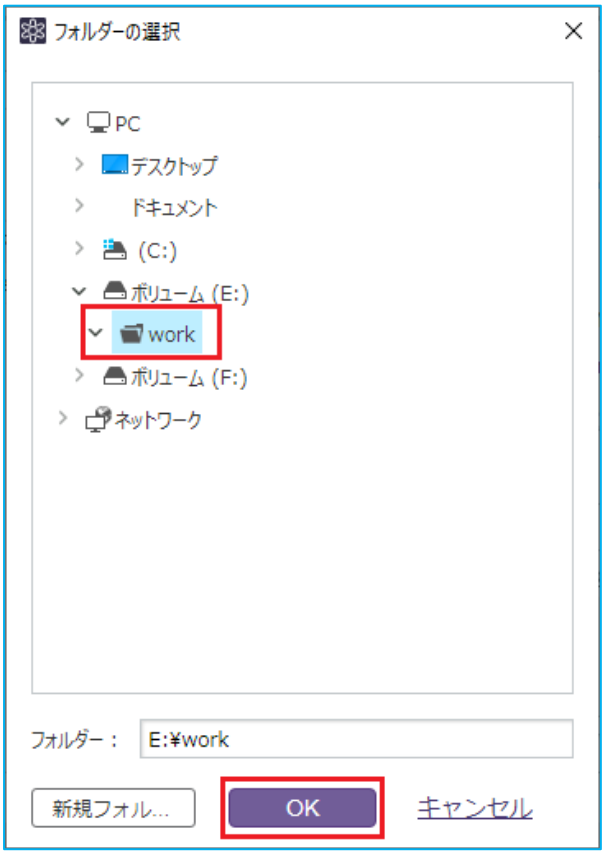
2. 復元対象のコンピューターのタスクから、バックアップの[イメージセット]と[復元ポイント]を選択すると、復元ポイントのマウントが行われます。



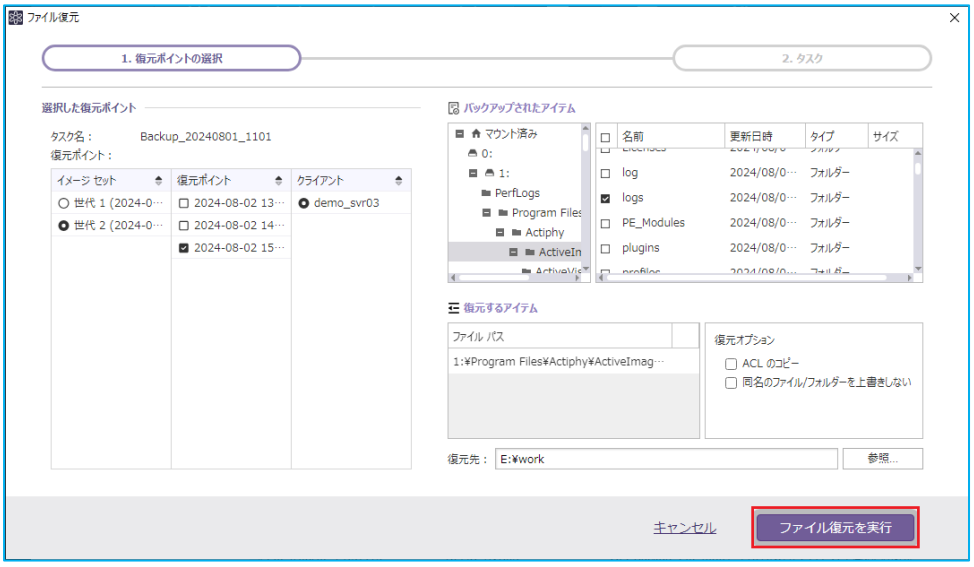
3. 復元したいファイル/フォルダーを選択します。コンピューターのファイル構造がそのままマウントされます（ActiveImage Protector のバックアップイメージのマウントと似たような機能です）。復元するファイル/フォルダーを選び、［復元先：］を設定します。［参照］をクリックすると復元先の選択の画面が表示されます。また、［オプション］なども必要に応じて適切に設定します。



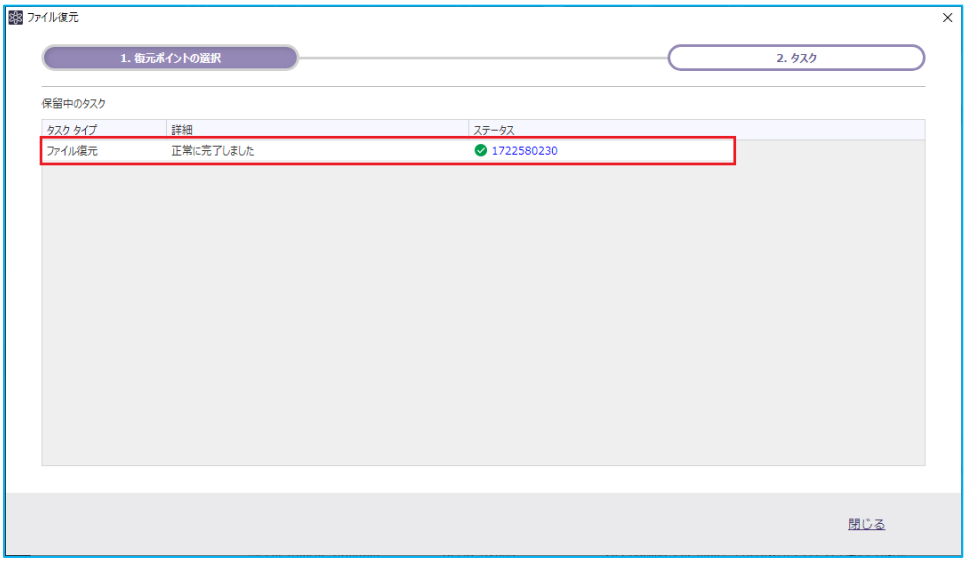
4. ここでの設定例として、ActiveVisor のローカルボリューム「E:¥work」を選択して［OK］をクリックします。



5. ［ファイル復元を実行］をクリックすると、復元が開始されます。ActiveVisor が動作しているコンピューター上で実行されますので、他のエージェントを経由したり、ActiveImage Protector を起動したりすることなくファイル/フォルダー単位の復元が可能です。



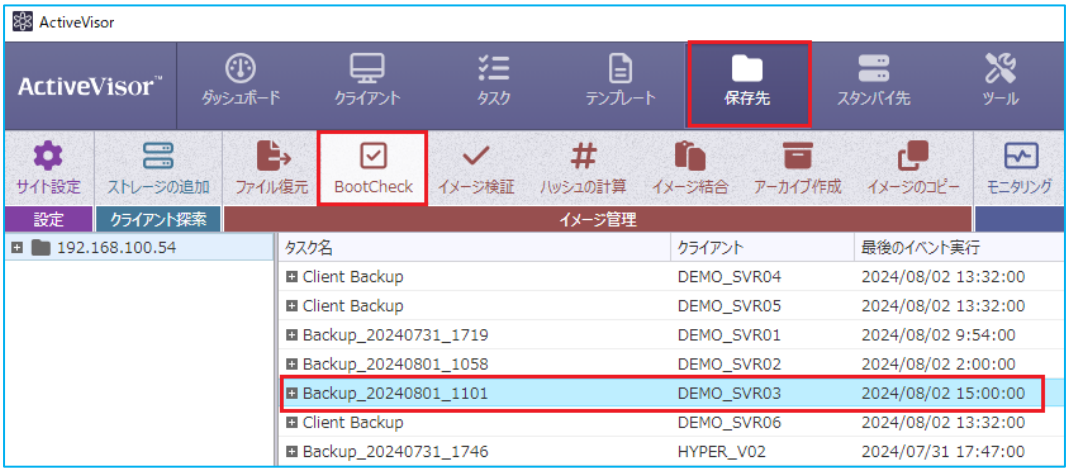
6. 「正常完了しました」と表示されたらファイル復元は完了です。



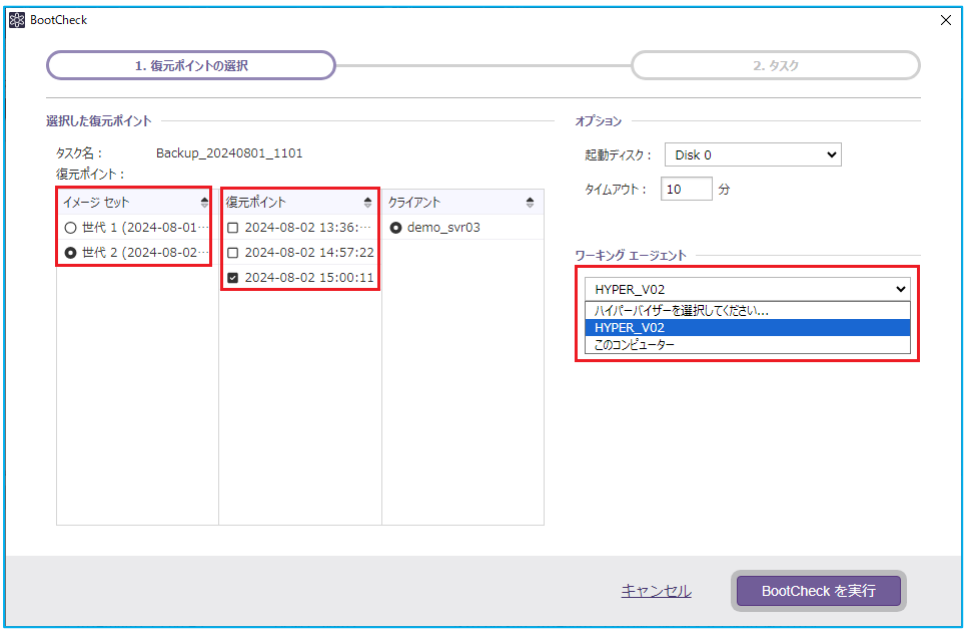
6-3. バックアップの起動確認：BootCheck

ActiveVisor から BootCheck を起動して、バックアップの起動確認を行うことができます。

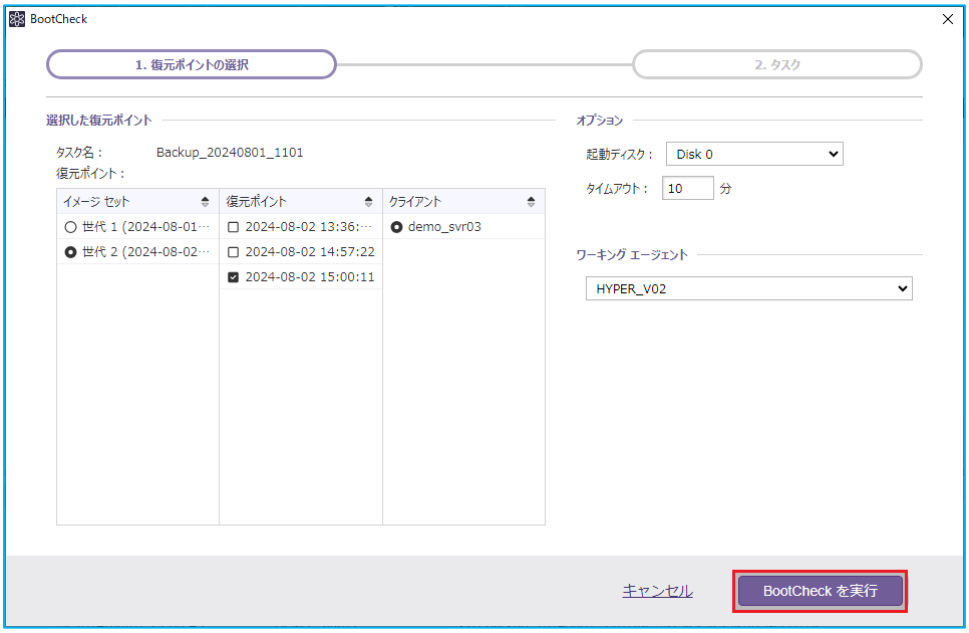
1. トップメニューの[保存先]タブを選択し、対象コンピューターのタスク名を指定後に、操作リボンメニューの[BootCheck]タブをクリックすると、BootCheck ウィザードが起動します。



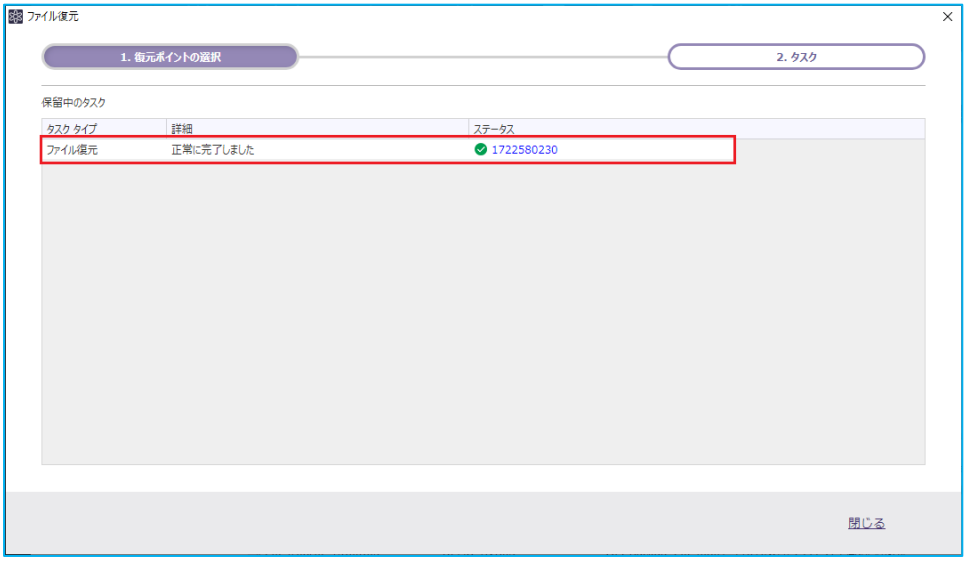
2. 対象コンピューターのタスクから、バックアップの[イメージセット]と[復元ポイント]を選択します。次に、[ワーキングエージェント]は、起動確認に使用するハイパーバイザーを選択します。ActiveViosr の［サイト設定］-［ハイパーバイザー］で登録した Hyper-V を選択します。ローカルホストの Hyper-V の場合は、[このコンピューター]を選択します。



3. イメージセット、復元ポイント、起動確認に使用するハイパーバイザーの指定が完了したら、[BootCheck を実行]をクリックすると、BootCheck が実行されます。



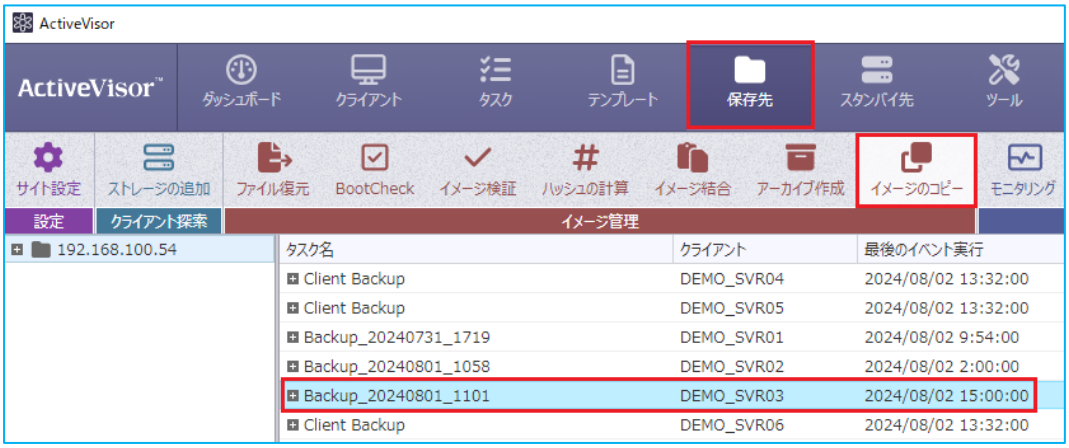
4. 「正常完了しました」と表示されたらバックアップの起動確認は完了です。



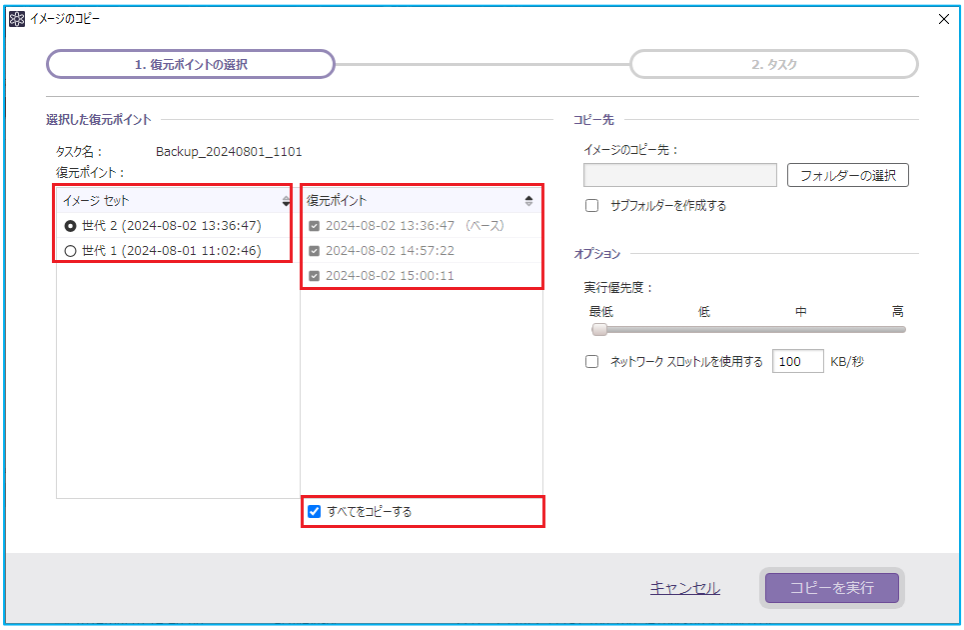
6-4. バックアップ ファイルの複製：イメージのコピー

ActiveVisor からバックアップ ファイルを任意の場所に複製することができます。

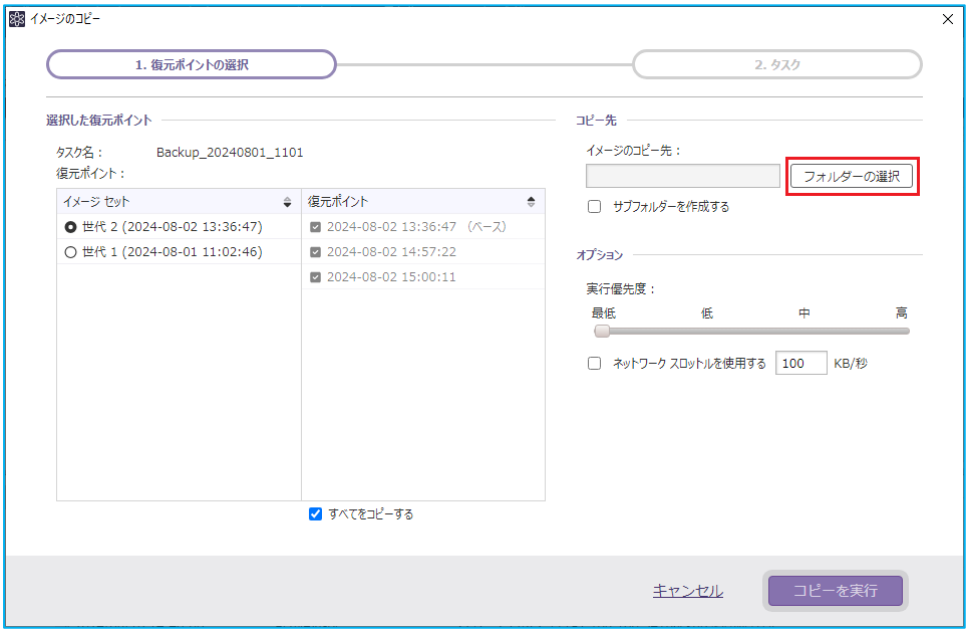
1. トップメニューの[保存先]タブを選択し、対象コンピューターのタスク名を指定後に、操作リボンメニューの[イメージのコピー]タブをクリックすると、イメージのコピーウィザードが起動します。



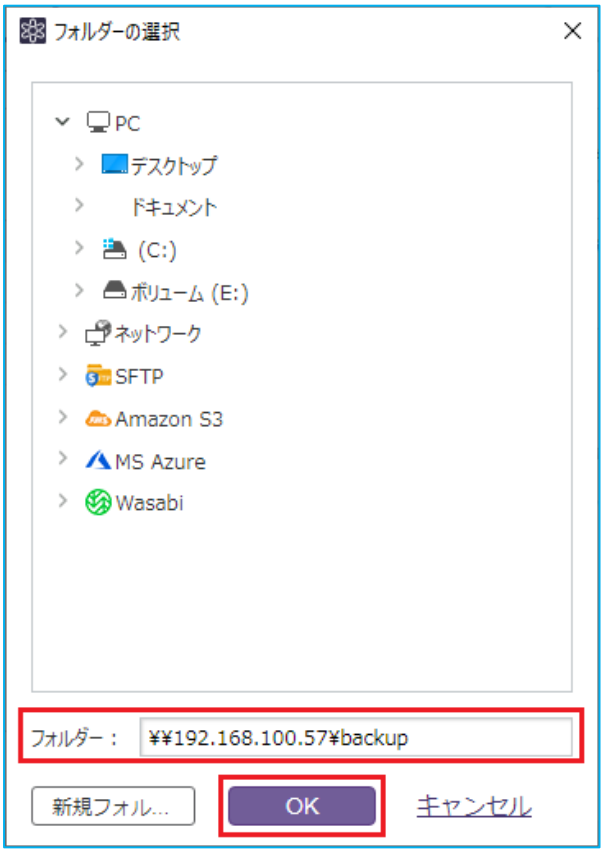
2. 対象コンピューターのタスクから、複製を行うバックアップの[イメージセット]と[復元ポイント]を選択します。［すべてコピーする］を有効にすると、選択したイメージセットの復元ポイントのすべてが対象として選択されます。



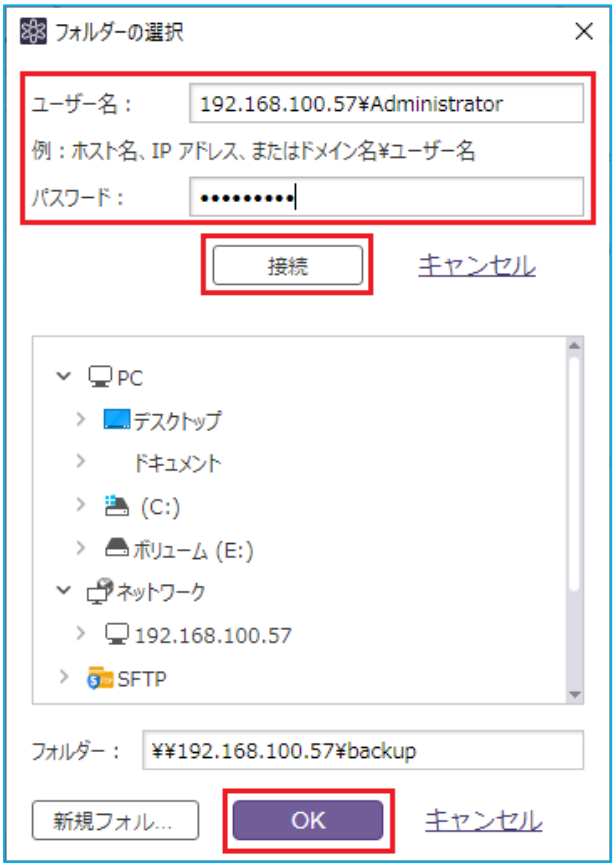
3. [フォルダーの選択]をクリックし、複製先を指定します。



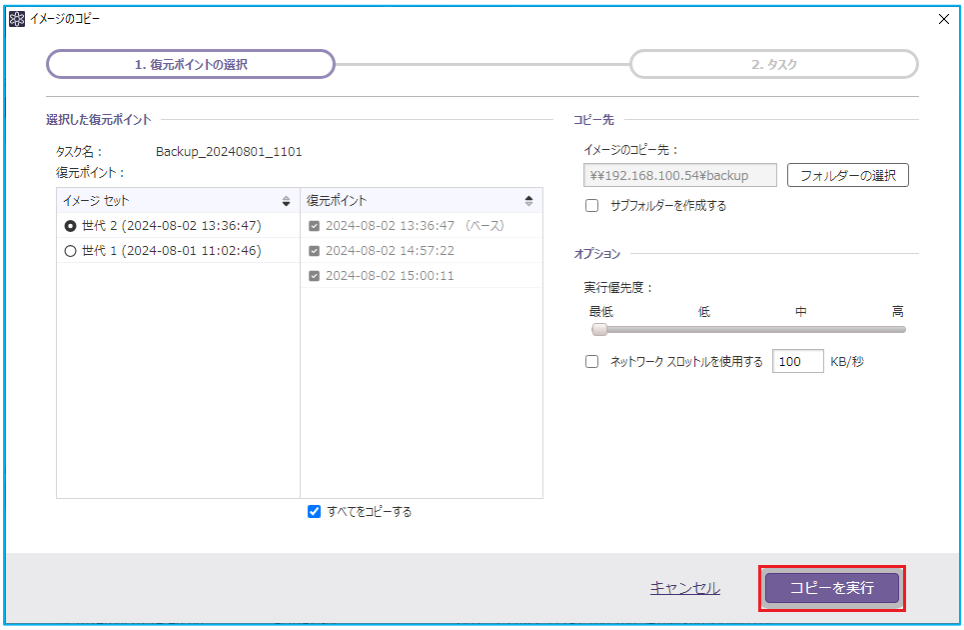
4. 複製先の選択ダイアログが表示されます。ここでの設定例として、ネットワーク共有フォルダー「¥¥192.168.100.57¥backup」を設定します。［フォルダー］に、「¥¥192.168.100.57¥backup」を入力して、［OK］をクリックします。



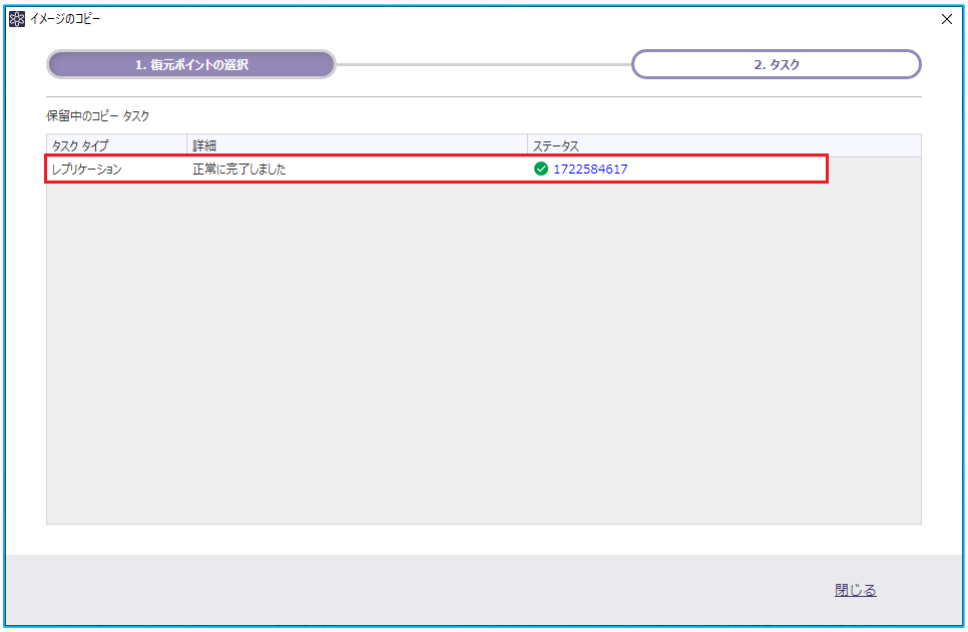
5. 共有フォルダーの認証情報（ユーザー名、パスワード）を入力して、［接続］をクリックします。次に、接続が完了したら、[OK]をクリックします。



6. イメージセット、復元ポイント、複製先の指定が完了したら、[コピーを実行]をクリックすると、バックアップの複製が実行されます。



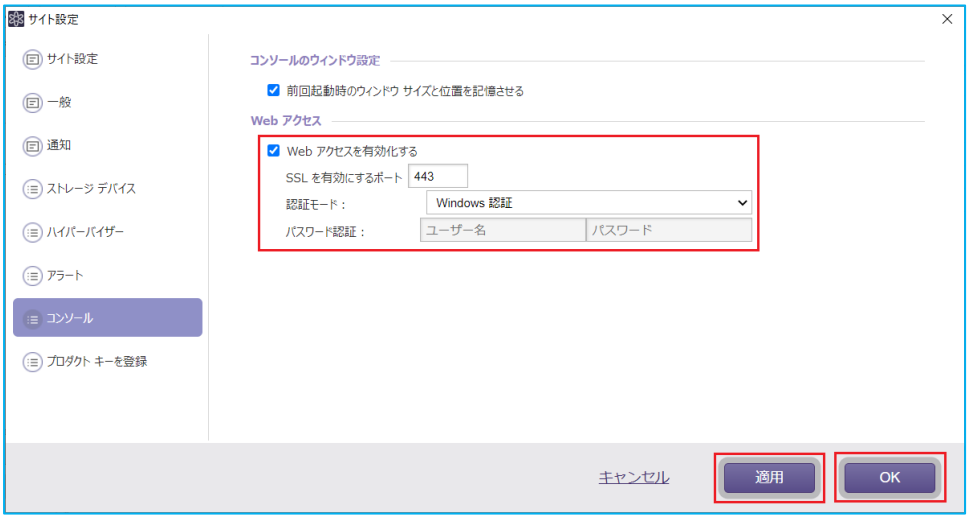
7. 正常完了しましたと表示されたらバックアップ ファイルの複製は完了です。



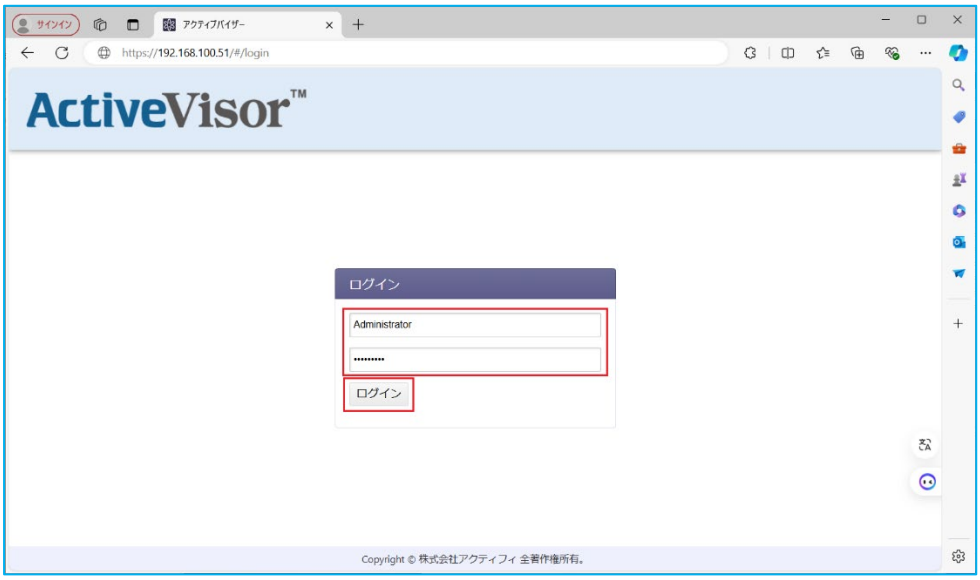
6-5. Web コンソール

Web ブラウザーを経由して、ActiveVisor のエージェントに接続し、管理対象コンピューターの監視、バックアップエージェントやスケジュールの変更などの操作を行えます。対応する Web ブラウザーは、Google Chrome、Microsoft Edge、Apple Safari です。

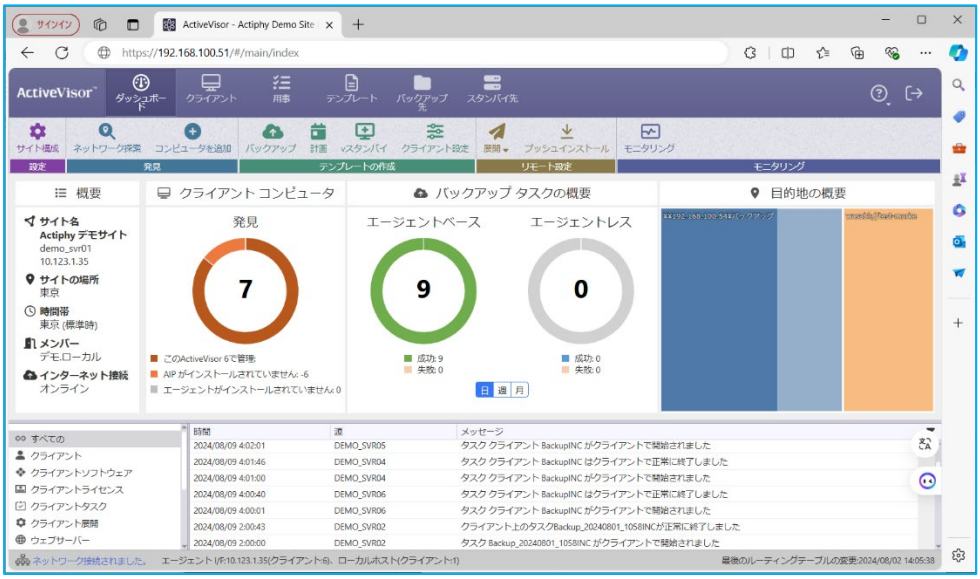
1. Web ブラウザーによる操作を行うには、トップメニューの［サイト設定］タブ→［コンソール］タブを選択して、「Web アクセス」で［Web アクセスを有効化する］にチェックを入れます。接続プロトコルの SSL のポート番号はデフォルトの「443」、［認証モード］は「Windows 認証」を設定します。設定が完了したら、［適用］をクリックして、次に［OK］をクリックすると設定は完了です。



2. ここでの設定例として、Microsoft Edge ブラウザーがインストールされた PC から、ActiveVisor が稼働するコンピューターの IP アドレス「192.168.100.54」を入力します。自動的にログイン画面となります。「Windows 認証」を選択したので、管理者とそのパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。



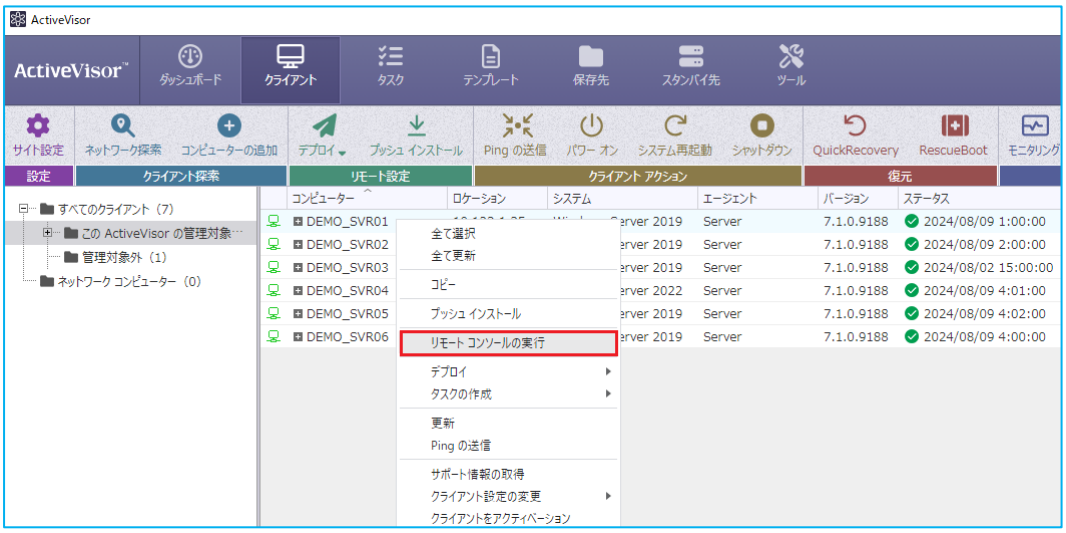
3. ActiveVisor のコンソール画面が表示されます。Web ブラウザーから管理、操作が可能となることで、より柔軟な管理体制を構築することができます。



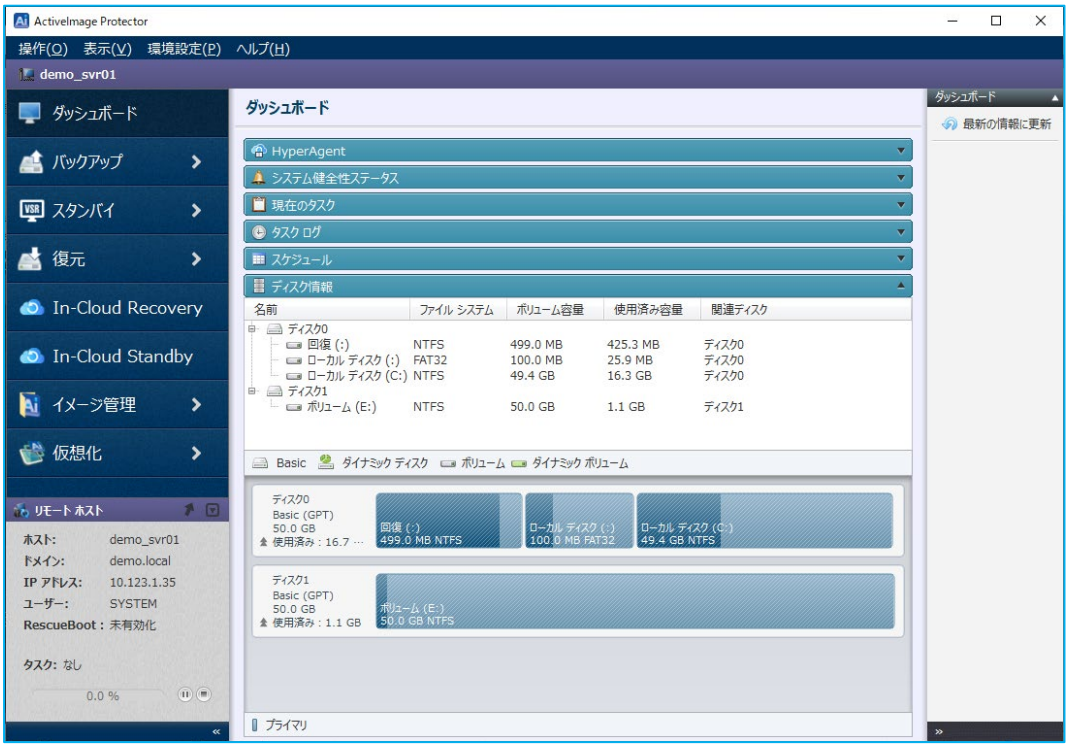
6-6. リモート管理コンソール接続

ActiveVisor は、ActiveImage Protector のエージェントに接続して多くの操作を行えます。ここでは、ActiveVisor のリモート管理コンソールから、ActiveImage Protector のエージェントに接続する方法について説明します。

1. ActiveVisor のクライアントリストから管理対象コンピューターを右クリックして、コンテキストメニューの［リモートコンソールの実行］をクリックします。



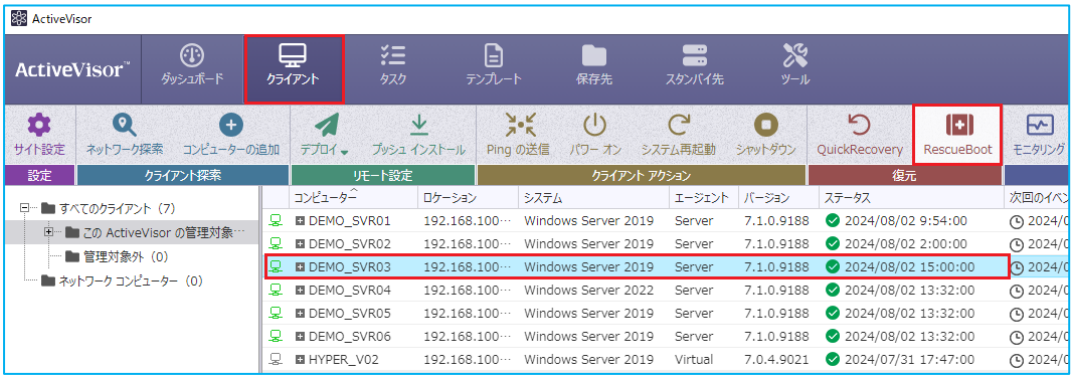
2. リモート管理コンソールが起動します。ActiveVisor から管理対象コンピューターのローカル管理コンソールと同じ操作が行えます。



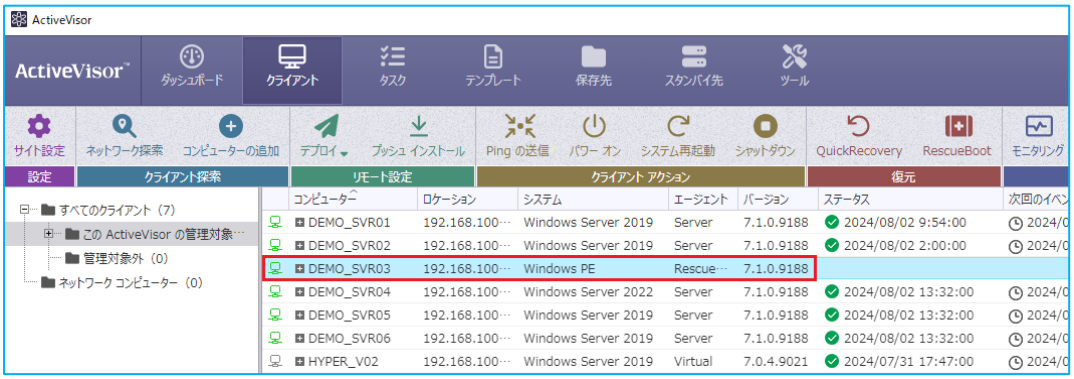
6-7. RescueBoot のリモート操作

ここでは、ActiveVisor から管理対象コンピューターの「RescueBoot」のリモート操作について説明します。「RescueBoot」は、ActiveImage Protector の起動環境の媒体を必要とすることなく、起動環境を起動する機能です。※RescueBoot のリモート操作は、対象のコンピューターのシステムが稼働状態である必要があります。

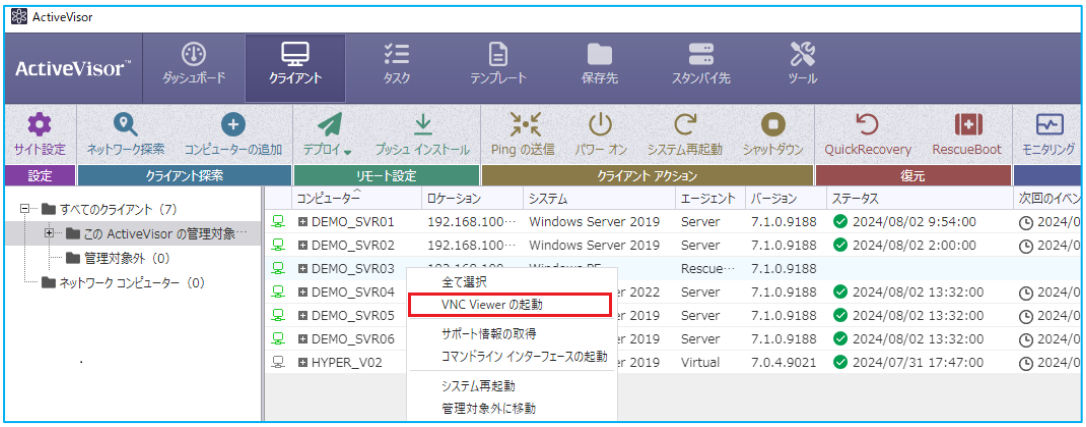
1. トップメニューの[クライアント]タブを選択し、クライアントリストから対象コンピューターを指定後に、操作リボンメニューの[RescueBoot]タブをクリックすると、RescueBoot ウィザードが起動します。



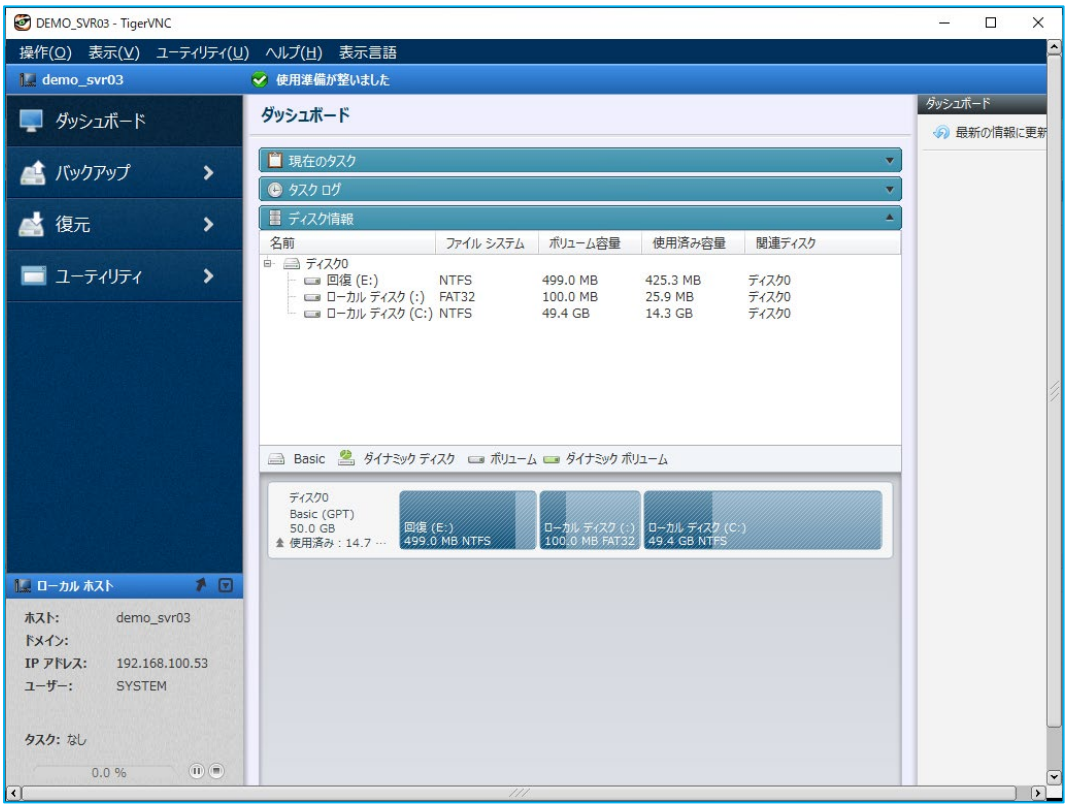
2. 起動環境が起動するまで、しばらく待ちます。起動環境が起動すると[システム]の表示が「Windows PE」、[エージェント]の表示が「RescueBoot」になります。



3. 次に、管理対象コンピューターを右クリックして、コンテキストメニューの［VNC Viewer の起動］をクリックします。



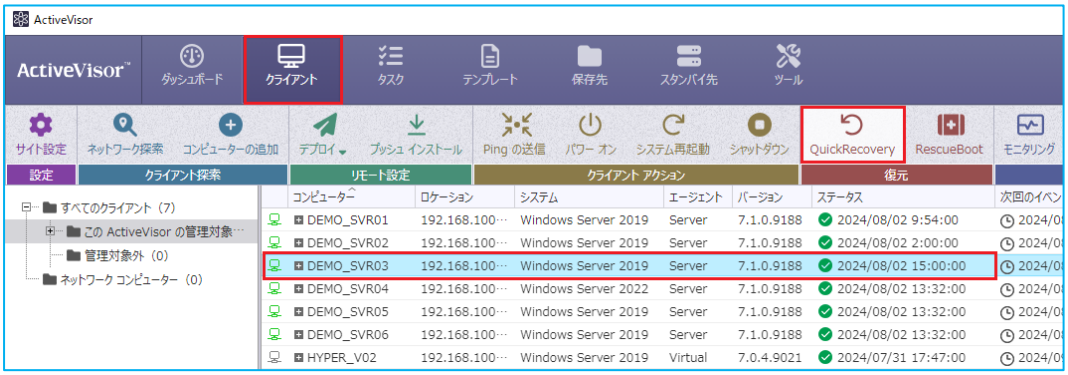
4. 管理対象コンピューターの起動環境に接続されます。復元対象のコンピューターの前まで行かなくても、リモートから起動環境を操作することができます。



6-8. QuickRecovery のリモート操作

ここでは、ActiveVisor から管理対象コンピューターの「QuickRecovery」のリモート操作について説明します。
「QuickRecovery」は、ActiveImage Protector の起動環境の媒体を必要とすることなく、復元環境を起動します。
復元環境の起動後に、リカバリーポイントを指定するだけで、簡単にシステム復元することができます。
※QuickRecovery のリモート操作は、対象のコンピューターのシステムが稼働状態である必要があります。

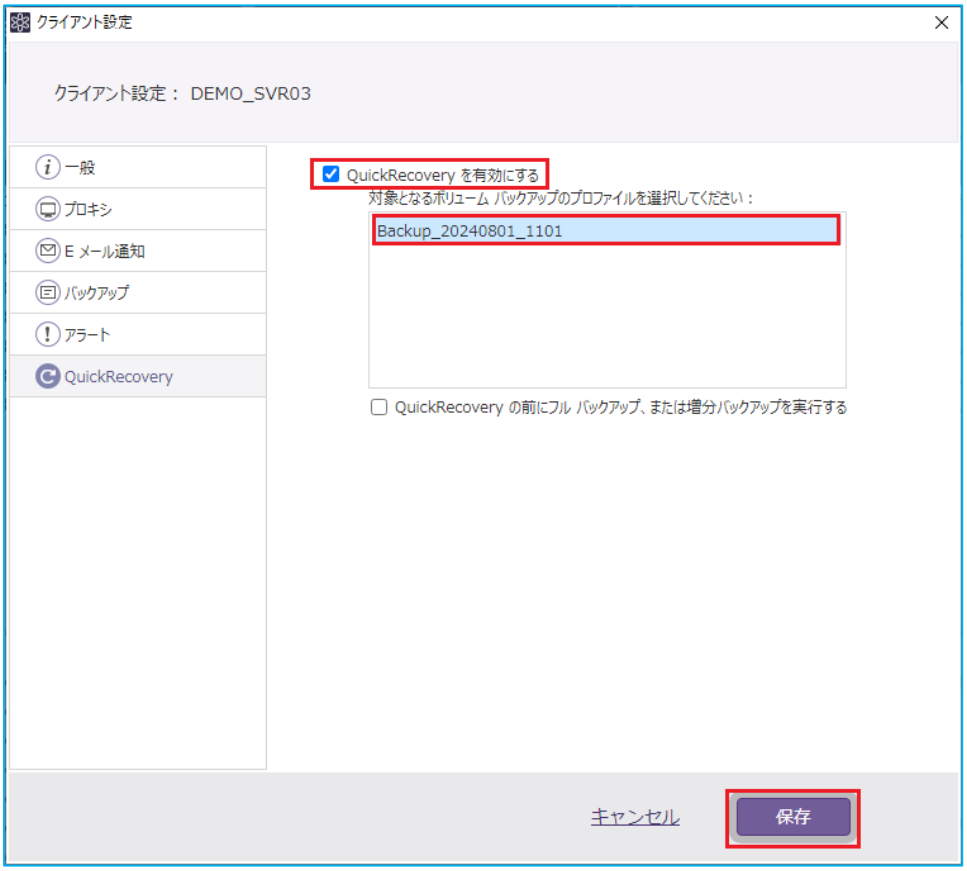
1. トップメニューの[クライアント]タブを選択し、クライアントリストから対象コンピューターを指定後に、操作リボンメニューの[QuickRecovery]タブをクリックすると、QuickRecovery ウィザードが起動します。



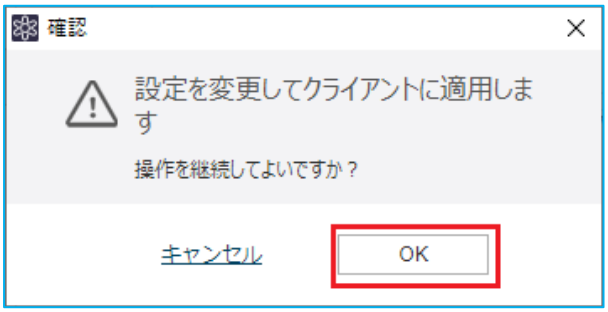
2. ［エージェント設定］-［QuickRecovery］で必要な設定がされていない場合は、以下のメッセージが表示されます。[OK]をクリックして、QuickRecovery のバックアップ プロファイルの設定を行います。



3. [QuickRecovery を有効にする]にチェックし有効にします。次に、対象のバックアップ プロファイルを選択し、保存をクリックします。QuickRecovery の実行前に、フルバックアップ、または増分バックアップを実行することができます。



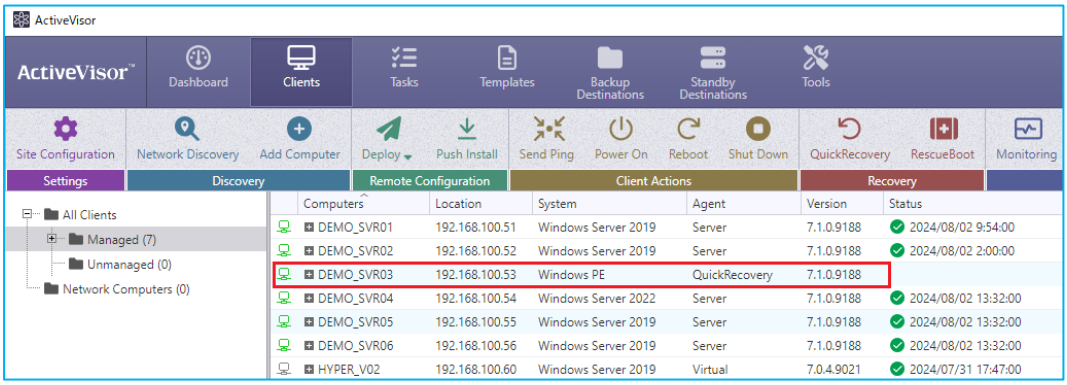
4. [OK]をクリックすると、設定が適用されます。



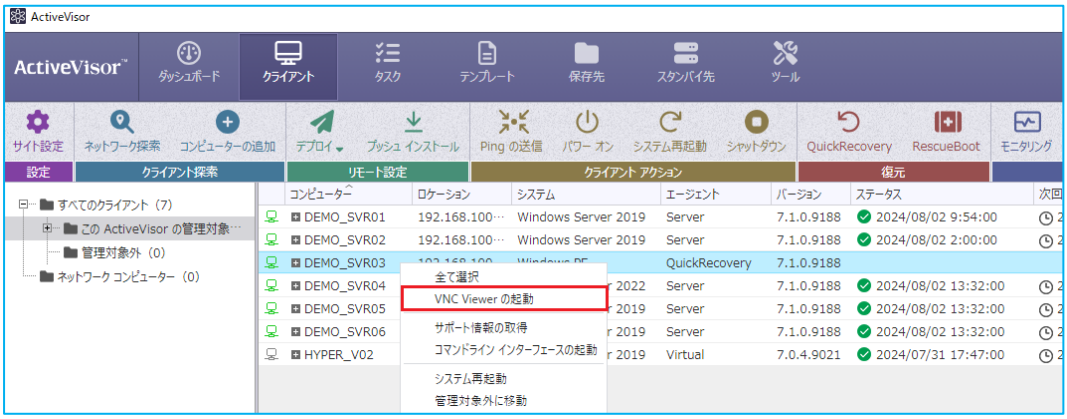
5. [OK]をクリックすると、QuickRecovery が起動します。



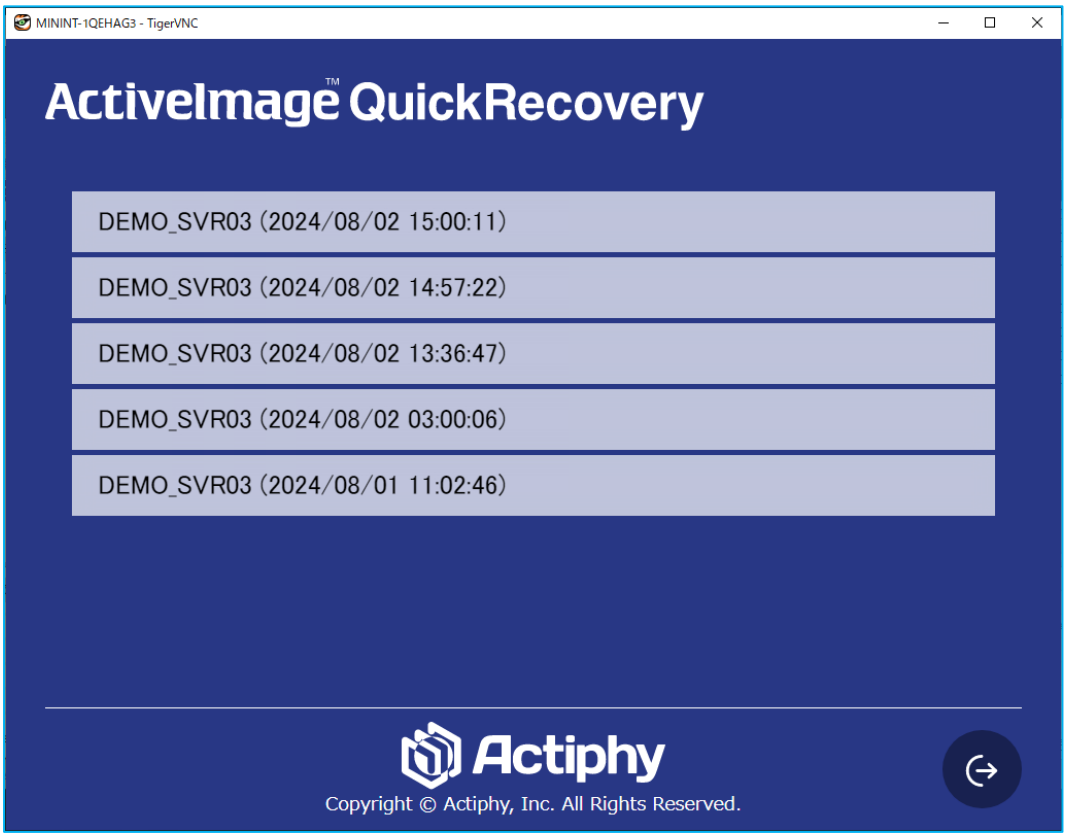
6. 復元環境が起動すると[システム]の表示が「Windows PE」、[エージェント]の表示が「QuickRecovery」になります。



7. 次に、管理対象コンピューターを右クリックして、コンテキストメニューの［VNC Viewer の起動］をクリックします。



8. 管理対象コンピューターの QuickRecovery の復元環境に接続されます。復元対象のコンピューターの前まで行かなくても、リモートから復元操作を行うことができます。



6-9. リモート復元機能：RescueBoot 起動したコンピューターへの復元

リモート復元機能は、RescueBoot 起動、または PXE 起動（ネットワークブート）したコンピューターに対して、簡単に復元をリモートから行うことができます。ここでは、リモート復元機能による RescueBoot 起動した対象のコンピューターへの復元手順について説明します。

※ ActiveVisor バージョン 8.1.0.3427 において、リモート復元機能、およびネットワークブートシステムの PXE サーバー機能が実装されました。

※ リモート復元機能は、PXE 起動しているコンピューター、もしくは RescueBoot 起動しているコンピューターに対してのみ実行できます。

※ リモート復元機能は、以下の復元には対応していません。

・バックアップ元コンピューターとディスク構成が異なるコンピューターへの復元

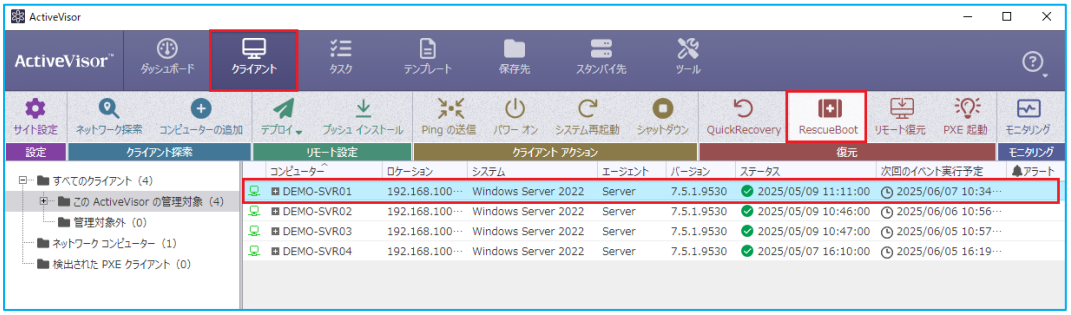
・データ ディスクのみを対象にしたバックアップを使用した復元

・ボリューム単位で作成したバックアップを使用した復元

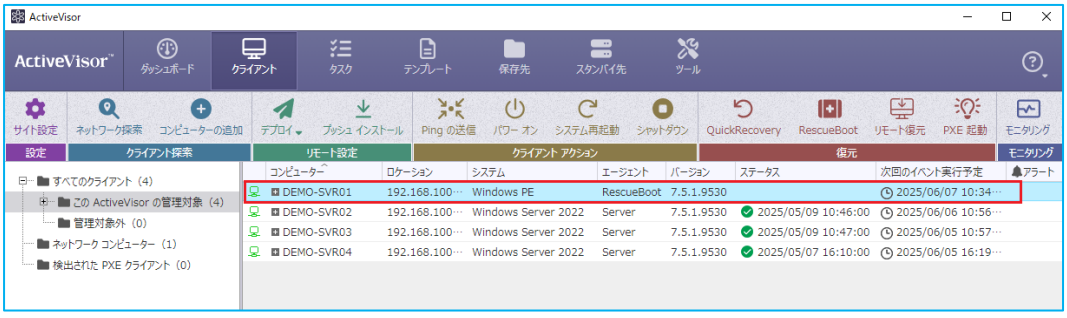
※ リモート復元機能の詳細な注意点などについては、以下のオンライン ヘルプの[クライアント ビュー] → [リモート復元]の項を参照してください。

https://webhelp.actiphy.com/ActiveVisor/v8/ja_JP/

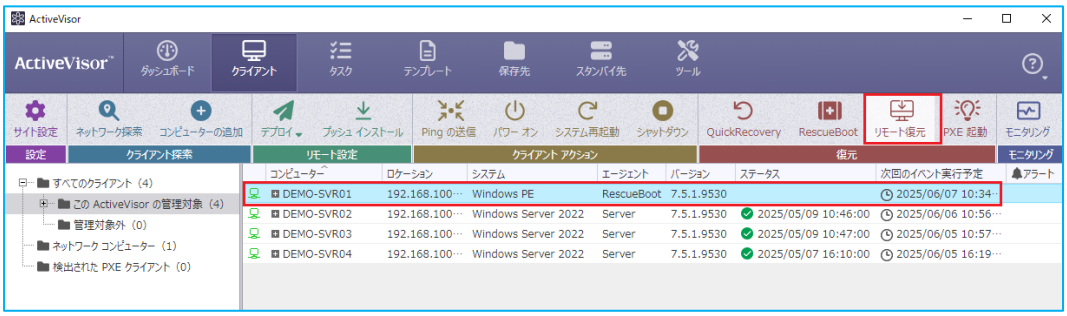
1. RescueBoot の起動は、トップメニューの[クライアント]タブを選択し、クライアントリストから対象のコンピューターを指定後に、操作リボンメニューの[RescueBoot]タブをクリックします。



2. RescueBoot起動するまで、しばらく待ちます。RescueBoot起動すると[システム]の表示が「Windows PE」、[エージェント]の表示が「RescueBoot」になります。



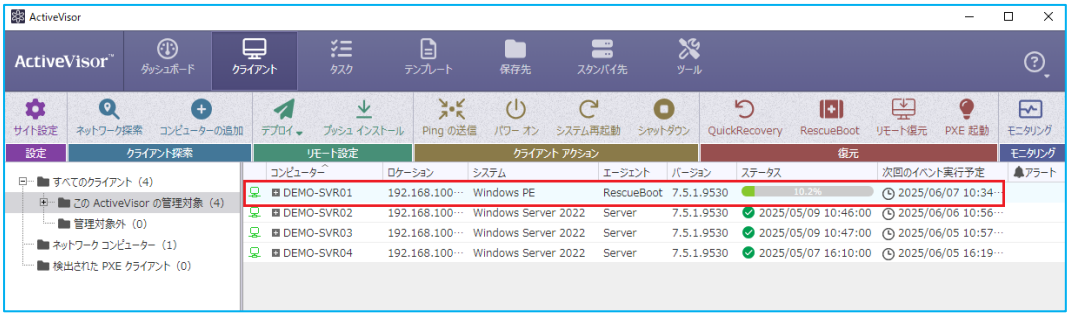
3. 次に、RescueBoot 起動した対象のコンピューターを指定後に、操作リボンメニューの[リモート復元]タブをクリックします。



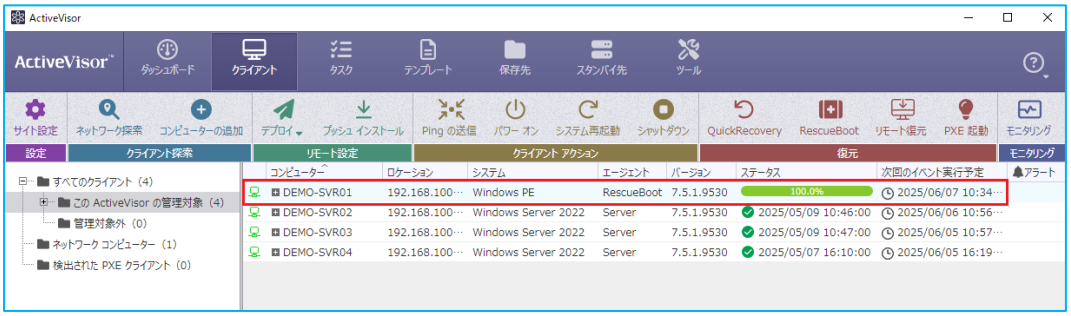
4. リモート設定画面から、復元方法と復元ポイントを選択します。
ここでは、[管理対象]に[最新のバックアップを自動適用]を選択します。自動的に復元対象に選択したコンピューターの最新のバックアップの復元ポイントが抽出され、[サマリ]に表示されます。[復元対象]では、RescueBoot 起動した対象のコンピューターを指定して[リモート復元]を実行している場合は、復元対象のコンピューターとして選択された状態になります。復元対象のコンピューターと復元ポイントを確認後に、[復元の開始]をクリックします。



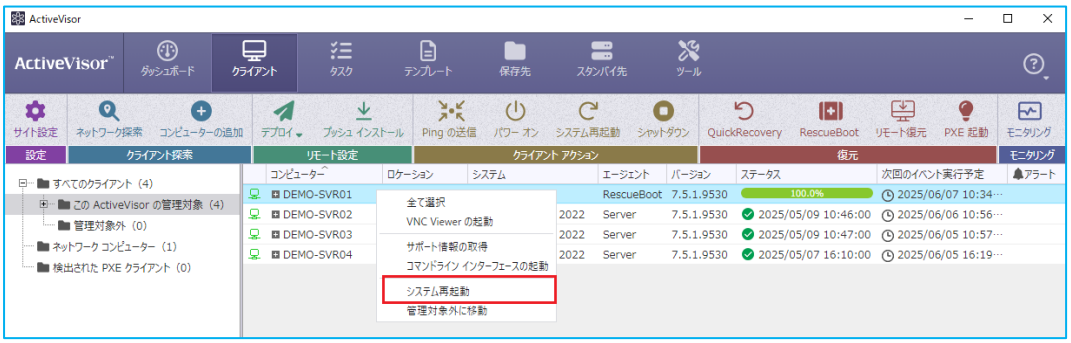
5. 復元が開始されると進捗状況が表示されます。



6. [ステータス]のプログレスバーが 100%になったら、復元は完了です。



7. 右クリックメニューから[システム再起動]をクリックして、システムを再起動して正常動作を確認します。
これで、リモート復元機能からの RescueBoot 起動した対象のコンピューターへの復元は完了です。



6-10. リモート復元機能：PXE 起動したコンピューターへの復元

リモート復元機能は、RescueBoot 起動、または PXE 起動（ネットワークブート）したコンピューターに対して復元をリモートから行うことができます。ここでは、リモート復元機能による PXE 起動した対象のコンピューターへの復元手順について説明します。

※ ActiveVisor バージョン 8.1.0.3427 において、リモート復元機能、およびネットワークブートシステムの PXE サーバー機能が実装されました。

※ リモート復元機能は、PXE 起動しているコンピューター、もしくは RescueBoot 起動しているコンピューターに対してのみ実行できます。

※ リモート復元機能は、以下の復元には対応していません。

・バックアップ元コンピューターとディスク構成が異なるコンピューターへの復元

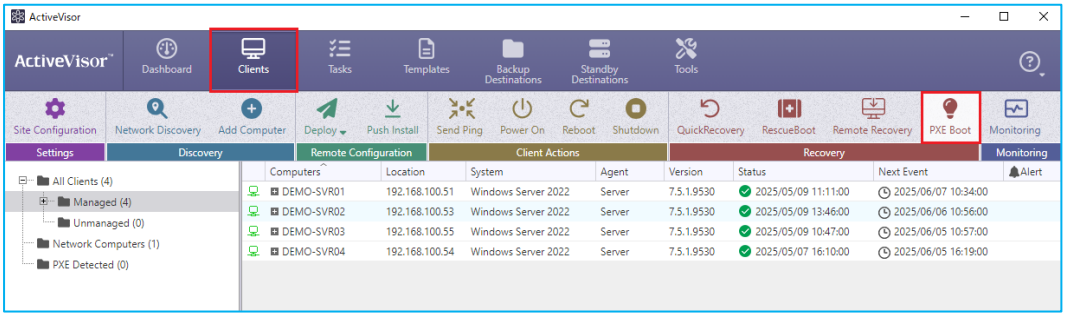
・データ ディスクのみを対象にしたバックアップを使用した復元

・ボリューム単位で作成したバックアップを使用した復元

※ リモート復元機能の詳細な注意点などについては、以下のオンライン ヘルプの[クライアント ビュー] → [リモート復元]の項を参照してください。

https://webhelp.actiphy.com/ActiveVisor/v8/ja_JP/

1. PXE サービスの起動は、トップメニューの[クライアント]タブを選択し、操作リボンメニューの[PXE]タブをクリックします。

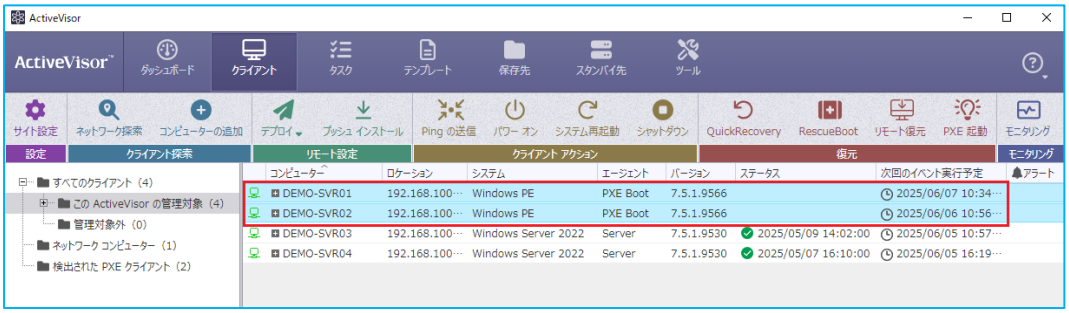


2. PXE 起動する対象のコンピューターをネットワーク起動(IPv4)します。起動すると以下の画面になります。

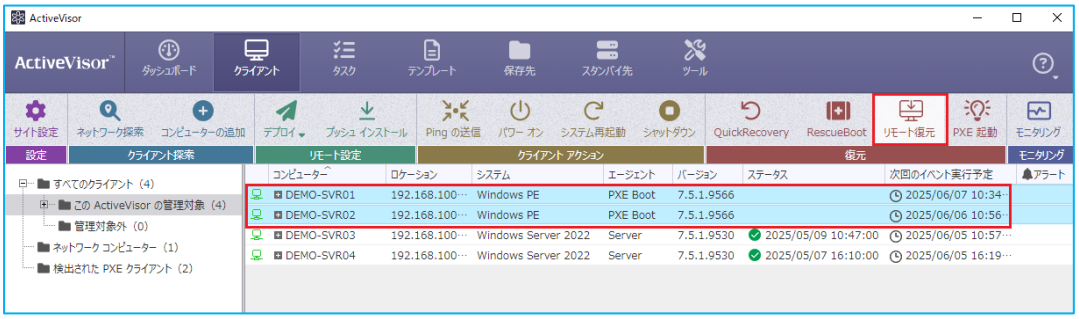
※ PXE 起動の方法についてはコンピューターの製造元にご確認ください。



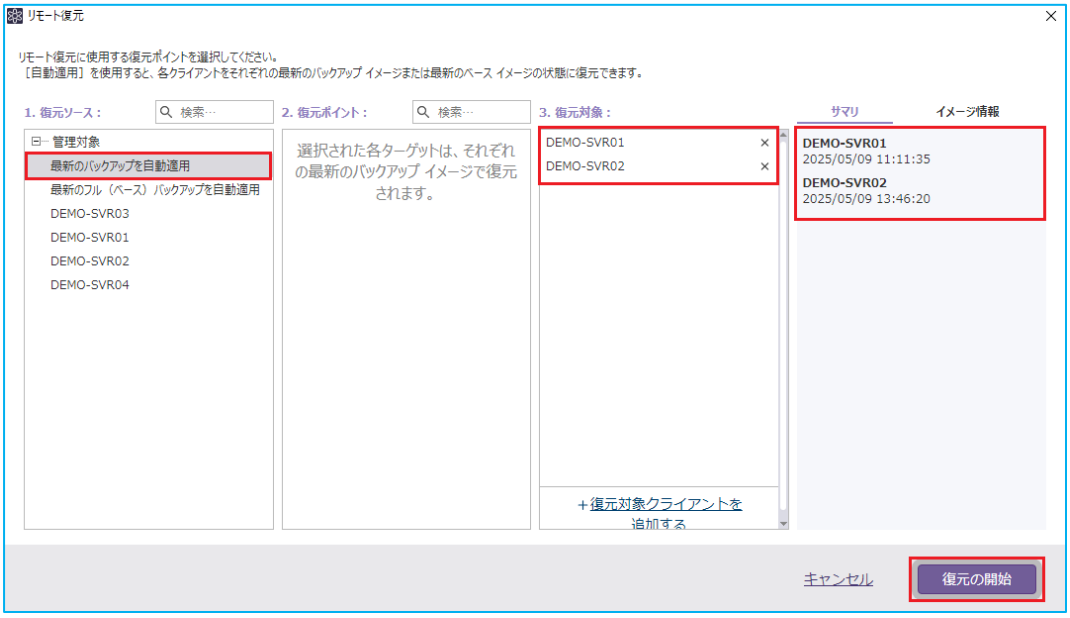
3. PXE 起動するまで、しばらく待ちます。PXE 起動すると[システム]の表示が「Windows PE」、[エージェント]の表示が「PXE Boot」になります。



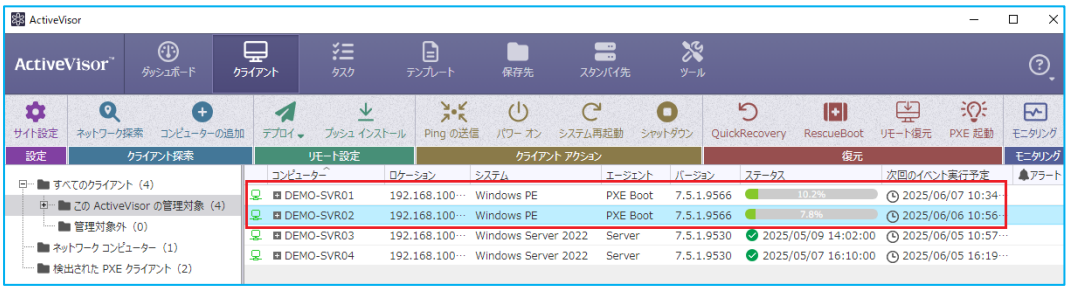
4. 次に、PXE 起動した対象のコンピューターを指定後に、操作リボンメニューの[リモート復元]タブをクリックします。複数の PXE 起動した対象のコンピューターを指定して、同時に復元を行うことができます。



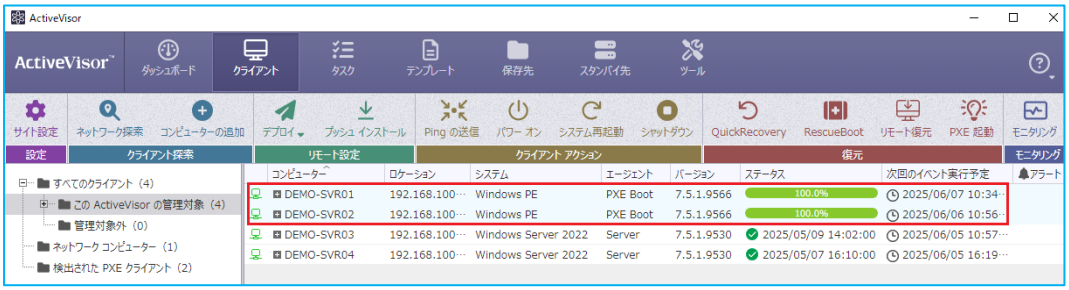
5. リモート設定画面から、復元方法と復元ポイントを設定します。
ここでは、[管理対象]に[最新のバックアップを自動適用]を選択します。自動的に復元対象に選択したクライアントの最新のバックアップの復元ポイントが抽出され[サマリ]に表示されます。[復元対象]では、RescueBoot 起動した対象のコンピューターを指定して[リモート復元]を実行している場合は、復元対象のコンピューターとして選択された状態になります。復元対象のコンピューターと復元ポイントを確認後に、[復元の開始]をクリックします。



6. 復元が開始されると進捗状況が表示されます。



7. [ステータス]のプログレスバーが 100%になったら、復元は完了です。

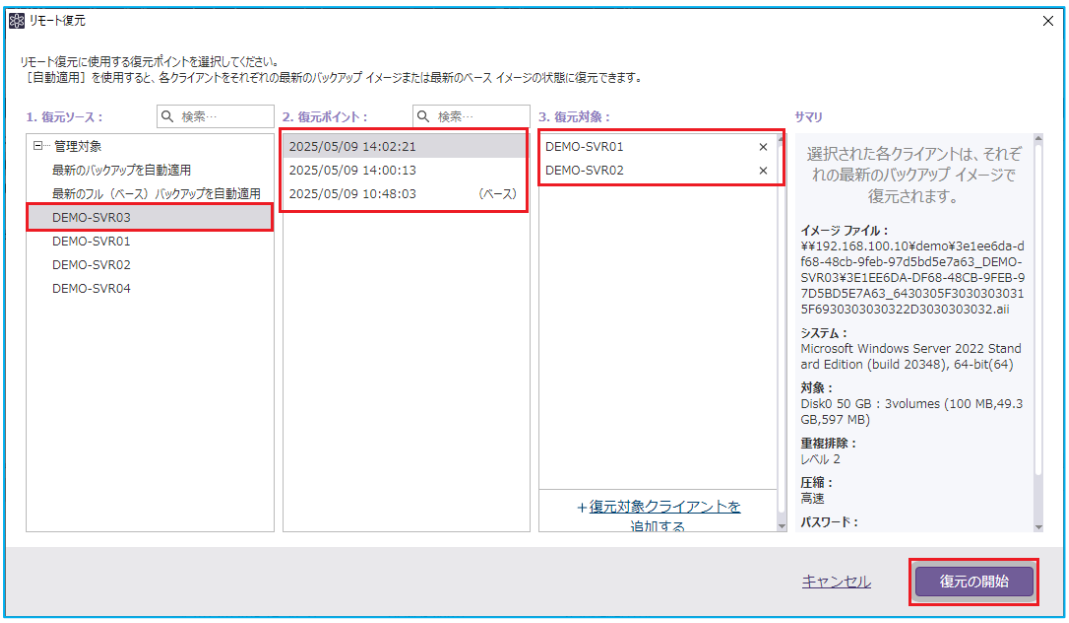


8. 右クリックメニューから[システム再起動]をクリックして、システムを再起動して正常動作を確認します。
これで、リモート復元機能からの PXE 起動した対象のコンピューターへの復元は完了です。

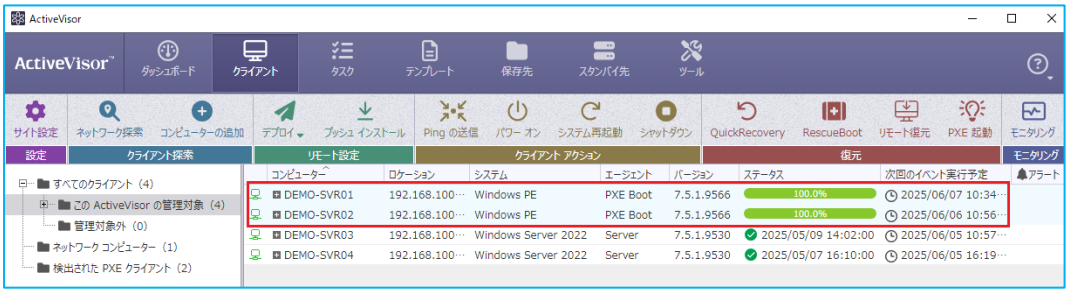


9. １つのバックアップを指定して、複数のコンピューターへ同時に復元することができます。
設定例として、 以下の様に[DEMO-SVR03]の復元ポイントを指定して、復元先にバックアップ元とは異なる PXE 起動した [DEMO-SVR01]と[DEMO-SVR02]を選択します。復元対象のコンピューターと復元ポイントを確認後に、[復元の開始]をクリックします。

※ この復元処理は、各コンピューター間でデータの送受信を行うため、ネットワークに障害が発生すると、処理が止まる場合があります。



10. [ステータス]のプログレスバーが 100%になったら、１つのバックアップから PXE 起動した複数の復元対象のコンピューターへの復元は完了です。

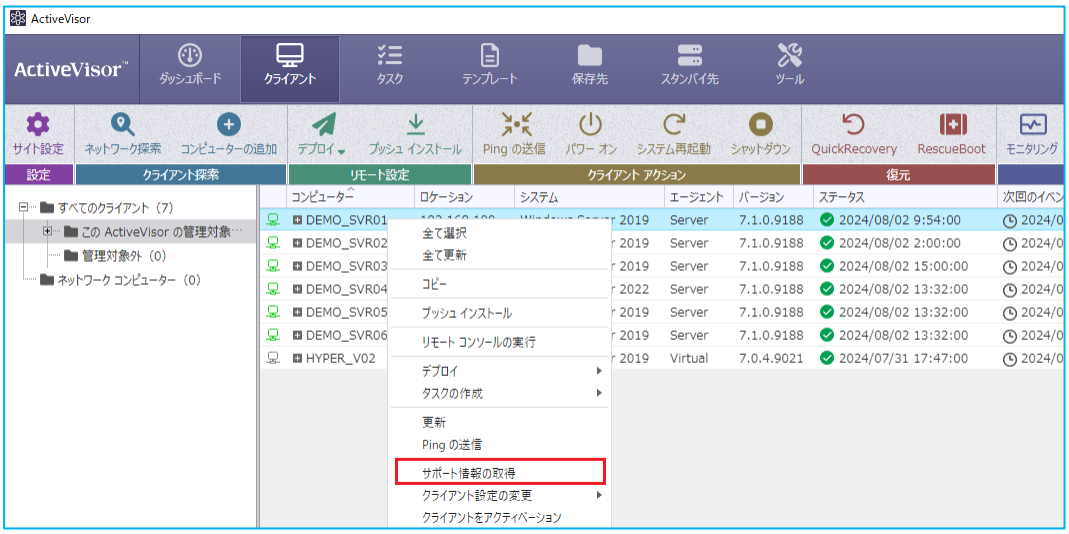


7. APPENDIX

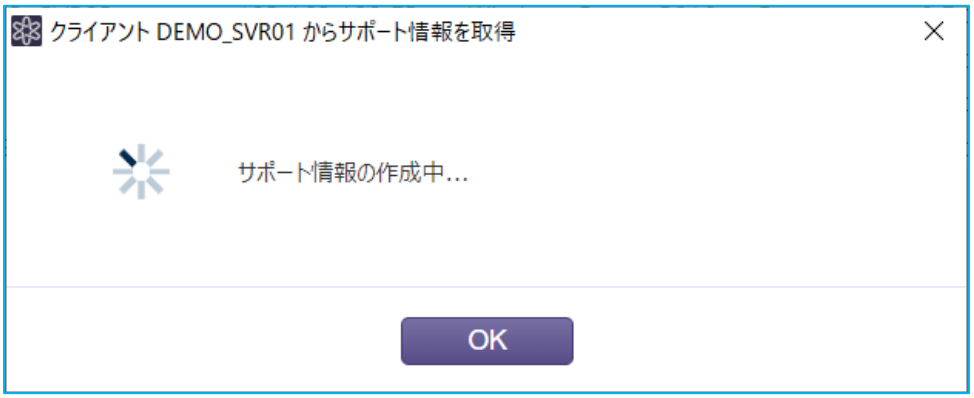
サポート情報の取得方法

アクティファイにサポートを依頼する時に必要なクライアントの情報が必要になります。エージェントのみをインストールした管理対象コンピューターでは、ActiveVisor から生成するのが便利です。サポート情報ファイルは ActiveVisor のローカルフォルダーに ZIP ファイルとして生成されます。

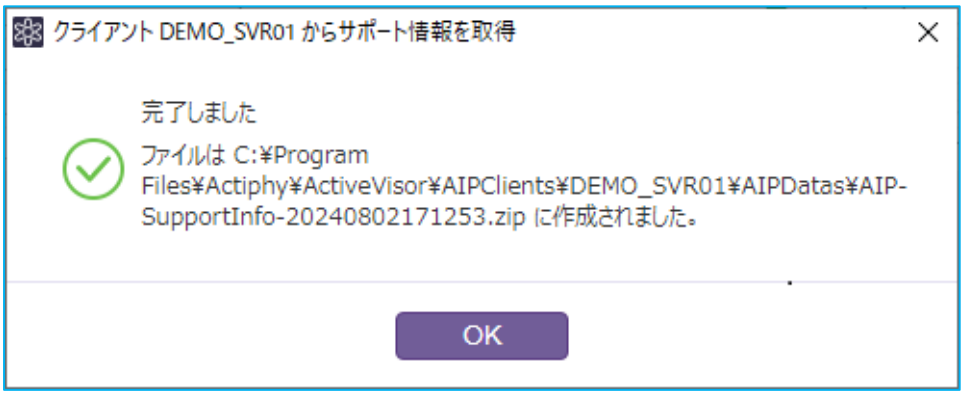
1. ActiveVisor のクライアントリストから管理対象コンピューターを右クリックして、コンテキストメニューの［サポート情報の取得］をクリックします。



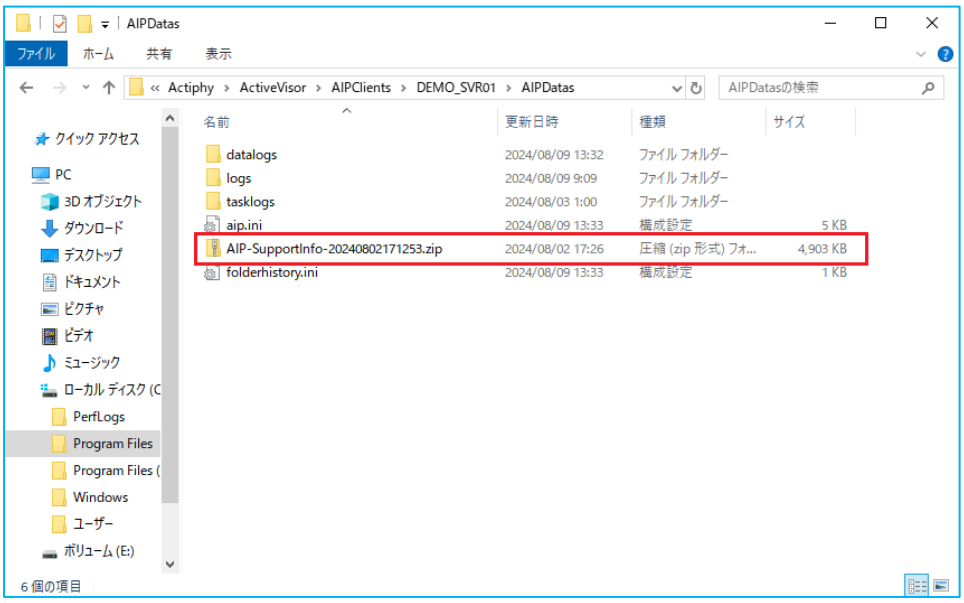
2. サポート情報生成中のダイアログが表示されます。



3. 生成が完了すると、サポート情報ファイルを保存したパスが表示されます。



4. 表示された保存パスの場所にサポート情報ファイルが作成されますので、サポート依頼時に添付してください。



ActiveVisor 参考情報

アクティファイの Web サイト

製品情報の他、各種資料やサポート情報、アップデートなど、総合的にご案内しています。

https://www.actiphy.com

ActiveImage Protector の FAQ

サポート情報のデータベースです。

https://actiphyhelp.zendesk.com/hc/ja/sections/13451048765081

ActiveVisor に関するお問い合わせ先：

株式会社 アクティファイ

営業本部

E-mail:sales@actiphy.com

TEL: 03-5256-0877

FAX: 03-5256-0878

© 2025 Actiphy, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社アクティファイに所有権および著作権があります

本ガイド中のその他のブランド名及び製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。